

# EUROPE IN TURMOIL

THE INTERBELLUM YEARS 1920-1939

*game design by Kris Van Beurden*



**Compass Games**  
*New Directions in Gaming*

日本語解説書

## 目次

|                       |    |                      |    |
|-----------------------|----|----------------------|----|
| 1.0 はじめに .....        | 2  | 10.0 得点 .....        | 14 |
| 2.0 内容物 .....         | 2  | 11.0 迅速開始の注釈 .....   | 15 |
| 3.0 ゲームのアセットアップ ..... | 6  | 12.0 大恐慌シナリオ .....   | 18 |
| 4.0 ゲームのシークエンス .....  | 7  | 13.0 宥和シナリオ .....    | 22 |
| 5.0 カードのプレイ .....     | 8  | 14.0 デザイナー・ノート ..... | 25 |
| 6.0 オペレーション .....     | 9  | 15.0 カードの注釈 .....    | 26 |
| 7.0 イベント .....        | 12 | 16.0 再軍備の注釈 .....    | 36 |
| 8.0 穏健度 .....         | 13 | 17.0 プレイの例 .....     | 39 |

## 1.0 はじめに [INTRODUCTION]

第一次世界大戦は終結しました。ヴェルサイユ条約が調印されて批准され、ヨーロッパの生活は徐々に正常化しつつありました。経済的困難に直面する国もありましたが、全体としては繁栄が続きました。文明世界は、ここに爛熟期を迎えました。米国は加盟しなかったものの、国際連盟が集団的安全保障を確保し、最終的には大戦の敗戦国と除け者のソヴィエトまでもが加盟しました。永遠の平和は手の届くところにあるように思われました。埋もれずに生い茂っていた緊張が再び芽生えるまでは。



(Errata) マップ上のアクション記録欄は、8つのみのボックスを持ちます。9つ目は誤りです。

1929年の証券取引所の崩壊は、世界的な大恐慌を引き起こしました。やがて国粹主義、保護主義、反ユダヤ主義が再び右翼の大衆迎合主義者のレニビとなりました。政治的な対立軸の反対側では、共産主義のロシアが孤立したロシアを守ろうとするスターリン主義者と、資本主義世界全体に革命を広げようとうずうずしている国際主義者との間で分裂していました。ヨーロッパは、再び混乱の渦中にありました。

**Europe in Turmoil II : 戦間期**では、プレイヤー諸氏は左翼 (LW) と右翼 (RW) の政治的志向勢力を代表します。ヨーロッパの政治的景観の覇権をめぐる対立する勢力だけでなく、自陣営側の過激派にも直面します。過激派の力を利用することは短期的には有益ですが、長期的に見ればその協力は穏健派の破滅を招くかもしれません。

## 2.0 内容物 [COMPONENTS]

**Im Europe in Turmoil II : 戦間期**は、以下を含みます。:

- ・ 4枚のカウンター・シート
- ・ このルール小冊子
- ・ 22"x34"マップ
- ・ イベント・チャート
- ・ 再軍備チャート
- ・ プレイヤー補助
- ・ 110枚の戦略カード
- ・ 2個の六面体サイコロ
- ・ 15個の青キューブ
- ・ 15個の赤キューブ



# THE INTERBELLUM YEARS 1920-1939



## 2.1 ゲーム・マップ [Game Map]

2.1.1 マップは、6つの領域（フランス、大英帝国、ドイツ、スペイン、イタリア、小協商国）並びに得点領域の一部ではないいくつかの独立諸国（例えば、ベルギー、ポルトガル、スウェーデン...）に分割されます。同じ得点領域に属しているスペースは同じ地色と同じ境界濃淡を共有し、それぞれが同じ国家紋章を上部に持ちます。得点領域に属していない全てのスペース（すなわち、独立諸国）は、同じ地色を共有します。



2.1.2 マップ上の各スペースは、国（例えばベルギー）又は国内の国民副次グループ（例えば、スペイン・カトリック教会、小協商国得点領域内のズデーテンランド・スペースのドイツ系ズデーテン人）をあらわします。

2.1.3 スペースは、マップ上のラインを介して他のそれと連結します。あるスペースは、連結した他の全てのスペースに隣接していると見なされます。

**注釈:** 同じ得点領域からの全てのスペースが連結されている必要はありません。以下は、余すところのない、そのような飛び地のリストです。: フランス委任統治領シリアとレバノン (フランス)、エジプト、ジブラルタル、イギリスの委任統治領パレスチナ (大英帝国)、東プロイセン (ドイツ)、ドデカネス (イタリア)。

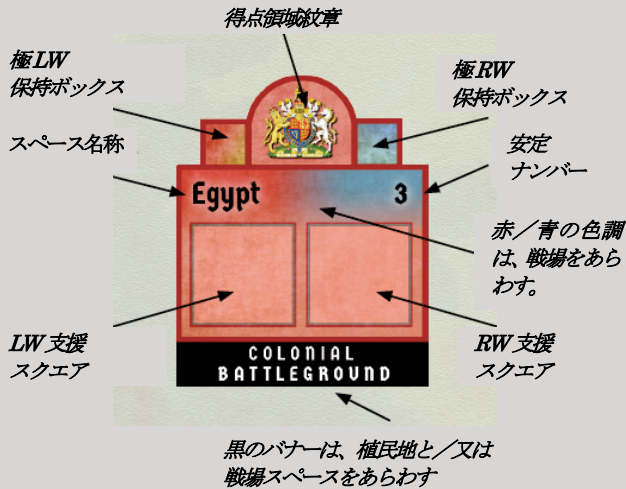
2.1.4 各スペースは、そのスペース全体の安定度、独立性、勢力をあらわしている安定ナンバーを持ちます。このナンバーは、スペースを支配するために必要な支援を判定し、支援チェックへのスペースの抵抗能力もあらわします。マップ上の各スペースは、その支援ポイントが、スペース内の相手側支援ポイントを少なくともスペースの安定ナンバーだけ超過した陣営によって、非支配下又は支配下のどちらかです。



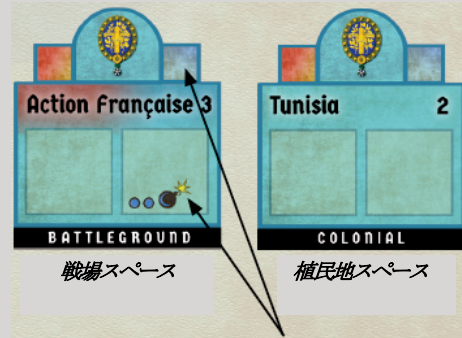
**例:** 東プロイセンのスペースは、4の安定ナンバーを持ちます。左翼プレイヤーは、スペース内に右翼の支援より4多い左翼支援があると、このスペースを支配します (例えば、4と0、5と1)。

ルールブック内に見られる略号:

- LW=左翼 [Left Wing]
- RW=右翼 [Right Wing]
- OP=オペレーション・ポイント [Operation Point]
- SP=支援ポイント [Support Point]
- LE=小協商国 [Little Entente]
- UK=大英帝国 [United Kingdom]



非植民地スペース / 非戦場スペース



シンボルは、セットアップ中に2RW SPがRW支援スクエア内に置かれなければならない、1極右過激派が極RW保持ボックス内に置かれなければならないことを意味する。

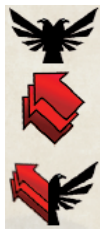
2.1.5 戦場スペースは特別な地色を持ち、最下部のバナー内に戦場 [BATTLEGROUND] としてマークされます。得点領域内の他の全てのスペースは、非戦場スペースと呼ばれます。

2.1.6 植民地スペースは、最下部のバナー内に植民地 [Colonial] の文字を持ちます。他の全てのスペースは、非植民地スペースと呼ばれます。

## 2.2 戦略カード [Strategy Cards]

2.2.1 ゲームで使用される 110 枚の戦略カードがあります。各カードは、オペレーション・ポイント値、イベント名、イベントの説明を含みます。何枚かのカードは、引かれたターン中にいつかプレイしなければならない得点 [SCORING] が標記されます。

2.2.2 各カードは、以下のごとく、そのイベントがどちらの陣営に付随するのを示すシンボルを持ちます。:



黒鷲を持つカードは、右翼陣営に付随します。

三重の赤矢印は、左翼陣営に付随します。

他の全てのカードは、どちらの陣営にも付随しません (上記2つのシンボルの混合シンボルを持ちます)。

あなたの相手側に付随するイベントのカード・プレイの選択については、5.2 を参照してください。

2.2.3 カードは、イベント又はオペレーションとして、2つの方法の1つでプレイできます。

2.2.4 多くのカードは、そのイベント名の後にアスタリスクを持ちます。これらのカードがイベントとしてプレイされたとき、ゲームから永久に取り去られます。

2.2.5 そのイベント名が下線を持つカードは、継続中の影響を持ち、その影響が無効化される (又はゲームの終了) までゲーム盤の脇に表面を向けて表示されます。

**注釈:** プレイヤー諸氏は、カード備忘マーカーで下線付イベントのプレイを示すこともできます。大部分のカード備忘マーカーは、その使用のために用意されたゲーム盤上、再軍備チャート、イベント状態チャートの特定スペースを持ちます。

2.2.6 そのイベント名が赤字で書かれたカードは、後続カードのための前提条件です。これらは、その継続中の影響を明確にするため、常に下線付でもあります。

**注釈:** これらの各カードは、それらが可能であることをより容易に調べるため、イベント・チャート上に場所を持ちます。

2.2.7 捨て札されたカード (ゲームから永久に取り去られたのではない) は、引きパイルに隣接するパイル内に表面を向けて置かれます (5.2 の二番目と三番目のドットも参照)。



## 派閥のシンボル

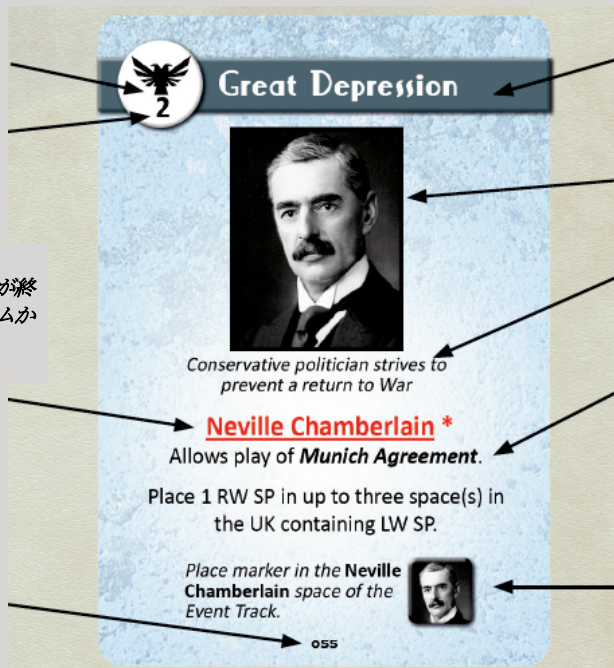
イベントがRW派閥、LW派閥、どちらかの派閥に付随することを示す (2.2.2を参照)。

オペレーション・ポイント

## イベント名

- ・アスタリスクは、イベントが終了したときにカードがゲームから取り去られることを示す。
- ・赤字のタイトルは、そのカードが後のカードのための前提条件であることを示す。

カード番号



戦略カード

## 時代バナー

- カードがゲームに登場する時代:
- ・狂乱の20年代 [Roaring Twenties]
  - ・世界恐慌 [Great Depression]
  - ・宥和 [Appeasement]

イベント・ピクチャー

ピクチャー・テキスト

イベント・テキスト

マーカー・テキスト

イベントが、ゲーム・マップと/又はイベント・チャート上で使用される付随マーカーを持つと、その配置の説明がここに表示される。

## 2.3 マーカー [Markers]

### 2.3.1 盤上の政争は、支援ポイント [Support Point] マーカーによって

管理されます。支援ポイント・マーカー上の数字は、それがあらわす支援ポイント (SPs) の数を示します。プレイヤーがスペースを支配すると (2.1.4を参照)、その支援ポイント・マーカーは、これを示すために暗い面を向けて置かれなければなりません。そうでなければ、明るい面を向けて置きます。



2.3.2 極端な派閥 (と/又は軍事/準軍事組織) は、過激派キューブ [Extremist Cubes] によってあらわされます。LW 過激派キューブは赤色です。RW 過激派キューブは青色です。過激派は、(通常) 戦略カード・イベントのテキストを通して、又は支援チェックの結果として置かれます。過激派キューブは、2頁の図で表示されたごとく、適切な保持ボックス (陣営毎に1つ) 内に置かれます。

過激派キューブは、カウンター内容物によって限定されます。カウンター内容物が枯渇したら、所有者はそれを置く代わりに、すでに盤上にある過激派キューブを置き直しできます。

2.3.3 ゲームには、プレイをアシストするため、その他の様々なマーカーが含まれます。:



アクション・ラウンド [Action Round] マーカーは、各プレイヤーが現行ターンにどれだけ多くのアクションを行ったかを管理するために使用され、ターン [Turn] マーカーは現行ターンを管理するために使用されます。

勢力 [Power] マーカーは、現行勢力の合計を管理するために使用されます。

制裁 [Sanction] マーカーは、各陣営の現行の制裁を管理するために使用されます。

左翼と右翼の穏健度 [Moderation] マーカーは、現行の左翼と右翼の穏健度合を管理するために使用されます (8.0を参照)。

緊張度 [Tension] マーカーは、現行の緊張度合を管理するために使用されます (9.0を参照)。

例: 右翼プレイヤーが「我が闘争 [Mein Kampf]」をプレイするとき、全ての右翼過激派キューブが盤上にあります。右翼プレイヤーは、盤上の他のスペースから、ゼロ、1つ、2つ、3つのいずれかの過激派キューブを置くことができます。



## EUROPE IN TURMOIL II

再軍備進捗 [Rearmament Progress] マーカーは、再軍備チャート上で各国の進捗を管理するために使用されます。7枚の再軍備進捗マーカーがあります (得点領域プラス USSR 毎に1枚)。



### 3.0 ゲームのセットアップ [GAME SETUP]

#### 3.1 マーカーのセットアップ [Marker Setup]



全ての再軍備 [Rearmament] マーカーを、それぞれの再軍備記録欄上の最左端スペースでその国籍バナーを含んでいるスペース内に置きます (UK、フランス、USSR、小協商国の左翼面を上、ドイツ、イタリア、スペインの右翼面を上)。



UK 再軍備記録欄上のそのスペースに 10 年ルール [Ten Year Rule] マーカーを+0面で置きます。



特別緊急介入 [Special Emergency Intervention]、急降下爆撃機ドクトリン [Dive Bomber Doctrine]、急速陸軍拡張 [Rapid Army Expansion]、海軍建設 [Naval Buildup] マーカーを、スペイン、ドイツ、イタリアそれぞれの再軍備記録欄上のスペース上に置きます。



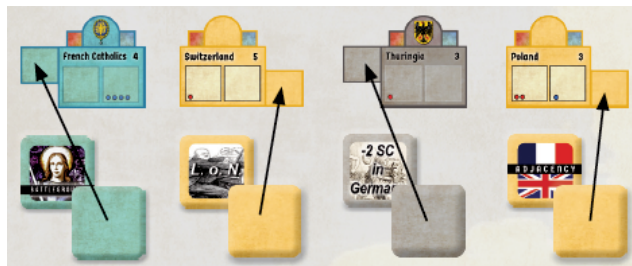
左翼再軍備 [Left Wing Rearmament] と右翼再軍備 [Right Wing Rearmament] のマーカーを、再軍備プレイ補助の右のスペース上に「使用可能 [Available]」面で置きます。



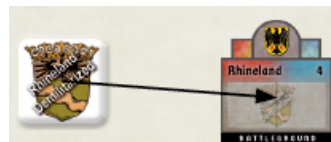
ターン・マーカーを、ターン記録欄の最初のスペース上に置きます。アクション・ラウンド・マーカーを、アクション・ラウンド記録欄の最初のスペース上に、右翼面を上にして置きます。



緊張度 [Tension] マーカーを、緊張度記録欄の「1」スペース上に置きます。



ジャンヌ・ダルクの列聖 [Canonization of Joan of Arc]、ドイツの国際連盟加盟 [Germany Admitted to League of Nations]、ヴァイマル共和国 [Weimar Republic]、ポーランドへの保証 [Guarantees to Poland] のマーカーを (空白面を) フランス・カトリック教会 [French Catholics]、スイス [Switzerland]、テューリンゲン [Thuringia]、ポーランド [Poland] のスペース内にそれぞれ置きます。



ラインラント非武装化 [Rhineland Demilitarized] マーカーを、ラインラント [Rhineland] スペースの中心に置きます。



最後に、勢力 [Power] マーカーを、勢力記録欄上のゼロ・スペース上に置き、右翼と左翼の穏健度マーカーをそれぞれ RW12 と LW10 勢力上に置きます (両方とも穏健 [Moderate] 面を上に向けて)。

#### 3.2 RW の強制 SP セットアップ

##### [RW Mandatory SP Setup]

RW プレイヤーは、マップ上に指定されたごとく支援ポイントを置きます (北アイルランド [Northern Ireland] 1、議会 [Parliament] 2、ベルギー [Belgium] 1、マクデブルク [Magdeburg] 3、東プロイセン [East-Prussia] 3、フィンランド [Finland] 1、バルト諸国 [Baltic States] 1、USSR 1、ポーランド [Poland] 1、ズデーテンラント [Sudetenland] 1、フランス委任統治領シリア [French Mandate for Syria] とレバノン [Lebanon] 1、黒シャツ隊 [Blackshirts] 4、ヴィットリオー・エマヌエーレ III 世 [Victor Emmanuel III] 1、バチカン [Vatican] 2、アクション・フランセーズ [Action Française] 2、フランス・カトリック教会 [French Catholics] 4、スペイン・カトリック教会 [Spanish Catholics] 2、ジブラルタル [Gibraltar] 2、ポルトガル [Portugal] 1)。

#### 3.3 LW の強制 SP セットアップ

##### [LW Mandatory SP Setup]

LW プレイヤーは、マップ上に指定されたごとく支援ポイントを置きます (アイルランド自由国 [Irish Free State] 1、北アイルランド [Northern Ireland] 1、スコットランド [Scotland] 1、北イングランド [North England] 2、ネーデルランド [Netherlands] 1、USSR 3、ポーランド [Poland] 2、バイエルン [Bavaria] 1、ベルリン [Berlin] 1、テューリンゲン [Thuringia] 1、ルーマニア王族 [Romanian Royalty] 1、オーストリア [Austria] 1、ハンガリー [Hungary] 2、イギリス委任統治領パレスチナ [British Mandate for Palestine] 1、カンパニア [Campania] 1、ローマ [Rome] 1、プロヴァンス [Provence] 1、ノール/パ・ド・カレー [Nord/Pas-de-Calais] 2、パリ [Paris] 2、アキテーヌ [Aquitaine] 1、バスク地方 [Basque Country] 2、スイス [Switzerland] 1)。

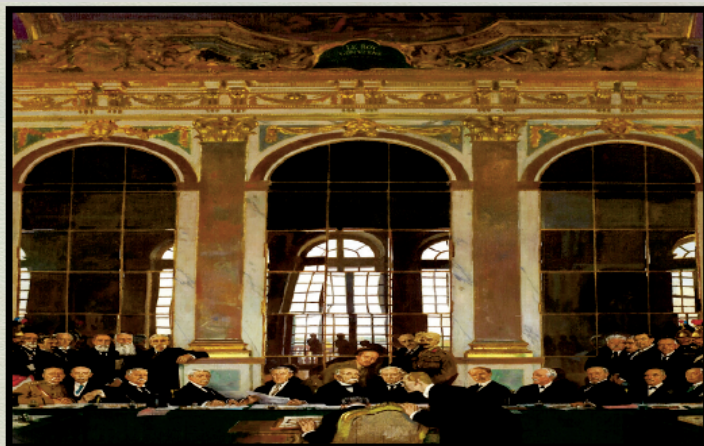
#### 3.4 RW の強制過激派セットアップ

##### [RW Mandatory Extremist Setup]

RW プレイヤーは、以下のスペース内に過激派を置きます。: アクション・フランセーズ [Action Française]、マクデブルク [Magdeburg]、黒シャツ隊 [Blackshirts] (マップ上に示されたごとく)。



## ラインラントとラインラント非武装化マーカー



ヴェルサイユ条約の調印 ウィリアム・オーペン、1919年



戦間期が開始されたとき、ヴェルサイユ条約はラインラントを非武装化しなければならないと明示しました。ラインラント非武装化 [RhineLand Demilitarized] マーカーがラインラント [RhineLand] スペース上にある間、このスペースの名称が特記されない限り、過激派のセットアップ、OPs、イヴェントによって支援ポイントを置くことはできません。ラインラント・スペース内に最初に支援が置かれたときにマーカーを取り去ります。

例：ラインラント非武装化マーカーは、いまだラインラント [RhineLand] スペース内にあります。どちらのプレイヤーも、このスペース内に一般的なイヴェントやOPsで支援ポイント (SP) を置くことができません。後に「ルールの占領 [Ruhr Occupation]」イヴェントがプレイされ、ラインラント・スペース内に5 LW SPが置かれます。支援マーカーの配置に加えて、プレイヤー諸氏はラインラント非武装化マーカーを取り去り、いまやOPsと一般的なイヴェント (どちらかのプレイヤーから) がラインラント内にSPを置けることも示します。

### 3.5 LWの強制過激派セットアップ

#### [LW Mandatory Extremist Setup]

LW プレイヤーは、以下のスペース内に過激派を置きます。： USSR、ハンガリー [Hungary]、ベルリン [Berlin] (マップ上に示されたごとく)。

### 3.6 初期カード引き [Initial Card Draw]

狂乱の20年代 [Roaring Twenties] デッキからのカードをシャッフルし、各プレイヤーに8枚を配ります。プレイヤー諸氏は、その随意セットアップ支援ポイントの配置に先立って、自身のカードを調べることが認められます。

### 3.7 随意支援セットアップ

#### [Discretionary Support Setup]

ここで、各プレイヤーは以下の順番に追加の支援ポイントを置きます。：

- ・左翼プレイヤーが3 SPを置く。
- ・右翼プレイヤーが4 SPを置く。
- ・左翼プレイヤーが2 SPを置く。

これらの支援ポイントは、配置のときに相手側のSPsと／又は過激派 (又はラインラント非武装化マーカー) を持たないいずれかのスペース (たち) 内へ置くことができます。

例：過激派セットアップ・フェイズ中、RWプレイヤーは自身の4 SPのいずれもベルリン [Berlin] スペース内に置けません。なぜならば、そこにLWマーカーを含むからです。

### 3.8 随意過激派セットアップ [Discretionary Extremist Setup]

両プレイヤーは追加の1過激派を加えますが、右翼プレイヤーが最初で、いかなる過激派キューブ (どちらの陣営の) も含んでいないスペース内のみです。

## 4.0 ゲームのシークエンス [GAME SEQUENCE]

4.1 EUROPE IN TURMOIL II は、10 ターンでプレイされます。各ターンは約2年間をあらわし、各プレイヤーによる7枚の通常カード・プレイを含みます (ターン記録欄に指定されたごとく、ターン5から開始して8枚)。ゲームの開始時、各プレイヤーは狂乱の20年代デッキから8枚のカードを受け取ります。ターン5の開始時、大恐慌デッキが引きパイル内にシャッフルされ (そして、プレイヤー諸氏はターン毎に9枚のカードを引き始めます)。ターン7の開始時、宥和デッキが引きパイル内にシャッフルされます。

4.2 手番プレイヤーとは、現行アクション・ラウンドをプレイしているプレイヤーです。

4.3 引きデッキ内にカードが残っており、あるプレイヤーがカードを引く必要があるとき、新たな引きデッキを形成するため全ての捨て札をリシャッフルします。名称内にアスタリスク (\*) を持つカードは、そのイヴェントが発生したとき (捨て札される代わりに) にゲームから取り去られ、新たな引きデッキ内にシャッフルされないことに注意してください。

4.3.1 ターン5と7を除き、リシャッフルの前に引きデッキ内に残っている全てのカードを配ります (4.4を参照)。

4.4 狂乱の20年代デッキから大恐慌へ、又は大恐慌から宥和へ移行しているとき、デッキに捨て札を加えず、代わりに大恐慌又は宥和カード (適切な方) を存在しているデッキに加えてリシャッフルします。無視された捨て札は、このとき捨て札パイル内に留まりませんが、次のリシャッフルでデッキ内にリシャッフルされることになります (4.3を参照)。

## 4.5 ターンのシークエンス [The Turn Sequence]

EUROPE IN TURMOIL II のターンは、以下のシークエンスを持ちます。:

1. 戦略カードの配布
2. アクション・ラウンドのプレイ
3. 保持カードの確認
4. ターン・マーカーの前進並びに再軍備可用性マーカーのリフレッシュ
5. 最終得点の計算 (ターン 10 の後又はフェイズ 2 中に戦争が誘発されたら)

**4.5.1 戦略カードの配布 [Deal Strategy Cards]:** プレイヤー諸氏は、その合計手札枚数が 8 枚になるまで十分な数の戦略カードを受け取ります (ターン 5 から開始して 9 枚)。最初のカードは右翼プレイヤーに配られ、次いで配布は両プレイヤーが完全な手札枚数を受け取るまで交互に配布しなければなりません。

**4.5.2 アクション・ラウンド [Action Rounds]:** 各プレイヤーは、7 つのアクション・ラウンドを受け取ります (ターン 5 から開始して 8 つ)。プレイヤー諸氏は交代でアクション・ラウンドを行い、ラウンド毎に 1 枚の戦略カードをプレイします。右翼プレイヤーは、常に自身のアクションを最初に行い、左翼プレイヤーが続きます。

各カードによって要求された全てのアクションは、次のプレイヤーがカードをプレイすることによって自身のアクション・ラウンドを開始する前に解決しなければなりません。

自身のアクション・ラウンドを行っているプレイヤーは、「手番プレイヤー」と呼ばれます。

- 元々、プレイヤーは全てのアクション・ラウンドの完了後に 1 枚以上のカードを残すことになります (通常は 1 枚)。これらのカードは「保持」と見なされ、続くターンでプレイできます。得点カードは決して保持できず、引かれたターン中にプレイされなければなりません。
- 何らかの理由により、アクション・ラウンドの開始時にプレイヤーがプレイするための手札を持たなければ、そのアクション・ラウンドを放棄しなければならず、アクションを行いません。



**ROARING TWENTIES**

The great French Wall – French military prepares for a defensive war

**Magnot Mentality \***

LW player must spend their next two scheduled action rounds making consecutive free **Rearmament** attempts on the French **Rearmament** track. Reduce the number of affected rounds to one if the Alsace-Lorraine space is LW-controlled at the time of playing this card.

Place marker on top of round marker on appropriate side. Flip or remove marker (as appropriate) whenever a mandatory **Rearmament** attempt is made.



**Great Depression**

Highest Command fears French and British reaction

**German Generals Object \***

During their next two scheduled action rounds, RW player may only play cards for Operations (with -2 OPs to a minimum of 1). Reduce number of affected action rounds to one if at least three Scoring regions dominated (and/or controlled) by LW player.

Place marker on top of round marker "2 AR" side up. When round marker moves to next space, flip marker to "1 AR" side. When round marker moves to next space, remove it.

2 枚のカード (「マジノの精神性 [Magnot Mentality]」と「ドイツ軍将軍の目的 [German General Object]」は、アクション・ラウンドの特別な使用を強制します (それぞれ、継続する再軍備の試み並びに継続するオペレーション・ラウンド、6.0 を参照)。得点カードは、常にこれら戦略カードの影響に優先します。

**例:** 左翼プレイヤーは「マジノの精神性」の影響下にあり、次の 2 連続アクション・ラウンドでフリーの再軍備の試みを行わなければならないことを意味します。左翼プレイヤーは、このターンに 1 アクション・ラウンドのみを残して持ち、得点カードを保持しています。左翼プレイヤーは得点カードをプレイしなければならず、連続した再軍備の試みは次のターンの最初の 2 アクションに「繰り越し」となります。

**例:** 左翼プレイヤーは「マジノの精神性」の影響下にあり、このターンに 2 アクション・ラウンドを残して持ち、得点カードを保持しています。左翼プレイヤーは最初に再軍備の試みを行わなければならない、ターンの最終アクションに得点カードをプレイし、次のターンの最初のラウンド中に最後の強制的な再軍備の試みを行います。

**4.5.3 保持カードの確認 [Verify Held Cards]:** 得点カードは、決して 1 つのターンから次へと保持できません。プレイヤーがターンのこの段階で得点カードを保持していると、そのプレイヤーはゲームに敗北します。得点カードは、最下部に「保持できない [MAY NOT BE HELD]」と書かれているため、非得点カードはカードの下端を明らかにすることによってのみ識別され得ます。

**4.5.4 ターン・マーカーの前進 [Advance Turn Marker]:** ターン・マーカーを次のターンに移します (可能であれば、すでに最終ターンであると 4.5.5 へ進みます)。再軍備可用性 [Rearmament Availability] マーカーをその「使用可能 [Available]」面へ裏返します (まだそうでなければ)。

**4.5.5 最終得点 [Final Scoring]:** ターン 10 の終了時又はフェイズ 2 の緊張度増加のために戦争が勃発しており (9.4 を参照)、ゲームの勝者が未だに判定されていなければ、得点ルールで述べられたごとく最終得点を実行します (10.0)。

## 5.0 カード・プレイ [CARD PLAY]

**注釈:** この項目は、非得点カードのプレイを扱います。得点カードのプレイは、10.0 項で扱われます。

**5.1 カードは、以下の 2 つの方法の 1 つでプレイできます。:** イベント又はオペレーションとして。通常、プレイヤー諸氏は、ターンの終了時に手札を 1 枚保持することになります。他の全てのカードは、イベント又はオペレーションのために使用されます。プレイヤー諸氏は、カードのプレイを辞退するか又は手札からカードを捨てることで、自身のターンを見合わせることはできません。

## 5.2 相手側に付随するイベント

[Events Associated With Your Opponent]

プレイヤーがカードをオペレーションとしてプレイし、しかもカードのイベントが相手側のみに付随すると、それでもそのイベントは発生します (しかも、イベント・タイトルの後にアスタリスクを持つカードであると、取り去られます)。

**例外:** 再軍備の試み (6.3 を参照)。

**注釈:** オペレーションのためにカードをプレイしているとき、それが相手側のイベントを誘発すると、相手側はあたかも自身でそのカードをプレイしたごとくイベント・テキストを実行します。ただし、カードの OPs 値は、常に手番プレイヤーがそのカードをプレイするために受けたオペレーション・ポイントの総数に一致します。





例：左翼プレイヤーは、「ドーズ/ヤング計画 [Dawes/Young Plan]」（ターンの残りについて、受け取るオペレーション・ポイントを+1だけ増加させます）。続くアクション・ラウンドに、左翼プレイヤーは「ホルティ提督 [Admiral Horthy]」戦略カードをプレイします。4 オペレーション・ポイントを受け取りますが、右翼プレイヤーがハンガリー・スペース内で行う支援チェックは、やはり+4だけ修正されます。

- 手番プレイヤーは、そのイベントがオペレーションの実施される前又は後に発生するのかを常に決定します。
- カード・プレイが相手側のイベントを誘発したものの、前提条件カードがプレイされていなければカードはその他カードで進行中の影響を通してプレイされることを妨げられ、又はイベント内に表現された条件を満たしていないためにイベントが発生できなければ、そのイベントは発生しません。この場合、アスタリスク・イベントを持つカード（\*でマーク）は、ゲームから取り去られるのではなく、捨て札パイルに置かれます。



例：左翼プレイヤーは、「ドゥーチェ [Il Duce]」カードをプレイし、一方で「ローマ進軍 [March on Rome]」カードはまだプレイされていません。イベントは実施されず、カードはゲームから取り去られる代わりに捨て札されます。

- カード・プレイが相手側のイベントを誘発したものの（すなわち、全ての前提条件と／又は条件が満たされています）、そのイベント結果が無効であると、それでもイベントはプレイされたと見なされ、アスタリスクを持つと取り去られることになります。



例：左翼プレイヤーは「貿易不均衡 [Trade Imbalance]」カードをプレイし、一方でRWプレイヤーは得点領域を支配していません。このイベントはプレイされたものと見なされ、ゲームから取り去られます。

- 5.3 イベントがプレイヤーにカードの捨て札を強制したら、捨て札カード上のイベントは履行されません。このルールは、得点カードにも適用します。
- 5.4 書かれたルールに逆らうカード・テキストは、書かれたルールに優先します。

## 6.0 オペレーション [OPERATIONS]

非得点カードがオペレーション・カードとしてプレイされるとき、プレイヤーはカードのオペレーション・ポイントの全てを使用するため、以下の3つのオプションの1つを選択しなければなりません。：支援ポイントの配置、支援チェック、再軍備の試み。

### 6.1 支援マーカーの配置 [Placing Support Markers]

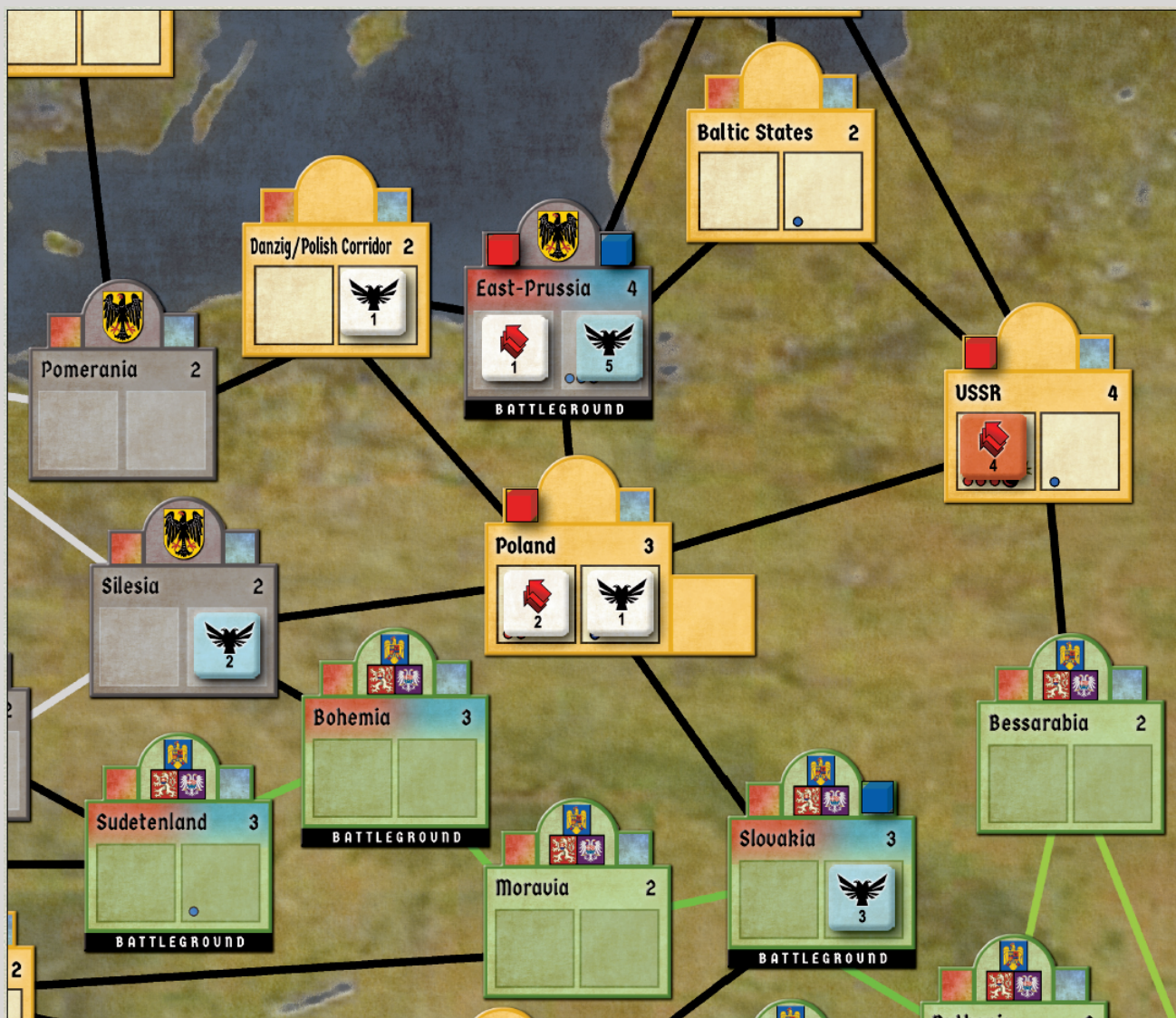
6.1.1 この項目内のルールは、オペレーション・ポイント（OPs）で置かれた支援ポイント（SPs）のみに適用します。イベントによって置かれた支援ポイントは、どこにでも置くことができます（隣接と支配は無視します）。

6.1.2 SPs は、同時に1つが置かれます。ただし、全てのSP マーカーは、最初の SP が置かれる前にスペース内にあった友軍 SP マーカーと共に、又はそれに隣接させて置かなければなりません。二者択一で、SP は友軍過激派キューブを含んでいるスペース内に置くことができます。

デザイン・ノート：これは、同じアクション中に SPs を鎖状に置くことを妨げます。

6.1.3 友軍支配下又は非支配下のスペース内に SP を置くために、1 オペレーション・ポイントがかかります。相手側支配下のスペース内に SP を置くために、2 オペレーション・ポイントがかかります。スペースの支配状態が SPs を置く間に変化すると、そのアクション・ラウンド中に置かれた追加のポイントは、低いコストで置かれます。





例：右翼プレイヤーは3 OPs 値のカードをプレイし、支援チェックを行うことを宣言します。現在、2LW SP と1LW 過激派キューブを含んでいる Poland スペースを選択します。

Poland は3の安定ナンバーを持ち、6の目標ナンバーに二倍化されます。1のサイの目を振り、カードのOPs 値の3を加えます。更なるサイの目修正を判定するため、Poland に隣接する5つのスペース（並びに Poland 自体）をチェックします。

- Danzig/Polish Corridor は現在非支配下で（1RW SP のみを含む）過激派を含まないため、サイの目を修正しません。
- East-Prussia は現在 RW 支配下で（5RW SP と1LW SP を含む）1RW と1LW 過激派を含み、合計で+1の実質修正です。
- USSR はLW 支配下で（4LW SP を含む）1LW 過激派を含み、合計で-2の修正です。
- Slovakia はRW 支配下で1RW 過激派を含み、合計で+2の修正です。
- Silesia はRW 支配下で、+1の修正です。
- Poland それ自体は1LW 過激派を含み、-1だけ結果を修正します。

実質修正は+1です。修正後のサイの目は5で、6の目標ナンバーよりも高くないため何も変更はありません。修正後のサイの目が7であれば（サイの目3）、単一のLW SP が Poland スペースから取り去られていました。修正後のサイの目が9であれば（サイの目5）、全てのLW SP と単一の過激派が Poland スペースから取り去られていました。10+のサイの目修正から開始して（すなわち、サイの目6）、RW SP が加えられます。13の目で（この例からは不可能ですが、可能な異なるDRMsで）全ての左翼支援と過激派が取り去られ、3右翼支援と1右翼過激派が置かれる、可能な最大の結果です。



## 6.2 支援チェック [Support Checks]

6.2.1 この項目のルール (6.2.4 で述べた例外を除く) は、オペレーション・ポイント、得点カード、戦略イヴェントを介して開始した支援チェックに適用します。

6.2.2 支援チェックは、ある国内の相手側支援 (と／又は過激派) を減少させるために使用され、もしも支援チェックに十分成功したら友軍の支援 (と／又は過激派) を追加する可能性があります。

6.2.3 支援チェックのためにプレイされた各戦略カードは、カードのオペレーション値にかかわらず、手番プレイヤーに単一の支援チェックを与えます。

6.2.4 あるスペース内で支援チェックを試みるためには、そのスペースが相手側の SPs と／又は過激派を持たなければなりません。

**例外:** 特定の名称付スペース (例えば、「ミュンヘン・ビアホール一揆 [Munich Beer Hall Putsch]」、「ホルティ提督 [Admiral Horthy]」) を目標にしたイヴェント・テキストを介して開始された支援チェックは、たとえそのスペースがいかなる敵対マーカースを含まなくても実施されます (並びに、そのように友軍支援の増加と／又は友軍過激派の追加のために使用できます)。

6.2.5 支援チェックを解決するため、目標スペースの安定ナンバーを二倍にします (×2)。次いでサイを1つ振り、サイの目にプレイしたカードの OPS 値を加えます。

以下により、更なるサイの目修正があります。:

- ・ +1 隣接している各友軍支配下スペースについて
- ・ +1 目標スペース内又は隣接する各友軍過激派について
- ・ -1 隣接している各相手側支配下スペースについて
- ・ -1 目標スペース内又は隣接する各相手側過激派について
- ・ 目標スペース内の SPS 自体は、いかなる方法でもサイの目を修正しません。

6.2.6 修正後のサイの目が二倍化された安定ナンバーよりも大きければ、支援チェックは成功です。この二倍化された安定ナンバーの超過を達成した各ポイントについて、以下を行います (順番に):

- ・ 目標スペースから相手側の SP を取り去ります。
- ・ 相手側の SP を取り去った後で超過ポイントが残ると、相手側の過激派も取り去ります。
- ・ 相手側の過激派を取り去った後で超過ポイントが残ると、友軍 SP を加えます (ただし、決して支配のために必要な数を越えられず、安定ナンバーと同数までです)。
- ・ 超過ポイントが残ると、まだスペース内に友軍の過激派がなければ、単一の友軍過激派を置きます。

## 6.3 再軍備 [Rearmament]

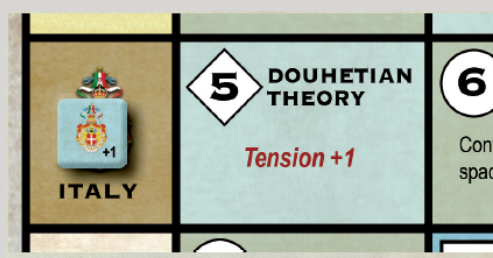
6.3.1 Europe in Turmoil II には7つの再軍備記録欄があり、スペイン、イタリア、UK、フランス、ドイツ、小協商国、ソヴィエトについて各1つの再軍備です。各記録欄上は再軍備進捗マークで、その左翼+1面又はその右翼+1面のどちらかです。各記録欄は異なる長さを持ち、ゲームの影響を含んでいる進捗ボックスで構成されます。オペレーション・ポイントは、再軍備進捗マークの前進を試みるために消費できます。

6.3.2 各プレイヤーは、(ターン毎に一度) 再軍備の試みを行うためにカードをプレイできます。それを行うために記録欄を選択し、自身の再軍備可用性マークを「使用可能 [Available]」から「使用不能 [Unavailable]」へ裏返します。進捗マークがまだ右端ボックス上にないいずれかの記録欄は、再軍備マークが上を向けた面にかかわらず、選択することができます。いったん記録欄が選択されたら、試みを行っているプレイヤーはサイ振りを行い、カードのオペレーション値を合計に加えます。

以下によりこの合計を修正します。:

- ・ +1 カードがプレイヤーの陣営に付随すると (例えば、自身の再軍備の試みを行うため、左翼プレイヤーが左翼に付随するカードを使用する)。
- ・ +1 再軍備進捗マークがそのプレイヤーの「+1」面に裏返されている。
- ・ +X (様々な修正、戦略カード・イヴェントと／又は再軍備進捗ボックスからの結果)。

6.3.3 修正後の合計が、選択した再軍備記録欄上の左端非到達進捗ボックス (ボックス内に記載) へ前進させるために要求されるナンバー以上であると、選択した再軍備進捗マークをそのボックスへ前進させ、マークを試みているプレイヤーの「+1」面に裏返します (まだそうでなければ)。さもなければ、進捗マークを移動させることなしで、その「+1」面に裏返すのみです (まだそうでなければ)。



**例:** イタリア再軍備進捗マークが、右翼面でまだ開始スペース上にあります。左翼プレイヤーは「ドゥーエ理論 [Douhetian Theory]」進捗ボックスへ到達するために再軍備の試みを行い、3 OPS を持つ右翼イヴェントを捨て札します。「1」のサイ振りを行い、4に修正されます。「ドゥーエ理論」ボックスは、5の前進ナンバーを持ちます。試みに失敗したのでマークは移動しませんが、その「左翼」+1面に裏返されます。イタリア再軍備記録欄での続く試みで、左翼プレイヤーは+1ボーナスを受取り、マークはこの面に留まります。左翼プレイヤーが2以上を振っていたら、マークは「ドゥーエ理論」ボックスへ移動しており、緊張が1だけ増加してやはりマークも「左翼」+1面へ裏返されていました。

6.3.4 再軍備進捗に到達したとき、プレイを継続する前にボックスの全ての影響を実施します。

**例外:**「ワシントン海軍条約 [Washington Naval Treaty]」の影響は 6.3.4 に優先され、進捗ボックス実行の前に実施されます。

6.3.5 イベント・プレイと／又は再軍備ボックスからの影響を介して獲得した試みは、「フリー」再軍備の試みと呼ばれ、6.3.2 条項の「ターン毎に1」に対してカウントせず、戦略カード・イベントを通して獲得した再軍備の前進も同様です。これらの試みは、そのプレイヤーの再軍備可用性マーカーの現在の状態にかかわらず行うことができ、そのマーカーに影響を持ちません。

**例:**「マジノの精神性 [Maginot Mentality]」戦略カードの影響下の左翼プレイヤーは、フランス再軍備記録欄上で2再軍備の試みを行い、その再軍備可用性マーカーは「使用可能」面にあります。左翼プレイヤーは、まだこのターン中にフランス再軍備記録欄上又は他の再軍備の試みを行うことができます。

特記されない限り（例えば、「機動戦の創始者 [Mechanised Warfare Pioneers]」）、フリーの再軍備の試みはそれでもそのオペレーション・ポイントについてプレイするためのカードを要求されます。

**例:**左翼プレイヤーは3Opsを持つRWイベントを捨て札し、「UK 実験機械化部隊 [Experimental Mechanized Force UK]」再軍備進捗ボックス到達に成功しました。左翼プレイヤーは、フリーの1再軍備の試みを行うことができます。それを行うため、追加の1枚を捨て札して別のサイ振りを行わなければなりません。

6.3.6 イベントに関して、プレイヤーが複数の連続した再軍備を行わなければならないとき、このターンに残っている十分なアクション・ラウンドがなければ、ターンを跨いで行われます（4.5.2 を参照）。

6.3.7 カード上のテキストにかかわらず、再軍備の試みとしてプレイされたカードのイベントは履行されません。カードは、捨て札パイル内に置かれます。

**例外:**何枚かのカードは、再軍備のためにプレイされた場合のみ発生する、戦略イベント項目内のテキストを持ちます。

6.3.8 その進捗マーカーが再軍備記録欄の右端ボックスに到達したとき、緊張度が1だけ増加します。ここから、その進捗マーカーが右端ボックス内に留まる間、その記録欄は再軍備の試みが不可能です（戦略カード・イベントによって提供された試みを含む）。イベントがこのような記録欄を前進させると（試みを行うことなく）、代わりに緊張度が1だけ増加します。

6.3.9 「赤軍大粛清 [Red Army Purges]」戦略カード・イベントは、USSR 再軍備進捗マーカーを後退させる可能性があります。これが発生したら、進捗マーカーからの更なるイベント結果なしで、進捗マーカーを2ボックス左へ（又は2未満の前進が行われていたら可能な限り）移します。進捗マーカーが再び到達したら、明らかにされていないボックス上に記載された影響が再び発生することになります。

6.3.10 イベント（しかも再軍備の試みではない）のためにマーカーが前進又は後退しているときはいつでも、マーカーを裏返しませ

6.3.11 進捗ボックスは、一定の戦略イベントとマーカーのために空軍、陸軍、海軍のボックスに分割されています。

## 7.0 イベント [EVENTS]

### 7.1 ルールの概要 [General Rule]

カードが手番プレイヤー又は両プレイヤーのどちらかに付随したプレイ可能なイベントを持つと、オペレーションの代わりにイベントとしてプレイできます。

### 7.2 進行中のイベント [Ongoing Events]

何枚かのイベント・カードは、後のイベントのためにキャンセルされるまで有効で留まります。いくつかのイベントは、ゲームの期間中又はあるターンの期間中継続します。このようなカードがイベントとしてプレイされたとき、それらをマップの脇に置くか又は進行中の影響の備忘として、マップ又はイベント状態チャート上にそのマーカーを置きます。進行中のイベントは、下線付のイベント名を持ちます。

### 7.3 OPs 値を修正するイベント

[Events that Modify OPs Values]

7.3.1 何枚かのイベント・カードは、同じターンの後にプレイするカードのオペレーション値を修正します。これらの修正は、一緒にして適用されなければならない、最初に全ての負の修正（最低限度の適用を含む）と次いで正の修正のみです。

**例:**左翼プレイヤーに「ドーズ／ヤング計画 [Dawes/Young Plan]」が有効で、低健康度（8.3 を参照）のため-1 OPs 減少も持ちます（最低1）。左翼プレイヤーが2 OPs カードをプレイしたとき、最初に1減少させ、次いで再び2増加させます。左翼プレイヤーが1 OPs カードをプレイしたとき、減少させませんが（最低1）、後に「ドーズ／ヤング計画」のために2へ増加させます。

7.3.2 カードのオペレーション値を修正しているイベントは、1人のプレイヤーにのみ適用し、全ての目的においてそうします（ただし、5.2 を参照）。

### 7.4 OPs カードのようにプレイするイベント

[Events That Play Like OPs Cards]

あるプレイヤーがオペレーションを実施できるとイベントが述べると、支援を置くか、又はあたかも一定のオペレーション値のカードとしてプレイしたごとく支援チェックを行うことができ、これら追加のオペレーションはあたかもカードがそのオペレーション値のためにプレイされたごとく扱われます。それ故、これらのオペレーションは、ルール 6.1 の全ての制限に従い、他のイベントはその数値又は使用（又は1 OPs の増加）を制限します。

**例:**右翼プレイヤーは、「ドーズ／ヤング計画 [Dawes/Young Plan]」の影響下で、ドイツの得点カードをプレイします。右翼プレイヤーは3 OPs 支援チェックを行い、「ドーズ／ヤング計画」のお陰で代わりに4 OPs に増加します。

**例:**左翼プレイヤーは低健康度を持ち、-1 OPs 減少を持ちます。ドイツの得点カードをプレイするとき、2 OPs 支援チェックのみを行います。

### 7.5 プレイ不能イベント [Unplayable Events]

他のイベント・カードによるキャンセル又は制限のためにイベントがプレイ不能になるか、又は未だにプレイされていない要件イベントのためにプレイ不能であると、プレイ不能イベント・カードはそれでもそのオペレーション値のために使用できます。

7.6 プレイしているカードの健康度の影響のため、8.3 を参照。



## 8.0 穏健度 [MODERATION]

| POWER |    |    |    |    |   |    |    |    |    |                            |
|-------|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----------------------------|
| 5     | 4  | 3  | 2  | 1  | 0 | 1  | 2  | 3  | 4  | Washington<br>Treaty (100) |
| 10    | 9  | 8  | 7  | 6  |   | 10 | 9  | 8  | 7  | 10                         |
| 15    | 14 | 13 | 12 | 11 |   | 11 | 12 | 13 | 14 | 15                         |
| 20    | 19 | 18 | 17 | 16 |   | 16 | 17 | 18 | 19 | 20                         |

### 勢力記録欄

8.1 各プレイヤーの穏健度は、勢力記録欄上で管理されます。穏健度は、増減する可能性があります。

8.2 プレイヤーの穏健度が増加するときはいつでも、その穏健度マーカーを記録欄のそれぞれの側へ 20 に接近するよう 1 スペース移します。プレイヤーの穏健度が減少するときはいつでも、その穏健度マーカーを記録欄のそれぞれの側へ 0 に接近するよう 1 スペース移します。プレイヤーの穏健度が 0 に到達したとき、緊張度を 1 だけ増加させます。プレイヤーの穏健度が減少したもののすでに 0 であると、制裁を獲得して代わりに制裁 [sanction] マーカーを受け取ります。

8.3 勢力 [POWER] マーカーがプレイヤーの穏健度よりも高いときはいつでも、そのプレイヤーの穏健度マーカーを (穏健 [Moderate] から過激派 [Extremist] へ) 裏返します。この状況が継続する間、そのプレイヤーによって受け取られた全 OPs は 1 だけ減少し、最低は 1 です [例外: 再軍備の試みは、その OPs 減少を持ちません]。勢力が再びそのプレイヤーの穏健度以下になると、マーカーをその穏健陣営のマーカーへ戻して罰則を終了させます。

**注釈:** 手番プレイヤーは、イベントが OPs 使用前又は OPs 使用の後に発生したか決めることを忘れないでください (5.2 を参照)。8.3 からの減少は、OPs が使用されたときに発生します。あるイベントが、手番プレイヤーの穏健度を超えて勢力を増加させたら、カードの OPs は直ちに 1 だけ減少し、最低は 1 です (逆もまた同様)。



**例:** LW の穏健度は LW5 で、勢力は現在 LW6 です。LW プレイヤーによって受け取られる全 OPs は、現在 1 だけ減少しています。LW プレイヤーは「国会議事堂炎上 [Reichstag Fire]」戦略カードをプレイし、RW 勢力を 2 だけ増加させます。勢力は、LW 4 へ移します。LW プレイヤーは、穏健度マーカーを裏返します。LW プレイヤーは、続いて 2 OPs を受け取ります。LW プレイヤーがイベントの前に OPs を使用していたら、代わりに 1 OP を受け取っていました。

8.4 勝利への穏健度の影響については、10 を参照してください。

## 9.0 緊張度&戦争勃発 [WAR BREAKING OUT]

| WAR |
|-----|
| +5  |
| 10  |
| +4  |
| 9   |
| +3  |
| 8   |
| +2  |
| 7   |
| +1  |
| 6   |
| 5   |
| 4   |
| 3   |
| 2   |
| 1   |
| 0   |

9.1 様々なゲームの影響 (イベント、再軍備進捗ボックスと/又はルール) は、緊張度の増加 (又は稀に減少) をもたらします。

9.2 緊張マーカーは、以下の 2 タイプのスペースから構成される緊張度記録欄上に上下します。:

- ・ 0 ~ 5 の番号付スペース
- ・ それぞれサイの目修正ナンバー (+#) を持つ、6 ~ 11 の番号付スペース。

9.3 緊張度が 0 で減少させなければならないと、代わりに緊張度の減少を実施しなかったプレイヤーに +1 勢力を与えます。

**注釈:** これは、手番プレイヤーには必要ありません!

**例:** RW プレイヤーが「ワシントン海軍条約 [Washington Naval Treaty]」戦略カードをプレイしたときの緊張度は 0 です。LW のイベントが緊張度を 1 だけ減少させます。緊張度は更に減少できないため、LW プレイヤーは 1 勢力を獲得します。

9.4 緊張度マーカーが、サイの目修正ナンバーを含んでいるスペース内に移動すると、緊張度マーカーを移動させているプレイヤーはサイ振りを行い、修正を加えます。サイの目が 6 よりも高ければ、第二次世界大戦が勃発します (9.5 へ続く)。

## 9.5 第二次世界大戦 [Second World War]

9.4 で戦争が勃発したら、手番プレイヤーは制裁を獲得し、制裁 [Sanction] マーカーを受け取ります。戦略フェイズとゲームを終了させます (10.4.2 を参照)。

**注釈:** 勢力 [Power] 記録欄上のスペースは、LW# と RW# として述べられます。記録欄の左側のスペースは LW# が使用し、記録欄の右側のスペースは RW# が使用します。例えば、LW10 は、LW 穏健度マーカーが開始するスペースです。RW12 は、RW 穏健度マーカーが開始するスペースです。

## 10.0 穏健度 [MODERATION]

ゲームの目標は二重で、ヨーロッパの政策を支配するために勢力の得点だけでなく、穏健を保つために高い穏健度を保つことです。領域的勢力は、6つの得点領域とその植民地並びに周辺内の支援を通して得点されます。勢力は、一定のイベントのプレイ又は再軍備記録欄上での一定ボックス到達を通して受け取ることができます。

各領域は、戦略デッキ内にそれ自体の「得点カード」を持ちます。得点カードのプレイは、その領域と周辺内にあなたの陣営が持つ支援の量と、カードがプレイされるときにその領域にどれだけの安定度があるかを基準に、得点される勢力をもたらします。

得点は、以下のときに領域内で発生します。:

1. ある領域の得点中 (10.1)
2. 全ての領域についての最終得点中 (9.4 と 10.4)

## 10.1 得点カード [SCORING Cards]

10.1.1 以下の用語は、領域得点中に使用されます。:

**影響力 [Presence]**: ある陣営は、その領域内の少なくとも1スペースを支配すると、領域に影響力を持ちます。

**統治 [Domination]**: ある陣営は、その領域内で相手側よりも多くのスペースを支配し、その領域内で相手側よりも多くの戦場スペースを支配したら、その領域の統治を達成します。陣営は、その領域の制圧を達成するため、領域内の少なくとも1つの非戦場と1つの戦場スペースを支配しなければなりません。

**支配 [Control]**: ある陣営は、その領域内で相手側よりも多くのスペースを支配し、その領域内の全ての戦場スペースを支配すると、その領域の支配を持ちます。

ある領域の支配を達成するため、全ての非戦場スペースを支配する必要がないことに注意してください。

10.1.2 あるプレイヤーが影響力、統治、支配を達成していたら、達成した3つのレベルの**最高**について、国の得点カード上に表示された数に一致する勢力を得点します。

10.1.3 各プレイヤーは、領域内で支配する各戦場スペースについて、追加1勢力を得点します。

10.1.4 各プレイヤーは、領域に隣接して支配する各独立国について、追加の1勢力を得点します。

10.1.5 各プレイヤーは自身の勢力を合計し、2つの得点間の実質差を勢力記録欄上にマークします。

10.2 一定カード・イベントのプレイは、得点される勢力の結果となり得ます。

## 10.3 勢力記録欄 [The Power Track]

10.3.1 勢力記録欄は、LW20 (左翼の自動的勝利) から RW20 (右翼の自動的勝利) まで可能性のある得点の範囲を表示します。ゲーム開始時、勢力マーカーをチャート中央の0とマークされたボックス内に置きます。このボックスは、ゼロ・ポイント又は2つの陣営の合計均衡をあらわします。このボックスは、プレイヤーの得点が調整されるときに、スペースとしてカウントしなければなりません。

10.3.2 プレイヤーは勢力を「獲得する」とカードが述べる場合、これは勢力マーカーをそのプレイヤーの有利にスペースを移すことを意味します。例えば、勢力マーカーが左翼の10スペース上にあり (左翼が勝っている)、右翼プレイヤーが2勢力を獲得すると、マーカーは勢力記録欄上の左翼8スペースへ移されます。

10.3.3 両プレイヤーが同じカード又はイベントのプレイから勢力を得点したら、獲得された勢力の差のみを適用します。

**注釈:** 以下は、備忘のための3つの重要な得点ルールです。:

フランスの得点中、フランス・カトリック教会 [French Catholics] スペースは戦場になることができ、ポーランド [Poland] スペースはフランス得点領域に隣接していると見なされ得ます。

If Canonization of Joan of Arc is in effect, the French Catholics space is treated as a battleground space.

If Guarantee to Poland is in effect, the Poland space is treated as an adjacent Independent space.

「ジャンヌ・ダルクの列聖 [Canonization of Joan of Arc]」が有効であると、フランス・カトリック教会 [French Catholics] スペースは戦場スペースとして扱われる。

UK の得点中、ポーランド・スペースは UK 得点領域に隣接していると見なされます。

If Guarantees to Poland is in effect, the Poland space is treated as an adjacent Independent space.

「ポーランドへの保証 [Guarantees to Poland]」が有効であると、ポーランド [Poland] スペースは隣接している独立スペースとして扱われる。

スペイン得点カードは、得点が行われた後でゲームから取り去ります。

Spanish Scoring \*



## 10.4 勝利 [VICTORY]

10.4.1 **自動的勝利** [Automatic Victory]: EUROPE IN TURMOIL II で自動的勝利を達成するための複数の方法があります。:

- 1人のプレイヤーが 20 勢力の得点に到達した瞬間、ゲームは終了してそのプレイヤーは勝者です。

**注釈:** イベント中又は得点カードで得点される全ての勢力獲得 (両プレイヤーについて) は、自動的勝利を判定する前に適用しなければなりません。

- 非合法の保持カード [Illegal Held Card]: プレイヤーがターンの保持カード確認ステップに得点カードを手札に持つと、そのプレイヤーは敗北して相手側は勝者と宣言されます。両プレイヤーが得点カードを保持したら、ゲームは引き分けと見なされます。

10.4.2 **第二次世界大戦勝利** [Second World War Victory]: 第二次世界大戦が勃発したら (9.4 を参照)、勝者を判定するために最終得点を実施します。

10.4.3 **ゲーム終了勝利** [End Game Victory]: ターン 10 の終了までに、どちらの陣営もいかなる種類の勝利も達成していなければ、勝者を判定するために最終得点を実施します。

10.4.4 **最終得点** [Final Scoring]: ゲームが戦争勃発 (10.4.2) 又は最終ターンの終了 (10.4.3) のために終了していたら、各領域はあらかもその領域の得点カードがプレイされたごとく得点されます (この新たな勢力は、現在の得点に加えられます)。

**注釈:** 最終得点中は、いかなる支援チェックも行いません!

各領域の得点は、最終勝利が判定される前に計算されなければなりません。ターン 10 の終了中に 20 勢力に到達することは、自動的勝利の結果ではありません。

後に、両プレイヤーの穏健度を比較します。最低の穏健度を持つプレイヤーは、差に一致する制裁 [Sanction] マーカーを受け取ります。ここで、各プレイヤーは制裁マーカー毎に 2 VP を失います。

**注釈:** 制裁マーカーは、自動的勝利の場合は影響を持ちません。

いったん全ての領域が得点されて制裁マーカーが考慮されたら、勝利が判定されます。

- 勢力マーカーがその陣営の側であるプレイヤーがゲームに勝利します。
- 勢力マーカーが 0 勢力であると、現在最高の穏健度を持つプレイヤーがゲームに勝利します。同数の場合、ゲームは引き分けです。

## 11.0 迅速開始の注釈 [QUICKSTART NOTES]

### 11.0 Europe in Turmoil プレイヤーのために

[For players of Europe in Turmoil]

Europe in Turmoil II: Interbellum (戦間期) は、Europe in Turmoil とルールがかなり類似しています (意図したわけではありませんが!)。この項目では、異なる事柄についての素早い外観を与えることになります。

11.1.1 安定性と動員のデッキはありません。得点カードがプレイされるときに安定度チェックは誘発されず、得点領域内でカード・プレイヤーに支援チェックのみを提供します。同様に、第二次世界大戦は、ゲームのメカニクスを介して解決されません (サイコロ振りのメカニクスを介してでも動員チェックを介してでもありません)。

11.1.2 社会経済アイコンなし。Europe in Turmoil II 内のスペースはアイコンを持たず、スペースの部分集合を示すカードはありません。

#### 例外: 植民地スペース

11.1.3 危機のサイ振りなし。緊張度記録欄の増加を基準に、第二次世界大戦が勃発する時期を示すために緊張度のサイを振る一方、そのようなサイ振りを行うための個別のカード又は誘発はありません。

11.1.4 過激派 [Extremist]。新たなメカニクスは過激派で、スペースへ追加することができ (通常はプレイヤー毎、スペース毎に 1 つのみ)、同じ又は隣接するスペース内で支援チェックのためのボーナスを提供します。

11.1.5 複合再軍備記録欄 [Multiple rearmament tracks]。Europe in Turmoil のヨーロッパにおける海軍軍拡競争ボードのみ (各プレイヤーがそのボード上にマーカーを持つ) に対して、Europe in Turmoil II は 7 つの再軍備記録欄を持ち、単一のマーカーがその国の再軍備の進捗を管理し、このマーカーは各プレイヤーによって前進させることができます (到達したボックスの進捗のために報酬を獲得します)。

### 11.2 全ての新たなプレイヤーのために

[For all new players]

11.2.1 得点カードの配付 [Scoring Card distribution]

このファミリーのゲームについて理解するための最重要事項は、各得点カードが属している年代です。

- 狂乱の 20 年代: ドイツ、フランス、イタリア
- 世界恐慌: 大英帝国
- 宥和: 小協商国とスペイン (スペイン得点\*は除去可能イベントであることに注意)。

11.2.2 過激派の配備 [Deployment of Extremists]

過激派から望む決定の試みで過激派キューブを配置しているときはいつでも、あなたはそれを攻勢のため (支援チェックを準備している?)、防御のため (スペースの支配を介して又は過激派を介して相手側の支援チェックを準備している) に使用しているのでしょうか? 過激派は、限られた資源なので、最大限の活用を試みてください。

## EUROPE IN TURMOIL II

成功するためには、再軍備の試みが再軍備スペース内のナンバー以上でなければならぬ。

「急降下爆撃機ドクトリン」のような備忘マーカーは、再軍備チャート上で開始する。これらは、国の再軍備マーカーがスペースに到達するときにイベント・チャートへ移される。

イベント・チャートへ

再軍備の試みが行われるとき、そのプレイヤーの再軍備の試みマーカーを裏返す。

|  |   |  |  |   |   |   |   |
|--|---|--|--|---|---|---|---|
|  | <b>10</b> PANZER-SCHULE KAMA<br>RW player may play one RW-aligned Event from the discard pile.                                  | <b>10</b> LIPETSK AIRBASE<br>Place 2 RW SP in the USSR space.  | <b>5</b> LUFTWAFFE UNVEILED<br>Tension +1  | <b>6</b> RAPID ARMY EXPANSION<br>Place 2 RW SP in a space adjacent to Germany.                                    | <b>7</b> DIVE BOMBER DOCTRINE *<br>RW player gains 3 Power if Tension is at least 3.              | <b>8</b> NAVY PLAN Z<br>Place 2 RW SP in up to three Independent spaces.  | <b>TENSION +1</b>   |
|  | <b>5</b> MAGINOT LINE CONCEPTION<br>Place 2 LW SP in the Alsace-Lorraine space.   | <b>6</b> MAGINOT LINE COMPLETION<br>Place 2 LW SP in the Alsace-Lorraine space.                      | <b>7</b> EXTENDED CONSCRIPTION<br>Place your extremist in a space in France that does not already contain one of yours.            | <b>6</b> AIR FORCE MODERNIZATION<br>Place 1 of your SP in up to two spaces adjacent to France.                    | <b>8</b> ELITE ARMoured FORCE<br>Make a 4 OP's Support Check in any non-Colonial space in France. | <b>TENSION +1</b>   | <b>ARMY</b> <b>NAVY</b><br><b>AIR FORCE</b>   |
|  | <b>7</b> EXPERIMENTAL MECHANIZED FORCE<br>You may make a free Rearmament Attempt (on a different track) using a different card. | <b>8</b> IMPERIAL OBLIGATIONS<br>Place two of your SP in the Empire & Commonwealth space.            | <b>8</b> AIRCRAFT CARRIERS<br>LW player may play one LW-aligned Event from the discard pile.                                       | <b>7</b> RAF EXPANSION<br>You may make a free Rearmament attempt (on the UK track) using a different card.        | <b>8</b> SPITFIRE / RADAR<br>Reduce Tension and opponent's Moderation by 1.                       | <b>TENSION +1</b>   | <b>REARMAMENT ATTEMPT</b>   |
|  | <b>6</b> T-26 TANK<br>Place 1 LW SP in up to two non-Colonial spaces containing LW extremists.                                  | <b>6</b> POLIKARPOV I-16<br>Place 1 LW SP in up to two non-Colonial spaces containing LW extremists. | <b>7</b> THEORY OF DEEP OPERATION<br>Controller of USSR space gains 2 Power.   | <b>7</b> LESSONS FROM KHALKHIN GOL<br>Controller of the USSR space may draw two cards and then discard two cards. | <b>8</b> OFFENSIVE PREPARATIONS<br>Place 2 LW SP in each space adjacent to the USSR space.        | <b>TENSION +1</b>   | <b>WASHINGTON NAVAL TREATY</b><br>Event is active, whenever a Rearmament Progress marker reaches a Navy box, prior to executing any effects, place 2 LW SP in a space containing LW SP. |
|  | <b>5</b> DOUHAETIAN THEORY<br>Tension +1  | <b>6</b> BINARY DIVISIONS<br>Controller of Lombardy space gains 2 Power.                             | <b>6</b> NAVAL BUILDUP *<br>Place 2 RW SP in a space adjacent to Libya.  | <b>7</b> PACT OF STEEL<br>Controllers of Rome and Berlin spaces each gain 2 Power.                                | <b>TENSION +1</b>   | <b>TEN YEAR RULE ABANDONED</b><br>Flip marker. For remainder of game, UK Rearmament attempts are made with an additional +2 modifier. |   |
|  | <b>5</b> ARMY OF AFRICA<br>Place one of your SP in the Spanish Morocco space.   | <b>5</b> ESPAÑA CLASS DREADNOUGHTS<br>Place one of your SP in a space in Spain.                      | <b>6</b> DISSATISFIED OFFICER CORPS<br>Place one of your extremists in a space in Spain that does not have one of your extremists. | <b>5</b> EMERGENCY * INTERVENTION<br>Make a 3 OP's Support Check in a space in Spain.                             | <b>TENSION +1</b>   |   |   |
|  | <b>6</b> FOREIGN PLANE IMPORT<br>Place one of your SP in a space in the Little Entente.   | <b>6</b> SKODA TANKWORKS<br>Place one of your SP in a space in the Little Entente.                   | <b>7</b> JOINT STAFF TALKS<br>You may make a free Rearmament attempt with a +2 modifier (using a different card).                  | <b>TENSION +1</b>   |   |   |   |

**Rearmament Chart**

\* Move Event Reminder marker to Event Chart when the nation's Rearmament marker reaches this box.

各国の再軍備マーカーは、最初のコラム内にそのLW/RW面を表示して、一致するスペース上で開始する。

このマーカーは、「ワシントン海軍条約」イベントが発生したときここに置かれる。マーカーは、ターン7に有効が開始されるときに取られられる。

### 11.2.3 穏健度 [Moderation]

ゲーム中、穏健度の扱いは極めて重要です。コストなしで大きなイベントを獲得できるように見える一方、ゲームの開始時に戦略を定義する必要があります。あなたは、穏健度が勢力を上回るように試みるのですか？ OPsの罰則が適用されるたびに、その罰則を受けるのですか？ 相手側に1 OPs 罰則を与えるため、勢力を与えることを試みるのですか？ どのようにして勝利を試みますか？ 自動的勝利か（この場合、穏健度は実際的に重要ではありません）、又はターン 10 の得点勝利に向かうのですか（この場合、相手側の穏健度を超過するか、又は受け取る制裁の量を最小化するために高い穏健度を望みます）。

### 11.2.4 リシャッフル [Reshuffles]

通常、ターン4のカード引きフェイズ中にリシャッフルがあります。

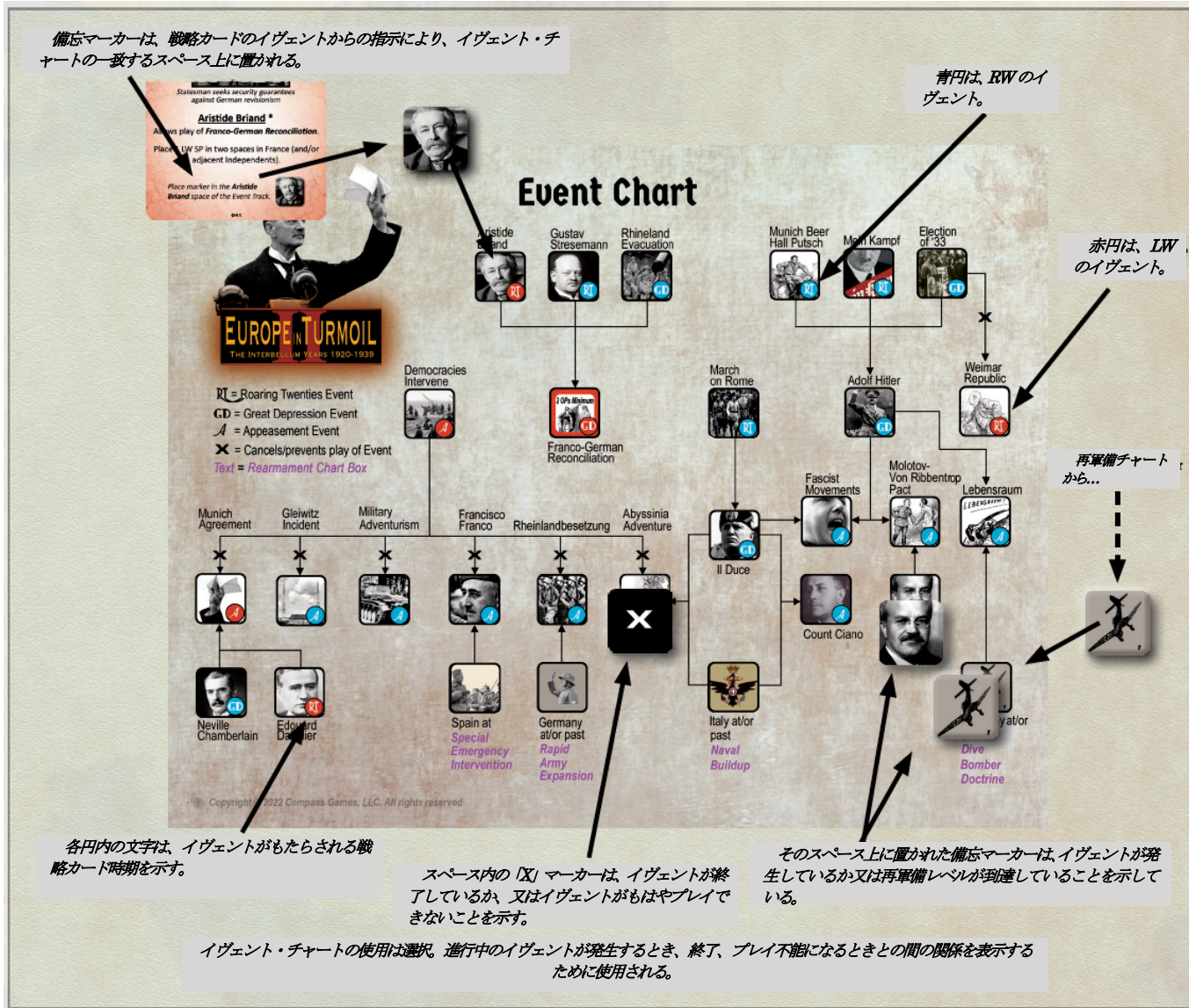
大恐慌デッキは、ターン5の現行引きデッキでシャッフルされます。

有和デッキは、ターン7の現行引きデッキでシャッフルされます。

通常は、ターン9のカード引きフェイズ中にリシャッフルがあります。



## THE INTERBELLUM YEARS 1920-1939



### 11.2.5 重要なスペース [Important Spaces]

3つの得点領域（オーストリア、スイス、ベルギー）を区分する少数の独立スペースがあり、ゲーム中に多数の勢力を与えるための潜在性を持ちます。特にスイスは、狂乱の20年代デッキからの全ての得点領域に隣接しています。

以下のスペースは、一定の再軍備ボックスを進めるために支配されなければなりません：

- ・ ロンバルディア [Lombardy]、ローマ [Rome]、ベルリン [Berlin]、USSR

以下のスペースは、再軍備進捗ボックスを介して中に置かれるSPを持ちます。:

- ・アルザス-ロレーヌ [Alsace-Lorraine]、スペイン領モロッコ [Spanish Morocco]、帝国&英連邦 [Empire & Commonwealth]

以下のスペースは、一定の戦略カードを向上させるために支配されなければなりません。:

- ・LW: スイス [Switzerland]、ボヘミア [Bohemia]、スロヴァキア [Slovakia]、USSR
- ・RW: ベルリン [Berlin]、フランス・カトリック教会 [French Catholics]、バイエルン [Bavaria]、ポーランド [Poland]
- ・両者: バチカン [Vatican]

以下のスペースは、戦略カードによってその中に置かれる SP を持ちます。:

- ・LW : ベルリン [Berlin]、スイス [Switzerland]、ズデーテンラント [Sudetenland]、ボヘミア [Bohemia]、スロヴァキア [Slovakia]、モラヴィア [Moravia]、ラインラント [Rhineland]、パリ [Paris]、ロンドン [London]、国会 [Parliament]、マドリッド [Madrid]、バレンシア [Valencia]、カタルーニャ [Catalonia]、フィンランド [Finland]、バルト諸国 [Baltics]、ベッサラビア [Bessarabia]、ポーランド [Poland]
- ・RW : スイス [Switzerland]、ローマ [Rome]、帝国&英連邦 [Empire & Commonwealth]、ラインラント [Rhineland]、スロヴァキア [Slovakia]、ハンガリー [Hungary]、ポーランド [Poland]、ダンツィヒ／ポーランド回廊 [Danzig/Polish Corridor]、ズデーテンラント [Sudetenland]、バイエルン [Bavaria]

## 12.0 大恐慌シナリオ [GREAT DEPRESSION SCENARIO]

12.0 項のルールを 3.0 セットアップのルールに置き換えます。他の全てのルールはそのままです。

### 12.1 ゲーム盤上のマーカー配置 [Place markers on the gameboard]

|   |  |
|---|--|
|    | ターン・マーカーをターン記録欄のターン 5 上に置きます。  |
|    | 勢力マーカーを勢力記録欄の「RW 1」上に置きます。   |
|    | 緊張度マーカーをその Kellogg-Briand 面で 1 上に置きます。   |
|    | RW 穏健度マーカーを勢力記録欄の RW9 上に置きます。  |
|    | LW 穏健度マーカーを勢力記録欄の LW9 上に置きます。  |
|    | 制裁マーカーを持って開始する陣営はありません。  |
|    | ラインラント非武装化マーカーは、Rhineland スペース内に置かれません。  |
|    | スイス [Switzerland] スペース内のマーカーは、国際連盟 [League of nations] 面でなければなりません。                            |
|   | フランス・カトリック教会 [French Catholics] スペース内のマーカーは、ジャンヌ・ダルクの列聖 [Canonization of Joan of Arc] 面で置かれます。 |
|  | ポーランド [Poland] スペース内のマーカーは、空白面で置かれます（「ポーランドへの保証」はプレイされていません）。                                  |
|  |  |

### 12.2 再軍備チャートの準備 [Prepare Rearmament Chart]

|   |   |
|---|---|
|  | Lipetsk 航空基地スペース上にドイツのマーカーを RW 面で置きます。                              |
|  | マジノ・ライン概念 [Maginot Line Conception] スペース上にフランスのマーカーを LW 面で置きます。     |
|  | 実験機械化部隊 [Experimental Mechanised Force] スペース上に UK のマーカーを RW 面で置きます。 |
|  | Polikarpov I-16 スペース上に USSR マーカーを LW 面で置きます。                        |
|  | 二単位師団 [Binary Divisions] スペース上にイタリアのマーカーを RW 面で置きます。                |
|  | Espana 級弩級戦艦 [Dreadnoughts] スペース上にスペインのマーカーを RW 面で置きます。             |
|  | 開始スペース上に小協商国 [Little Entente] マーカーを LW 面で置きます。                      |
|  | 以下のマーカーを、チャート上の一致するスペース内に置きます。<br>10 年ルール計画放棄マーカーの +0 面を使用する。       |

### 12.3 戦略カードの準備 [Prepare Strategy Cards]

|  |
|--|
| ゲームから以下のカードを取り去り、備忘シート上に適切な備忘マーカーを置きます。                |
| ジャコモ・マッテオッティ [Giacomo Matteotti]                       |
| ドイツの国際連盟加入 [Germany Admitted to the League of Nations] |
| ドイツのハイパーインフレ [Hyperinflation in Germany]               |
| ロカルノ条約 [Sprit of Locarno]                              |
| フライコープ [Freikorps]                                     |
| アリスティード・ブリアン [Aristide Briand] (備忘マーカーを置く)             |
| アヴェンティノーの脱退 [Aventine Secession]                       |
| トマーシュ・マサリク [Tomas Masaryk]                             |
| 白色テロ [White Terror]                                    |
| ミュンヘン・ビアホール揆 [Munich Beer Hall Putsch] (備忘マーカーを置く)     |
| ローマ進軍 [March on Rome] (備忘マーカーを置く)                      |
| ルール占領 [Ruhr Occupation]                                |
| カルテル・デ・ゴージュ [Cartel des Gauches]                       |
| グスタフ・シュトレゼマン [Gustav Stresemann] (備忘マーカーを置く)           |
| ジャンヌ・ダルクの列聖 [Canonization of Joan of Arc]              |
| 我が闘争 [Mein Kampf] (備忘マーカーを置く)                          |
| レフ・トロツキー [Leon Trotsky]                                |
| ラッパロ条約 [Treaty of Rapallo]                             |
| ユゼフ・ピウスツキ [Jozef Pilsudski]                            |
| ワシントン海軍条約 [Washington Naval Treaty] (備忘マーカーを置く)        |
| フリードリヒ・エーベルト [Friedrich Ebert]                         |
| ミゲル・プリモ・デ・リベラ [Miguel Primo de Rivera]                 |
| ウォール街大暴落 [Wall Street Crash]                           |
| リーフ戦争 [Rif War]  |
| ヴァイマル共和国 [Weimar Republic]                             |
| ホルティ提督 [Admiral Horthy]                                |
| ケロッグ・ブリアン協定 [Kellogg-Briand Pact]                      |



## 12.4 以下のカードを捨て札パイル内に置く：

|  |
|--|
| ドゥズイエム・ビューロー（第2局） [Deuxième Bureau]      |
| 秘密の再軍備 [Clandestine Rearmament]          |
| 教皇ピウス XI 世 [Pope Pius XI]                |
| エドヴァルド・ベネシュ [Edvard Benes]               |
| 国際連盟の介入 [League of Nations Intervention] |
| ウィンストン・チャーチル [Winston Churchill]         |
| ドーズ／ヤング計画 [Dawes/Young Plan]             |

## 12.5 引きデッキの準備 [Build Draw Deck]

引きデッキを創出するため、狂乱の 20 年代からの残りのカード（上記で述べられていない）と大恐慌カードを統合します。

シナリオ開始時、どちらのプレイヤーも手札を持ちません。

## 12.5 SP と過激派の配置 [Place SP and Extremists]



LW SP



RW SP

\*過激派




| フランス・スペース                         |    |    |
|-----------------------------------|----|----|
| アクション・フランセーズ [Action Française]   | 0  | 3* |
| アルザス・ロレーヌ [Alsace Lorraine]       | 2  | 0  |
| アキテーヌ [Aquitaine]                 | 0  | 0  |
| フランシュ・コンテ [France-Comte]          |    |    |
| フランス・カトリック教会 [French Catholics]   | 0  | 4  |
| ノルマンディ／ブルターニュ [Normandy/Brittany] |    |    |
| ノール／パ・ド・カレー [Nord/Pas-de-Calais]  | 2* | 0  |
| パリ [Paris]                        | 2* | 0  |
| プロヴァンス [Provence]                 |    |    |




| フランス植民地スペース   |    |   |
|---|----|---|
| アルジェリア [Algeria]  | 1  | 0 |
| フランス領モロッコ [French Morocco]                              | 2* | 0 |
| フランス委任統治領シリア [French Mandate for Syria] とレバノン [Lebanon] | 0  | 2 |
| チュニジア [Tunisia]   |    |   |



| イタリア・スペース                                  |   |    |
|--|---|----|
| アプリア [Apulia]                              |   |    |
| 黒シャツ隊 [Alsace Lorraine]                    | 0 | 0* |
| カンパニア [Campania]                           |   |    |
| ドデカネス諸島 [Dodecanese]                       |   |    |
| フィウーメ [Fiume]                              | 0 | 3  |
| ロンバルディア [Lombardy]                         | 3 | 0  |
| ローマ [Rome]                                 | 1 | 4  |
| シチリア [Sicily]                              |   |    |
| 南ティロル [South Tyrol]                        | 2 | 0* |
| トスカーナ [Tuscany]                            | 0 | 1  |
| ヴィットリオー・エマヌエーレ III 世 [Victor Emmanuel III] | 0 | 2  |




| イタリア植民地スペース |   |    |
|-------------|---|----|
| リビア [Libya] | 0 | 2* |



# EUROPE IN TURMOIL II

|  ドイツ・スペース |  |  |
|--|---|---|
| バイエルン [Bavaria]  | 0   | 3*  |
| バーデン＝ヴュルテンベルク<br>[Baden-Wuerttemberg]  |   |   |
| ベルリン [Berlin]  | 3*  | 0   |
| 東プロイセン [East-Prussia]  | 0   | 4   |
| ハンブルク [Hamburg]  | 2   | 0*  |
| ハノーファー [Hanover]   |   |   |
| マクデブルク [Magdeburg]   | 0   | 5   |
| ポメラニア [Pomerania]  |   |   |
| ラインラント [Rhineland]   | 2   | 0   |
| ザクセン [Saxony]  | 1   | 0   |
| シレージエン [Silesia]   | 0   | 2*  |
| テューリングゲン [Thuringia]   | 2   | 0   |

|  スペイン・スペース |  |  |
|---|---|---|
| アンダルシア [Andalusia]  | 0   | 1   |
| バレアレス諸島 [Balearic Islands]  |   |   |
| バスク地方 [Basque Country]  | 2   | 0   |
| カタルーニャ [Catalonia]  | 1   | 1   |
| ガリシア [Galicia]  |   |   |
| ラ・マンチャ [La Mancha]  |   |   |
| マドリッド [Madrid]  | 0   | 1   |
| 君主制主義者 [Monachists]   |   |   |
| スペイン・カトリック教会 [Spanish Catholics]  |   |   |
| バレンシア [Valencia]  |   |   |

| スペイン植民地スペース                 |  |  |
|-----------------------------|---|---|
| スペイン領モロッコ [Spanish Morocco] | 0*  | 2   |

|  UK スペース |  |  |
|---|---|---|
| ジブラルタル [Gibraltar]  | 0   | 2   |
| ウィンザー朝 [House of Windsor]   |   |   |
| ロンドン [London]   | 1   | 0   |
| ミッドランズ [Midlands]   |   |   |
| 北イングランド [Northern England]  | 2   | 0   |
| 北アイルランド [Northern Ireland]  | 1   | 0   |
| 議会 [Parliament]   | 0   | 2   |
| スコットランド [Scotland]  | 2   | 0   |
| ウェールズ [Wales]   |   |   |

| UK 植民地スペース  |  |  |
|---|---|---|
| イギリス委任統治領パレスチナ<br>[British Mandate for Palestine] | 2   | 0   |
| エジプト [Egypt]                                      |   |   |
| 大英帝国&英連邦 [Empire & Commonwealth]                  | 0   | 1   |

|  小協商国スペース |  |  |
|--|---|---|
| ベッサラビア [Bessoarabia]   |   |   |
| ボヘミア [Bohemia]   | 3   | 0   |
| ボスニア [Bosnia]  |   |   |
| クロアチア [Croatia]  | 0   | 2   |
| モラヴィア [Moravia]  | 1   | 0   |
| ルーマニア王族 [Romanian Royalty]   | 1   | 1   |
| ルテニア [Ruthehenia]  |   |   |
| セルビア [Serbia]  | 1   | 0   |
| スロヴァキア [Slovakia]  | 1   | 0   |
| スロヴェニア [Slovenia]  |   |   |
| ズデーテンラント [Sudetenland]   | 1   | 1   |
| トランシルヴァニア [Transylvania]   |   |   |

| 独立スペース                                   |  |  |
|--|---|---|
| アルバニア [Albania]                          |   |   |
| オーストリア [Austria]                         | 0   | 1   |
| バルト諸国 [Baltic States]                    | 0   | 1   |
| ベルギー [Belgium]                           | 0   | 2   |
| ブルガリア [Bulgaria]                         | 0   | 1   |
| ダンツィヒポーランド回廊<br>[Danzig-Polish Corridor] |   |   |
| デンマーク [Denmark]                          |   |   |
| フィンランド [Finland]                         | 0   | 2   |
| ギリシャ [Greece]                            | 0   | 1   |
| ハンガリー [Hungary]                          | 0   | 2*  |
| アイルランド自由国 [Irish Free State]             | 2*  | 0   |
| ネーデルラント [Netherlands]                    | 3   | 0   |
| ノルウェー [Norway]                           |   |   |
| ポーランド [Poland]                           | 3   | 2   |
| ポルトガル [Portugal]                         | 0   | 1   |
| スウェーデン [Sweden]                          | 0   | 1   |
| スイス [Switzerland]                        | 7   | 1   |
| トルコ [Turkey]                             | 0   | 1   |
| USSR                                     | 5*  | 1   |
| バチカン [Vatican]                           | 0   | 4   |



## プレイヤー補助

## 4.5 ターンのシークエンス 8頁

1. 戦略カードの配付（ターン5の前に8枚、以後9枚）
2. アクション・ラウンドのプレイ（ターン5の前に7、以後8）
3. 保持カードの確認
4. ターン・マーカーの前進並びに再軍備可用性マーカーのリフレッシュ
5. 最終得点の計算（ターン10の後又はフェイズ2中に戦争が誘発されたら）

## 6.0 オペレーション 9頁

1. 支援の配置
2. 支援チェックを行う
3. 再軍備の試みを行う

## 6.1 支援の配置（OPsを介して） 9頁

- 一度に1つ
- アクション・ラウンドの開始時に存在した友軍 SP マーカー（又は友軍過激派）と共に又は隣接に置かれなければならない。
- SP 毎に1 OPs（友軍又は非支配下スペース内）、SP 毎に2 OPs（敵支配下スペース内）

## 6.2 支援チェック 11頁

## 支援チェックを行う（OPsを介して）—制限

- 戦略カード毎に1
- 相手側の SP と／又は過激派を含んでいるスペース内のみ

## 支援チェックを行う（非 OPs、イヴェントを介して、さもなければ）—制限

- 制限なし（支援チェックの資源によって与えられたいずれも越えて）

## 支援チェックのサイ振りを行う並びに修正

- サイ振りを行う
- 支援チェックを行うために使用したカードの OPs 値（又は支援チェックの資源によって提供された OPs）を加える。
- 目標スペースに隣接する各友軍支配下スペースについて1を加える。
- 目標スペース内又は隣接する各友軍過激派について1を加える。
- 相手側によって支配された、目標スペースに隣接する各スペースについて1を差し引く。
- 相手側によって支配された、目標スペース内又は隣接する各過激派について1を加える。

## 支援チェックの解決

- 目標スペースの安定度を2倍にする（x2）
- 修正後のサイの目（6.2.5を参照）が、二倍化された安定度ナンバーよりも大きければ、支援チェックは成功する。この達成された二倍化安定度ナンバーを超える各ポイントについては、以下を行う（順番に）。
  - 目標スペースから相手側の1 SP を取り去る
  - 相手側の全 SP を取り去った後に超過ポイントが残ると、残っているポイント毎に1友軍 SP を置く（ただし、決して支配に必要な数を超過できない。すなわち、安定度ナンバーと同数まで）
  - スペースの支配を取った後で超過ポイントが残ると、単一の友軍過激派を置く（未だスペース内に友軍過激派がなければ）
- 残っている超過ポイントは失われる。

## 6.3 再軍備の試みを行う 11頁

- ターン毎に1（フリーの試みはカウントしない）
- この試みを行うために使用したカードは捨て札される
- 7つの再軍備記録欄の1つを選択する（選択した記録欄の再軍備マーカーは、右端進捗ボックス内にあってはならない）
- サイ振りを行う
- 使用したカードの OPs を加える
- 試みのために使用したカードがあなたの陣営に付随すると1を加える。
- 選択した再軍備マーカーがあなたの+1面へ裏返されていたら1を加える。
- 修正後のサイの目が、未だ到達していない左端に開かれた再軍備進捗ボックスへ前進させるために必要な数字以上であると、選択した再軍備マーカーを一度右へ前進させる。
- マーカーが前進したか否かにかわらず、あなたの面へ裏返す（いまだそうでなければ）
- 到達した進捗ボックスの影響を実施する
- 再軍備記録欄の終点に到達したら、緊張度を1だけ増加させる。

## 8.0 穏健度 13頁

- 穏健度が0に到達したときはいつでも、緊張度が1だけ増加する
- 穏健度が0未満になるときはいつでも、減少毎にそのプレイヤーに1制裁マーカーを与える。
- 勢力マーカーがプレイヤーの穏健度よりも高くなるときはいつでも、そのプレイヤーの穏健度マーカーを裏返す。勢力が再びそのプレイヤーの穏健度以下になるまで（そして再びマーカーが裏返されるまで）、そのプレイヤーは OPs を受け取るときにいつでも（再軍備の試みを除く）-1 OPs を受け取る（最小1）。

## 9.0 緊張度が増加 13頁

- 再軍備記録欄に終端に達したときにいつでも
- イヴェントがすでに記録欄の終端にある再軍備マーカーを移動させるときにはいつでも
- プレイヤーの穏健度が0に到達したとき

## 9.4 戦争勃発 13頁

- 緊張度マーカーがサイの目修正を含んでいるスペースに到達したら、緊張度の増加を行ったプレイヤーはサイ振りを行う（サイの目修正を加える）
- サイの目が6よりも高ければ、サイ振りを行ったプレイヤーは1枚の制裁マーカーを取り、第二次世界大戦が勃発したためゲームは終了する












## 制裁 13, 15頁

- プレイヤーは、以下のときに制裁を受け取る
- その穏健度が増加したが、すでに0にある（実施されなかった穏健度の減少毎に1制裁）
- その緊張度増加のために第二次世界大戦が勃発する
- （ゲーム終了の得点）最終得点中、最低の穏健度を持つプレイヤーは、差の各ポイントについて1制裁を受ける。最終得点中、プレイヤーは各制裁について2VPを失う。

## 13.0 宥和シナリオ [APPEASEMENT SCENARIO]







13.0 項のルールを 3.0 セットアップのルールに置き換えます。他の全てのルールはそのままです。

### 13.1 ゲーム盤上のマーカー配置 [Place markers on the gameboard]

-  ターン・マーカーをターン記録欄のターン 7 上に置きます。
-  勢力マーカーを勢力記録欄の「RW 3」上に置きます。
-  緊張度マーカーを緊張度記録欄の 2 上に置きます。
-  RW 穏健度マーカーを勢力記録欄の RW7 上に置きます。
-  LW 穏健度マーカーを勢力記録欄の LW8 上に置きます。
-  制裁の 2 ポイントを RW 制裁ボックス内に、LW 制裁ボックス内にはありません。
-  ラインラント非武装化マーカーは、Rhineland スペース内に置かれませんが、Rhineland スペース内に置かれます。
-  スイス [Switzerland] スペース内のマーカーは、国際連盟 [League of nations] 面でなければなりません。
-  フランス・カトリック教会 [French Catholics] スペース内のマーカーは、ジャンヌ・ダルクの列聖 [Canonization of Joan of Arc] 面で置かれます。
-  テューリンゲン [Thuringia] スペース内のマーカーは、その空白面で置かれます。
-  ポーランド [Poland] スペース内のマーカーは、空白面で置かれます（「ポーランドへの保証」はプレイされていません）。

### 13.2 再軍備チャートの準備 [Prepare Rearmament Chart]

-  ベールを脱いだドイツ空軍 [Luftwaffe Unveiled] スペース上にドイツのマーカーを RW 面で置きます。
-  マジノ・ライン完成 [Maginot Line Completion] 上にフランスのマーカーを LW 面で置きます。
-  帝国の債務 [Imperial Obligations] スペース上に UK のマーカーを LW 面で置きます。
-  縦深戦術理論 [Theory of Deep Operation] スペース上に USSR マーカーを LW 面で置きます。
-  二単位師団 [Binary Divisions] スペース上にイタリアのマーカーを RW 面で置きます。
-  特別緊急介入 [Special Emergency Intervention] スペース上にスペインのマーカーを RW 面で置きます（備忘マーカーを備忘シートへ移す）。
-  外国製航空機輸入スペース上に小協商国 [Little Entente] マーカーを LW 面で置きます。

-  以下のマーカーを、チャート上の一致するスペース内に置きます。
- 
- 
- 
- 
- 

10 年ルール計画放棄 [10 Year Rule Abandoned] マーカーの +2 面を使用する。

ゲームから以下のカードを取り去り、備忘シート上に適切な備忘マーカーを置きます。

|  |
|--|
| ジャコモ・マッテオッティ [Giacomo Matteotti]                       |
| ドイツの国際連盟加入 [Germany Admitted to the League of Nations] |
| ドイツのハイパーインフレ [Hyperinflation in Germany]               |
| ロカルノ条約の精神 [Spirit of Locarno]                          |
| フライコープ [Freikorps]                                     |
| アリスティード・ブリアン [Aristide Briand] (備忘マーカーを置く)             |
| アヴェンティノーの脱退 [Aventine Secession]                       |
| トマーシュ・マサリク [Tomas Masaryk]                             |
| 白色テロ [White Terror]                                    |
| ミュンヘン・ビアホール揶揄 [Munich Beer Hall Putsch] (備忘マーカーを置く)    |
| ローマ進軍 [March on Rome] (備忘マーカーを置く)                      |
| ルール占領 [Ruhr Occupation]                                |
| カルテル・デ・ゴーシュ [Cartel des Gauches]                       |
| グスタフ・シュトレゼマン [Gustav Stresemann] (備忘マーカーを置く)           |
| ジャンヌ・ダルクの列聖 [Canonization of Joan of Arc]              |
| 我が闘争 [Mein Kampf] (備忘マーカーを置く)                          |
| レフ・トロツキー [Leon Trotsky]                                |
| ラッパロ条約 [Treaty of Rapallo]                             |
| ユゼフ・ピウスツキ [Jozef Pilsudski]                            |
| ワシントン海軍条約 [Washington Naval Treaty] (備忘マーカーを置く)        |
| フリードリヒ・エーベルト [Friedrich Ebert]                         |
| ミゲル・プリモ・デ・リベラ [Miguel Primo de Rivera]                 |
| ウォール街大暴落 [Wall Street Crash]                           |
| リーフ戦争 [Rif War]  |
| ヴァイマル共和国 [Weimar Republic]                             |
| ホルティ提督 [Admiral Horthy]                                |
| ケロッグ・ブリアン協定 [Kellogg-Briand Pact]                      |
| スタヴィスキ事件 [Stavisky Affair]                             |
| ヴァチスラフ・モロトフ [Vyacheslav Molotov] (備忘マーカーを置く)           |
| 全権委任法 [Enabling act] (備忘マーカーを置く)                       |
| 実業家後援者 [Industrialist Enablers]                        |
| 長いナイフの夜 [Night of the Long Knives]                     |
| クロワ・ド・フー [Croix-de-feu]                                |
| コミンテルン [Comintern]                                     |
| ネヴィル・チェンバレン [Neville Chamberlain] (備忘マーカーを置く)          |
| ドゥーチェ [Il Duce] (備忘マーカーを置く)                            |
| アドルフ・ヒトラー [Adolf Hitler] (備忘マーカーを置く)                   |



13.4 以下のカードを捨て札パイル内に置く：

ドゥズイェム・ビュロー (第2局) [Deuxième Bureau]

秘密の再軍備 [Clandestine Rearmament]

教皇ピウス XI 世 [Pope Pius XI]

エドヴァルド・ベネシュ [Edvard Benes]

国際連盟の介入 [League of Nations Intervention]

ウィンストン・チャーチル [Winston Churchill]

ドーズ／ヤング計画 [Dawes/Young Plan]

戦争賠償／戦争債務 [War Reparations/War Debts]

クレメント・アトリー [Clement Alee]

通貨安定 [Currency Stabilization]

アメリカ人国外居住者 [American Expatriates]

ヨシフ・スターリン [Joseph Stalin]

フランスの得点 [France Scoring]

イタリアの得点 [Italy Scoring]

ドイツの得点 [Germany Scoring]

1933 年の選挙 [Election of '33] (備忘マーカーを置く)

民族自決 [Self Determination]

10 年ルール of 放棄 [Ten Year Rule Abandoned]

ラインラント撤退 [Rhineland Evacuation] (備忘マーカーを置く)

満州事変 [Manchuria Invasion]

ジュネーブ軍縮会議 [Geneva Disarmament Conference] (すでに発効済)

国会議事堂炎上 [Reichstag Fire]

独仏和解 [Franco-German Reconciliation] (備忘マーカーを置く)

アンドレイ・フリンカ [Andrej Hlinka]

スペイン第二共和制 [Second Spanish Republic]

機械化戦の創始者たち [Mechanised Warfare Pioneers]

エドゥアル・ダラディエ [Edouard Daladier] (備忘マーカーを置く)

ドイツ軍将官の目的 [German generals Object] (すでに完全発効済)

エルンスト・テールマン [Ernst Thälmann]

マジノの精神性 [Maginot Mentality] (すでに完全発効済)

## 13.5 引きデッキの準備 [Build Draw Deck]

狂乱の 20 年代と大恐慌 (上記で述べていないもの) からのカードを宥和カードと統合し、引きデッキを創出します。シナリオ開始時、どちらのプレイヤーも手札にカードを持ちません。

## 13.6 SP と過激派の配置 [Place SP and Extremists]



LW SP



RW SP

\*過激派




| フランス・スペース                         |    |    |
|-----------------------------------|----|----|
| アクション・フランセーズ [Action Française]   | 0  | 3* |
| アルザス・ロレーヌ [Alsace Lorraine]       | 6* | 0* |
| アキテーヌ [Aquitaine]                 | 1  | 0  |
| フランシュコンテ [France-Comte]           |    |    |
| フランス・カトリック教会 [French Catholics]   | 0  | 4  |
| ノルマンディ／ブルターニュ [Normandy/Brittany] | 0  | 1* |
| ノール／パ・ド・カレー [Nord/Pas-de-Calais]  | 4* | 0  |
| パリ [Paris]                        | 4* | 2  |
| プロヴァンス [Provence]                 |    |    |




| フランス植民地スペース   |    |   |
|---|----|---|
| アルジェリア [Algeria]  | 3  | 2 |
| フランス領モロッコ [French Morocco]                              | 2* | 0 |
| フランス委任統治領シリア [French Mandate for Syria] とレバノン [Lebanon] | 0  | 2 |
| チュニジア [Tunisia]   |    |   |



| イタリア・スペース                                 |    |    |
|---|----|----|
| アプリア [Apulia]                             |    |    |
| 黒シャツ隊 [Alsace Lorraine]                   | 0  | 0* |
| カンパニア [Campania]                          |    |    |
| ドデカネス諸島 [Dodecanese]                      |    |    |
| フィウメ [Fiume]                              | 0  | 3  |
| ロンバルディア [Lombardy]                        | 3* | 0  |
| ローマ [Rome]                                | 1  | 4  |
| シチリア [Sicily]                             |    |    |
| 南ティロル [South Tyrol]                       | 2  | 0* |
| トスカーナ [Tuscany]                           | 0  | 2  |
| ヴィットリオ・エマヌエーレ III 世 [Victor Emmanuel III] | 0  | 2  |




| イタリア植民地スペース |   |    |
|-------------|---|----|
| リビア [Libya] | 0 | 2* |



## EUROPE IN TURMOIL II

|  ドイツ・スペース |  |  |
|--|---|---|
| バイエルン [Bavaria]  | 0   | 1   |
| バーデン＝ヴュルテンベルク [Baden-Wuerttemberg]   |   |   |
| ベルリン [Berlin]  | 5   | 2   |
| 東プロイセン [East-Prussia]  | 0   | 4   |
| ハンブルク [Hamburg]  | 4*  | 2*  |
| ハノーファー [Hanover]   |   |   |
| マクデブルク [Magdeburg]   | 0   | 3   |
| ポメラニア [Pomerania]  |   |   |
| ラインラント [Rhineland]   | 2   | 1   |
| ザクセン [Saxony]  |   |   |
| シュレージエン [Silesia]  | 0   | 2*  |
| テューリングゲン [Thuringia]   | 3   | 0   |

|  スペイン・スペース |  |  |
|---|---|---|
| アンダルシア [Andalusia]  | 0   | 1   |
| バレアレス諸島 [Balearic Islands]  |   |   |
| バスク地方 [Basque Country]  | 2   | 0   |
| カタルーニャ [Catalonia]  | 4   | 1   |
| ガリシア [Galicia]  |   |   |
| ラ・マンチャ [La Mancha]  |   |   |
| マドリッド [Madrid]  | 2   | 1   |
| 君主制主義者 [Monachists]   |   |   |
| スペイン・カトリック教会 [Spanish Catholics]  |   |   |
| バレンシア [Valencia]  | 2   | 0   |

| スペイン植民地スペース                 |  |  |
|-----------------------------|---|---|
| スペイン領モロッコ [Spanish Morocco] | 0*  | 2   |

|  UK スペース |  |  |
|---|---|---|
| ジブラルタル [Gibraltar]  | 0   | 2   |
| ウィンザー朝 [House of Windsor]   |   |   |
| ロンドン [London]   | 2   | 3   |
| ミッドランズ [Midlands]   |   |   |
| 北イングランド [Northern England]  | 2   | 1   |
| 北アイルランド [Northern Ireland]  | 1   | 1   |
| 議会 [Parliament]   | 0   | 3   |
| スコットランド [Scotland]  | 2   | 0   |
| ウェールズ [Wales]   |   |   |

| UK 植民地スペース                                     |  |  |
|--|---|---|
| イギリス委任統治領パレスチナ [British Mandate for Palestine] | 2   | 0   |
| エジプト [Egypt]                                   | 3   | 0   |
| 大英帝国&英連邦 [Empire & Commonwealth]               | 0   | 1   |

|  小協商国スペース |  |  |
|--|---|---|
| ベッサラビア [Bessoarabia]   |   |   |
| ボヘミア [Bohemia]   | 3   | 0   |
| ボスニア [Bosnia]  |   |   |
| クロアチア [Croatia]  | 0   | 2   |
| モラヴィア [Moravia]  | 2   | 0   |
| ルーマニア王族 [Romanian Royalty]   | 1   | 1   |
| ルテニア [Ruthehenia]  | 1   | 0   |
| セルビア [Serbia]  | 3   | 0   |
| スロヴァキア [Slovakia]  | 1   | 2*  |
| スロヴェニア [Slovenia]  |   |   |
| ズデーテンラント [Sudetenland]   | 3   | 4   |
| トランシルヴァニア [Transylvania]   |   |   |

| 独立スペース                                |  |  |
|---------------------------------------|---|---|
| アルバニア [Albania]                       | 1   | 0   |
| オーストリア [Austria]                      | 0   | 1   |
| バルト諸国 [Baltic States]                 | 0   | 1   |
| ベルギー [Belgium]                        | 0   | 2   |
| ブルガリア [Bulgaria]                      | 0   | 1   |
| ダンツィヒポーランド回廊 [Danzig-Polish Corridor] |   |   |
| デンマーク [Denmark]                       |   |   |
| フィンランド [Finland]                      | 0   | 2   |
| ギリシャ [Greece]                         | 0   | 2   |
| ハンガリー [Hungary]                       | 0   | 2*  |
| アイルランド自由国 [Irish Free State]          | 2*  | 0   |
| ネーデルラント [Netherlands]                 | 3   | 0   |
| ノルウェー [Norway]                        |   |   |
| ポーランド [Poland]                        | 3   | 2   |
| ポルトガル [Portugal]                      | 0   | 1   |
| スウェーデン [Sweden]                       | 0   | 1   |
| スイス [Switzerland]                     | 4   | 1   |
| トルコ [Turkey]                          | 0   | 3   |
| USSR                                  | 7*  | 3   |
| バチカン [Vatican]                        | 0   | 2   |



## 14.0 デザイナー・ノート [DESIGNER NOTES]

ヨーロッパは、再び混乱の渦中にある

2017年に *Europe in Turmoil* を仕上げたとき、私はすでに戦間期を舞台にした同様のゲームのアイデアをいくつか練っていましたが、いつも同じ結論に達しました。：3人プレイ用の *Twilight Struggle* を作るのには難しいということです。3人プレイ？ そう、当初は共産主義者、全体主義者、穏健派がちょうど中道に位置する3人プレイヤー・ゲームでした。カードは、共産主義者と全体主義者のどちらかに揃えられ、穏健派は常にカードをプレイするか又はOPsを選択できました。共産主義者は得点記録欄上で得点が自身の側にあるとき、全体主義者は得点が自身の側にあるときに勝利し、穏健派プレイヤーはできるだけ得点が互角になることを欲しました（彼らは支援ポイントを置くことができず、取り除くだけでした）。その具現は三分割（固定）された勢力記録欄で、プレイヤー諸氏は勢力マーカーの相対的な位置に依存して、イベントよりもオペレーションのためにカードをプレイすることを制限されました。このゲームは、最終的に出版されたゲームです。穏健派プレイヤーがいなくなり（というより、過激派プレイヤーがいなくなって2つに分割されました）、穏健派はカードのプレイ制限がよりダイナミックになりました。

上の段落で述べたように、プレイヤー諸氏は政策における穏健派の代表です（あるいは、少なくともそのようにゲームを開始しますが、過激派に傾く潜在性があります）。つまり、右翼プレイヤーも左翼プレイヤーも（穏健派である間は）得点地域の支配を望まず、また支配するために奮闘しません。支配は確かに十分です。敵対者の声は、歓迎されるか少なくとも許されますが、できれば無力であることが望ましいのです（次の選挙で政権につくまでは）。ただし、（当初は非プレイヤーだった）過激派は、他者の意見を求めません。妥協を嫌い、敵対者を軽蔑します。彼らが望むのは、完全に支配できる一党独裁国家です。いったん過激派が権力を握ったら、最初にすることは他の政党を非合法化することです。そして、彼らは *Europe in Turmoil II* のプレイヤーではありませんが、その戦略イベントはプレイヤー諸氏の手には委ねられています。穏健な左翼プレイヤーであるあなたは、完全に共産主義化すれば他のヨーロッパ諸国があなたを侵略することを恐れています。一人のプレイヤーとして、あなたは穏健派を維持しようとしませんが、ときには過激派を「利用」することも考えます（ただし、過激派の援助は、常にあなたの穏健さを犠牲にすることになります）。*Europe in Turmoil* のプレイ・パターンのため、プレイヤー諸氏は時には相手側のイベントをプレイしなければなりません。その間は、たとえ最も穏健なプレイヤーであっても、たまには過激派の一面を見ることがあります。

*Europe in Turmoil II* が前作と大きく異なるのは「再軍備」です。同種のゲームには必ず何らかの「競争」があるのに対して *Europe in Turmoil II* には7つの「競争」があります。各競争にはマーカーが1枚しかなく、「両プレイヤーが同じマーカーを前進させる」というある意味「協力型」の競争です。たとえそれが緊張度を高めることになったとしても、プレイヤー諸氏に再軍備を望ませることがデザイン目標だったからです。もちろん、両プレイヤーが各再軍備記録欄を前進させることができ、いくつかの記録欄はより親左翼で、他はより親右翼です（例えば、ロシア軍の再軍備は、通常は親左翼で、ドイツの再軍備は主に右翼を支援します）。英国の再軍備は、少なくとも10年ルールが継続している間はかなり困難です。ゲーム開始時、ヴェルサイユ条約の制限によってドイツの再軍備は禁じられているため、イベントのプレイなしでは不可能です。全体として、軍部が（通常は）政治的通路のそちら側にあったため、再軍備競争の効果はわずかに右翼に有利です。

*Europe in Turmoil* とのその他の違いは、社会経済アイコンと関連する安定カードが取り去られていることです。戦間期中の闘争の一部は、明らかに組合闘争や「階級闘争」等に関するものでしたが、地域性ははるかに低下し、階級は各国内でより拡散していました。過激派と穏健派もデザインのパイの一部を占めます。それはつまり、ゲームの流れを維持して過剰な色付けをしないためには、他の何かが必要だということです。技術的な観点から、*Europe in Turmoil II* のゲームは、*Europe in Turmoil* のゲームよりも頻繁に10ターン目に突入します。このため、得点過程（並びにゲームの終了）を短縮させる必要がありました。

安定カードによる得点の不確実性を解消するため、各得点カードはその得点領域における支援チェックをプレイヤーに提供するようになりました。もはや、得点カードに溢れた手が不利になることはありませんが、この支援チェックを最大限に活用するためには（あるいは対戦相手にこのフリー・チェックを使わせないためには）、過激派キューブをしっかりと配置することが有効です。

勝利条件に関しては、「勝利する」「敗北する」という考え方は、「最終ターン後」よりも「第二次世界大戦後」の状況の方がはるかに重要です。*EIT1* のゲームが第一次世界大戦の勃発で終了する（第一次世界大戦を解決するメカニズムがあります）のに対して、*EIT2* は第二次世界大戦を解決することなく勃発で終了します。このため、第一次世界大戦のときよりもはるかに、外部の勢力（特に合衆国）は常に新しい世界大戦の結果に影響を与えるでしょうが、その政策はゲームの範囲外です（現代の孤立主義的な米国議会が好意的に指摘するように）。*EIT2* のゲームの勝者は、第二次世界大戦後の数十年間、ヨーロッパの政策を支配する陣営です。例えば、最終領域得点の後でRWプレイヤーが+12RW勢力の得点をリードしているものの、制裁により16ポイントを落とせば実際にはゲームに敗北します。なぜならば、ヨーロッパの舞台を支配することはできましたが、すべての反対勢力を駆逐することができなかったからで（これは、20勢力の自動勝利です）、いくつかのヨーロッパと非ヨーロッパ諸国の連合は、避けることのできない第二次世界大戦で彼らを打ち破ろうとするからです。同様に、+12LW勢力で得点をリードしているLWプレイヤーが同数の制裁を持つと、共産主義のヨーロッパは最終的に敗北します。12勢力でスコアをリードしている同じLWプレイヤーが制裁を通して多数の勢力を落とさないために十分高い穏健度を有していたら、ニュー・エルサレムの永続的な状態に導くことができる穏健派のLWとなります。相対的な穏健度は、主に合衆国の介入を示す指標です。

Kris

Dyle 近郊

2021年2月

## 15.0 カードの注釈 [CARD NOTES]

**フランスの得点 [France Scoring] (#1)** ああ、フランス。第一次世界大戦で勝利した陣営だからといって、フランスに長期的な安全が保障されたわけではなかった。参加国の中では死傷者数が多かったが、フランスは主要な戦場のひとつであり、他国（特にドイツ）よりも高い割合で兵士が戦死した。20年代から30年代にかけて、フランスの外交政策は、第一にヴェルサイユ条約の実施に重点を置き、ドイツへの厳しい制限を実施することであった。ドイツが再びフランスを脅かすのを防ぐため、その後にドイツを包囲する西側諸国と東側諸国の連合体を構築しようとした。内部的には、労働組合と左翼政党が社会的進歩を遂げた。その代償として、大恐慌の経済的沈滞が増加し、フランスは再軍備に遅れをとった。フランスはゲーム内で最も多くの植民地スペースを有し、そのマグレブ帝国は威信、労働力、歳入の重要な源泉であった。右翼民族主義者、君主主義者、反動主義者は、隣接するフランス・カトリック教会とアクション・フランセーズのスペース内に存在する。防衛に重点を置いた「市民軍」（シャルル・ド・ゴールが構想した、専門の自動車化部隊とは対照的である）は、アルザス・ロレーヌ地方の左翼の砦、有名なマジノ線である。

**イタリアの得点 [Italy Scoring] (#2)** 第一次世界大戦では勝利した陣営だったが、講和では勝利しなかった。ロンドン条約で約束された戦利品を受け取るどころか、ヨーロッパにおける限定的な併合を受け入れなければならず、委任統治領はロンドンとパリに奪われた。やがて、再統一主義者たちは不平を言い始め、ビエンニオ・ロッソ（左翼と右翼の内紛の二つの赤い年）の後、黒シャツ隊がムッソリーニに政権をもたらした。第二次世界大戦でイタリアが不利になるまで、首相の権力を手放すことはなかった。地理的なイタリア本土の隣に、リビアとドデカネス諸島（トルコ沖のエゲ海に浮かぶ群島でロードス島が支配していたが、1912年のイタリア・トルコ戦争の後でイタリアに併合された）の植民地飛び地も含む。

**ドイツの得点 [Germany Scoring] (#3)** カイザー・ヴィルヘルム二世退位後の政治的空白を経て、ドイツは共産主義者や社会主義者の反乱に悩まされ、しばしば右翼民兵によって流血弾圧された。ドイツの得点領域は、マゲデブルクや東プロイセンの飛び地など、いくつかの重点地域と密接に結びついている。

戦時中の社会党党首でありながら、フリードリヒ・エーベルト [Friedrich Ebert] (#4) は革命に反対し、民主的な方法で権力を得ることを好んだ。君主主義者であった彼は、ヴィルヘルム退位後のヴァイマル共和国初代大統領に就任した。ソヴィエトのような「労働者評議会」を嫌った彼は、その設立を阻止できない場合は、彼の支持者たちがそれを支配するようにした。蜂起を嫌い、軍部の支援を得て、共産主義者と右翼の両方を粉砕し、政治領域の両過激陣営から嫌われた。

第一次世界大戦中、ガリポリでの失敗の後で傍観者となっていたウィンストン・チャーチル [Winston Churchill] (#5) は、それでも英国政治における重要な発言者であった。30年代の大半は「砂漠で悲嘆にくれていた」彼は、イギリス社会で最初にドイツの再軍備に警告を発した人物の一人である。ドイツのポーランド侵攻後、彼は孤立を脱し、戦時首相への第一歩を踏み出した。このカードでは、彼は協商国内部の介入派閥を代表し、ロシア内戦では白軍を支援する一方、植民地では強硬策をとり、ヨーロッパに対しては大陸戦略をとった。

ミゲル・プリモ・デ・リベラ [Miguel Primo de Rivera] (#6) は、スペイン政府に対して軍事クーデターを起こし、憲法を停止して戒厳令を敷いた。20年代後半の経済不況と、軍と国王の支持を失ったことで、プリモ・デ・リベラは1930年に政権から転落した。

**ヴァイマル共和国 [The Weimar Republic] (#7)** は、憲法制定議会が開かれた都市ヴィルヘルミンに因んで名付けられた帝国の後継国家である。右翼のフライコアと共産主義者のスパルタクス団との間でベルリン市街において続く戦闘を避けるため、休戦につながった「裏切り行為」の責任を問われた政治家たちによって設立された。ドイツでは共和制がドイツの右翼に人気はなく、最終的には解散に至った。

1918年から1935年まで、新生チェコスロヴァキアの外相を務めたエドヴァルド・ベネス [Edvard Benes] (#8) は、チェコスロヴァキア的外交政策を形作っただけでなく、それを体現した。初代チェコスロヴァキア大統領マサリクの弟子であり、1935年のマサリク引退後にその後継者として国家元首に就任した。平和と小協商国の安全保障体制に尽力し、1938年のミュンヘン協定とそれに続くチェコスロヴァキアの解体を受け入れざるを得なり、同年10月に辞任した。その後、ロンドンからチェコスロヴァキア亡命政府を率い、チェコスロヴァキアにとって戦後初の国家元首となり、1948年の共産党による政権奪取で失脚した。

**ドーズ計画/ヤング計画 [Dawes Plan/Young Plan] (#9)** ヴェルサイユ条約は、ドイツが（主に）フランスと大英帝国に莫大な賠償金を支払うことを求めた。ドイツの支払い不履行を受け、現物支給の不定期化、ルール占領などを経て、チャールズ・ドーズ（1924年）、後にオーウェン・ヤング（1929年）が委員長を務めた。ドーズ計画は実行不可能と判明しヤング計画に取って代わられた。ナチス政府が債務を否認したため、この計画は無効となった。

第一次世界大戦後の狂乱の20年代は、未来への楽観的な見方と産業革命の進展により、株式市場が大きく上昇した時代であった。1929年10月25日、NYSEの株価が暴落したときに全てが終わった。この出来事（3月の小規模な暴落、9月のロンドン暴落に続く）は、ウォール街大暴落 [Wall Street Crash] (#10) とも呼ばれ、大恐慌の始まりであった。

**ホルティ提督 [Admiral Horthy] (#11)** は、かつてのオーストリア・ハンガリー海軍総司令官で、陸続きのハンガリーの独裁者となった。ハプスブルク家の再興が許されなかったため、ホルティは国家元首となった。ホルティはナチスと同盟を結び、その同盟を通じてハンガリーの「ヴェルサイユ条約」であるトリアノン条約によって割譲された領土を取り戻した。ハンガリーは1941年にソ連侵攻を支援し、1944年10月に連合国に降伏した。ホルティは戦争を生き延び、亡命地ポルトガルで余生を過ごした。

国際連盟は、パリ講和会議後の1920年1月に設立された。その広範な活動範囲には、**国際連盟の介入 [League of Nations Intervention] (#12)** を導く集団保証と非武装だけでなく、労働条件、少数民族の扱い、世界保健なども含まれていた。合衆国は戦時中のウッドロー・ウィルソン大統領が創設に尽力した国際連盟に加盟せず、孤立を選択した。自前の軍隊を持たず（したがって加盟国の武力介入に



## THE INTERBELLUM YEARS 1920-1939

依存していた)、それは断続的にしか起こらず小国が関与する場合に限られていた。その大きな失敗である第二次世界大戦後、連盟は国際連合に取って代わられた。



1928 年、ケロッグ・ブリアン協定 [Kellogg-Briand Pact] (#13) は、当初ドイツ、フランス、合衆国によって調印されたが、その後は大部分の国が署名した。これは、紛争解決に戦争を用いず平和的解決を目指すという国際協定である。その執行メカニズムの欠如により実効性はなく、国家は宣戦布告をしなくなった。

1923 年 11 月、ナチ党はバイエルンでクーデターを企て、ヴァイマル共和国を解体するための活動拠点設置を企図した。これは演説を行うバイエルン州ビュルガーブローイケラーへの行進のため ミュンヘン・ビアホール一揆 [Munich Beer Hall Putsch] (#14) と呼ばれ、アドルフ・ヒトラーとエーリッヒ・ルーデンドルフ（第一次世界大戦後期におけるドイツの事実上の指導者）率いるナチス国民革命を宣言した。その目的は警察や帝国軍ではなく、ベルリン政府に対するものだった。一揆は失敗し、警察や軍との闘争の中で 20 人が死亡した。ヒトラーは当初逮捕を免れたが 2 日後に捕らえられ、国家反逆罪で裁判にかけられて投獄された。

1922 年 10 月、ムッソリーニのファシスト党黒シャツ隊はローマ進軍 [March on Rome] (#15) を行った。この反乱により、イタリア国王は、広く支持されたファシストの反乱を鎮圧するために軍隊を使うのではなく、ムッソリーニを首相に任命した。

ヨシフ・スターリン [Joseph Stalin] (#16) はボリシェヴィキの指導者の一人で、十月革命後に政治局に加わった。内戦とソ・ボ戦争の間、スターリンはいくつかの軍事指揮官を歴任した。1924 年のレーニン死後、スターリンは党書記長に就任してソ連の指導者となった。彼の指導の下でロシアは急速に工業化され、農業は集団化された。この中央集権的な指令経済の成功と失敗の両方による内圧のため、スターリンは大粛清を行って反対派を黙らせ、ソ連を絶対的に支配した。第二次世界大戦では当初中立だったが、バルバロッサ作戦の後、スターリンは西側諸国と同盟してドイツを破り、冷戦が始まった。1953 年の死後、後継者のニキータ・フルシチョフは、ソヴィエト連邦の脱スターリン化を命じた、

ドイツの経済状況の悪化に伴うヴェルサイユ賠償金の不履行により、フランス軍とベルギー軍（賠償金の最大の受取国の 2 国）が協力して、ルール占領 [Ruhr Occupation] (#17) を実行した。その主要工業地帯を支配することで、実際にはドイツの経済状況を悪化させた。1925 年、ドーズ計画を受け入れた後で、フランスとベルギーは占領を解除した。

エルンスト・テールマン [Ernst Thälmann] (#18) は、20 年代後半から 30 年代前半にかけてドイツ共産党の指導者だった。極右の国民党と同様に、彼の指導の下で KPD はヴァイマル共和国を不安定化させ、その転覆を図った。ドイツ社会党を主敵とみなし、左翼の

統合を阻んだ。ヴァイマル共和制末期は右翼の指導下にあった。1933 年、ナチスによる政敵弾圧の最中に逮捕されて 11 年間投獄され、1944 年に処刑された。

フランスの穏健左翼政党は二度、カルテル・デ・ゴーシュ [Cartel des Gauches] (#19) として協力し、1924 年と 1932 年の総選挙で勝利した。30 年代初頭の不安定な政権は、より強力で広範な人民戦線に導かれることになった。

グスタフ・シュトレゼマン [Gustav Stresemann] (#20) は、ヴァイマル共和国で最も長く外務大臣を務めた人物で、短命政権に安定をもたらした。外相として独仏の和解に尽力し、ロカルノ会議ではドイツ代表として参加した。第一次世界大戦の前後には、帝政ドイツの膨張主義を支持した君主主義者であった。共和国に仕え、ヴェルサイユ条約の改正を達成するために、賠償金支払いなどの問題で列強と協力した。中欧諸国との外交的和解には反対していたがケロッグ・ブリアン協定には調印し、ドイツが平和的変革に尽力していることを多くの人々に納得させた。

1905 年のフランス政教分離法により、カトリック教会の権力は衰退した。1920 年のジャンヌ・ダルクの列聖 [Canonization of Joan of Arc] (#21) は、1924 年にピウス XI 世とフランス国家との間で結ばれたコンコルダート（協約）を表している。

クーデターに失敗したアドルフ・ヒトラーは、ランツベルク投獄中に反ユダヤ主義統一計画並びに大ドイツの東欧におけるレーベンスraum（生存圏）の必要性を我が闘争 [Mein Kampf] (#22) で説いた。



レオン・トロツキー [Leon Trotsky] (#23) はロシアの革命家で、1905 年のロシア革命を組織し、その後、二月革命後まで亡命生活を送った。ボリシェヴィキ政権下で外務委員に就任し、ロシア内戦中に赤軍司令官となった。世界革命にコミットし、一国社会主義を重視するスターリン主義に反対して 1929 年にソ連から追放された。1940 年、彼はメキシコシティで NKVD に暗殺された。

1922 年、経済金融会議がジェノバで開催された。この会議は、当時のヨーロッパの主要な問題を解決するために計画されたものであった。戦争勝者だけでなく、ドイツとロシアの追放国も参加した。会議自体は成功しなかったが、その主な原因はフランスとソヴィエトの意見の不一致にあった。ドイツとソ連の代表は、並行して開かれたラッパロ条約 [Treaty of Rapallo] (#24) に調印し、ブレスト・リトフスク条約を破棄し、外交・軍事・経済関係を回復した。ヨーロッパにおけるそれぞれの孤立は事実上解消された。

ヨゼフ・ピウスツキ [Jozef Piłsudski] (#25) はポーランドの政治家で、大戦中、ロシア帝国の敗北と東部戦線の休戦まで、ポーランド軍団を結成し、中欧列強軍とともに戦った。大戦後、ピウスツキはポー

ランドの国家元首となり、ソ・ポ戦争など6つの国境戦争でポーランド軍を指揮した。1923年、ピウスツキは政敵がポーランド政府を支配する中で政治家として引退し、1926年のクーデター後に復帰した。1935年に死去するまで、ポーランドの軍事・外交問題を支配し続けた。

1922年、戦勝連合国は、新たな海軍軍拡競争を防ぐため、**ワシントン海軍条約 [Washington Naval Treaty] (#26)** に調印した。30年代に、1930年と1936年のロンドン海軍条約で条件が修正されたが、イタリアと日本が海軍の制限を無視するようになる一方、英独海軍協定によってドイツ海軍の建造制限は撤廃されたため、他の海軍大国も制限を撤廃し、海軍建造の休暇を終了するしかなかった。

**ヴァチスラフ・モロトフ [Vyacheslav Molotov] (#27)** はボリシェヴィキで、1921年に中央委員会のメンバーとなった。スターリンの弟子として、レーニンの死後1926年に政治局員となった。ソ連首相として、モロトフは五カ年計画を監督し、大粛清の中心人物であった。その後集団安全保障の失敗とその擁護者であったリトヴィノフの失脚後、モロトフは彼の後継者として外務人民委員に就任した。この職責において、モロトフは独ソ不可侵条約（モロトフ・リッベントロップ協定）に調印した。第二次世界大戦中、モロトフは西側連合国との交渉に尽力した。モロトフ自身は1949年にスターリンと対立したが常に脱スターリン化に反対し、1961年に共産党から解任された。

モロッコは、フランスとスペインに分割されており、この分割は1912年に確認されていた。1920年、アブド・エル・クリム率いるリーフ山脈のベルベル人部族がスペイン植民地支配に反旗を翻した。紛争の初期にベルベル族はゲリラ戦術を駆使して優勢に立ち、スペインの植民地支配に大打撃を与えた。1925年、**リーフ戦争 [Rif War] (#28)** はフランス領モロッコに拡大した。ウアルガの戦いで敗北を喫した後、フランスは最も強力に介入し、プリモ・デ・リベラの率いるスペイン軍とともにアブド・エル・クリムを破り、戦争は終結した。ベルベル人が独立するのは、1956年にモロッコが植民地でなくなってからである。リーフ戦争そのものが、後のアルジェリア独立戦争（1954-1962）の先駆けともいえる。

第一次世界大戦後、敗戦国は戦争賠償の対象となった。いくつかの戦勝国は、自国の損失を取り戻すために賠償金を妥当で負担可能な高さに設定することを望んだ。特にフランスは、ドイツとその経済を永久に機能不全に陥れることに決めた。この賠償金の少なくとも一部の支払いを得るための長い追跡劇（あるいはその回避）は、ドイツとその経済を永久に機能不全に陥れようとするものであった。その回避をめぐる、20年代には何度も外交会議が開かれた。大戦の激戦地であったフランスとベルギーに与えた永続的な損害だけでなく、参戦国は戦時中に深刻な債務を負った。これらの**戦時債務 [These War Debts] (#29)** は、主にイギリス（それ自体が戦争の結果、債権国から債務国へと変貌を遂げた）とアメリカに対するものであった。戦間期を通じてヨーロッパの大国につきまとうことになる。

国際連盟の加盟は当初、大戦の「勝者」に限られており、ベルリンでは国際連盟はドイツをさらに弾圧するための道具と見なしていた。1924年、グスタフ・シュトレゼマンは自国の加盟を請願した。最初は拒否されたが、最終的に1925年のロカルノ会議と二度目の請願により、ドイツは1925年に**国際連盟 [League of Nations] (#30)** に加盟し、理事会の常任理事国となる。

第二インターナショナルは、戦争を防ぐことができなかった。戦争が勃発すると、その構成政党である社会党は、自国の戦争に反対するどころか「帝国主義」戦争に反対し、破壊工作を行う代わりに、自国の戦争努力を支援した。その結果第三インターナショナルが解散して第一次世界大戦は終結し、共産主義インターナショナル又は**コミンテルン [Comintern] (#31)** が設立された。コミンテルンはモスクワによって管理され、スターリンが西ヨーロッパと中央ヨーロッパの共産党を支配する手段であった。1943年、スターリンによって解散させられた。1947年、コミンフォルムがその後継組織として設立された。

国防と外交の双方にとって非常に重要なのは、信頼できる情報である。**参謀本部第二局 [Deuxième Bureau] (#32)** は、第三共和国の対外軍事情報機関であった。ドイツの軍事力を過大評価したことが、アドルフ・ヒトラーに対するフランスの宥和政策の直接的な原因であった。

**クロワ・ド・フー [Croix-de-Feu] (#33)** は、第一次世界大戦後まもなく創設されたフランスの民族主義的な退役軍人同盟のひとつである。その指導者フランソワ・ド・ラ・ロックの下、ドイツ恐怖症のナショナリズムと強力な社会主義プログラムを結びつけ、最低賃金、有給休暇、女性の選挙権などを目指していた。フランス右翼の最強準軍事組織である。34年2月のデモに参加したが、その後の暴動には参加しなかった。人民戦線政府によって他の民族主義組織とともに解散させられたド・ラ・ロックは、その後任としてパルティ・ソシアル・フランセを結成した。そのスローガン「労働、家族、愛国」は後にヴィシー・フランスに流用され、革命のモットー「自由、平等、友愛」にとって代わられた。

第一次世界大戦のドイツ帝国の資金は、借入金によって賄われた。ヴェルサイユ条約によって要求された戦争賠償金はこの問題を悪化させた。1921年6月、マルクの切り下げが始まった。ドイツによる裏付けのない紙幣を印刷した賠償金の支払いは、1922年と1923年中にドイツに**ハイパーインフレ [Hyperinflation in Germany] (#34)** をもたらし、明らかに裏目に出た。ドイツは外貨による賠償金の支払いができなくなり、戦争で被害を受けなかったドイツの主要工業地帯ルール渓谷を連合国が軍事占領したため、現物（特に石炭）による支払いを余儀なくされた。インフレは、最終的に無価値の紙マルクを金貨に裏打ちされたレンテンマルクに置き換え、物価を1兆分の1に引き下げた。



第一次世界大戦の功労者、**エドゥアール・ダラディエ [Eduard Daladier] (#35)** は、急進党の党首として第三共和制で多くの役職を歴任した。レオン・ブルムの人民戦線政権では、首相と国防大臣を務めた。ヒトラーの最終的な目標に幻想を抱くことはなかったが、ミュンヘン協定のフランス側調印者であり、ポーランド侵攻時にはフランス首相を務めた。セダンの戦いでフランスが敗北するまで、レイノー内閣の国防大臣を務めた。



彼はフランス領モロッコで逮捕され、ヴィシー政府によって反逆罪で有罪判決を受けて投獄された。第二次世界大戦後、1958年の第五共和制成立まで政治活動が続いた。

ヴェルサイユ条約によって、ドイツ軍はわずか 10 万人の陸軍と限られた将校団、スケルトン・サイズの海軍に限定され、戦車や潜水艦、航空兵器の保有も禁止された。ヴァイマル共和国は、当初からこれらの制限を回避して **秘密裏の再軍備** [Clandestine Rearmament] (#36) を行い、警察部隊や準軍事組織が訓練されて武装された。一方、パイロットは民間学校で訓練され、ドイツ空軍の中核となった。1929 年以降のドイツとソヴィエト連邦の軍事協力により、戦車の研究、設計、訓練がカマの学校で行われ、戦闘機パイロットはリペツクの空軍基地で訓練された。

アンブロージョ・ダミアノ・アキッレ・ラッティは、1922 年の **教皇ピウス XI 世** [Pope Pius XI] (#37) の選出から 1939 年の死去までカトリック教会の長だった。経済的には、社会主義と自由奔放な資本主義の両方に反対を唱え、協力と連帯に基づく経済を構想した。彼は教皇として多くの協定を結んだが、その全てが長続きするものではなかった。1929 年のラテラノ条約によってイタリアとの関係が正常化され、バチカン市国を独立国家として創設し初代国家元首となった。20 年代初頭には、第三共和政とのコンコルダートによってフランスとの関係が改善された。極右のアクション・フランセーズをローマ法王が非難したこともあり、フランスとの関係は改善された。1933 年のライヒスコンコルダート（政教条約）は、共通の反ボルシェビズムを基礎としていたが、カトリック団体が解散させられ主要なカトリック信者が逮捕されたため、この協定はすぐに破棄された。ローマ教皇としての晩年は、ヒトラーやムッソリーニに反対し、全体主義や反ユダヤ主義の台頭を憂慮した。教皇ピオ XI 世は 1939 年に死去し、ピウス XII 世が教皇の座を引き継いだ。

1925 年、スイスでロカルノ条約と呼ばれる 7 つの協定が結ばれた。これらの条約は、ヴァイマル共和国を対等国として扱って関係を正常化し（対照的に、パリ不戦条約はドイツを敗北した劣等国として扱った）、国境の不一致を解決してドイツの西側国境における保証を提供した。このような条約が結ばれ、それが狂乱の 20 年代の終わりまで続き、ときには **ロカルノの精神** [Spirit of Locarno] (#38) と呼ばれる。

ロスト・ジェネレーション（失われた世代）とは、1920 年代にパリに住んでいた **アメリカ人国外居住者** [American Expatriates] (#39) のグループ名である。アーネスト・ヘミングウェイ（文芸活動のかたわらジャーナリストとしてスペイン内戦を取材した）、ガートルード・スタイン、F.スコット・フィッツジェラルドなどがある。広義には、第一次世界大戦中またはその直後に成人した人々の集団全体を指す言葉としても使われた。

第一次世界大戦終結後のドイツ革命期中、復員した退役軍人がヴァイマル共和国を転覆させようとする共産主義革命派と戦うため、準軍事組織 **フライコーア** [Freikorps] (#40) に参加した。ベルリンやバイエルン・ソヴィエト共和国でのスパルタシストの蜂起のような反乱は、流血で弾圧された。その他にも、突然の休戦と政治家たちからの背中への短剣に裏切られたと感じた兵士たちが、その怒りを共産主義者たちにぶつけた。1920 年 3 月、いくつかのフライコーアがヴァイマル政府転覆を企てたが、ストライキによって失敗に終わった。フライコーアの元指導者の多くは、長いナイフの夜に粛清された。

第一次世界大戦前と戦中はすでにベテランの政治家であった、**アリスティード・ブリアン** [Aristide Briand] (#41) は戦後フランスの中心人物で、1921 年に 4 度目の首相となり、1925 年から 1932 年に亡くなるまで外相を務めた。外相として独仏和解に尽力し、ケロッグ・ブリアン協定の共同提案者を務めた。国際連盟の可能性を強く信じていた彼は、経済協力と集団安全保障に焦点を当てた欧州連合を提案した。しかしグスタフ・シュトレーゼマンの死後、ドイツとの関係が悪化したために採用されることはなかったが、第二次世界大戦後のヨーロッパ（経済）共同体、そして後のヨーロッパ連合（EU）の着想と枠組みとして見ることができる。

1924 年、左翼政治家ジャコモ・マッテオッティがファシストによって殺害され、左翼野党は抗議のために議会から脱退した。この **アヴェンティノーの脱退** [Aventine Secession] (#42) は裏目に出て、抗議した代議員はその地位を失った。反対派がいなくなったムッソリーニのイタリアは、事実上の一党独裁国家となった。写真は第一次アヴェンティノーの脱退である。元老院が平民のトリビュンという形で平民の代表を認めて初めて復帰した。

第一次世界大戦中、最初の戦車が戦場に現れた。休戦後、**機械化戦の創始者たち** [Mechanised Warfare Pioneers] (#43) は、この新兵器の最適な使い方を模索した。一方、保守的な軍事思想家たちは、戦車を既存の歩兵部隊や騎兵部隊に戦術的なレベルで統合しようとしただけだった。一部の革新者たちは、深い戦略的浸透（優位を防御側ではなく、攻撃側に返すこと）を構想していた。そのためには、煩雑で信頼性が低い陸上軍艦の技術的改良が必要だった。フランスとイギリスがこの問題で先鞭をつける一方（イギリスは、独立した戦車師団を持つ最初の国となった）、第一次世界大戦で敗れた国々（戦術的、戦略的な改良を切望していた）では、ソヴィエトが急速に工業化を進めて自国を機械化して先駆的な仕事を完成させ、ドイツは戦車を歩兵支援として分散させるのではなく、パンツァーヴァッフェに集中させた。写真には、次のような革新者が写っている（左から右へ）：J.F.C.フラー、シャルル・ド・ゴール、ミハイル・トゥハチェフスキー、ハインツ・グデーリアン、B.H.リデル・ハート。

フランスが第一次世界大戦から学んだ教訓は、断固とした軍隊の堅固な防御は克服できないということだった。その教訓を受け、フランスはドイツ・フランス国境沿いに巨大な要塞ラインを作り上げた。陸軍大臣アンドレに因んで名付けられたマジノ線は、ドイツ軍がアルザス・リヨン経由でフランスに侵攻するのを防ぐ障害となるか（フランス軍は適切な装備も訓練も受けていなかった）、あるいは要塞を「迂回」させ、ベルギーを経由して攻撃させて戦場をフランス国外に移すことを意図していた（そこで英仏連合機動部隊がベルギー軍を支援することができる）。この **マジノの精神性** [Maginot Mentality] (#44) は、1940 年にドイツ軍装甲部隊がアルデンヌに侵入して連合軍を真っ二つに切り裂き、最終的にマジノ線の後方まで攻め込んだ際に幻であったことが証明された。

**ジャコモ・マッテオッティ** [Giacomo Matteotti] (#45) は、1920 年代初頭、イタリア下院の社会主義統一党の党首で、イタリアの第一次世界大戦への参戦に反対した。彼は 1924 年 6 月、ファシストの黒シャツ隊に殺害され、ヨーロッパのファシズム批判を招いた。

1891年から、トマーシュ・マサリク [Tomáš Masaryk] (#46) は、チェコ代表の一人としてオーストリアの国会議員を務めた。第一次世界大戦中、マサリクはチェコスロヴァキアの独立を請願し、西ヨーロッパ、ツァーリ時代のロシア、アメリカを歴訪しながら、国外居住のチェコ人、スロヴァキア人を組織し、チェコスロヴァキア軍団（主にロシアで捕らえられた捕虜で構成）を設立して連合国側で戦った。1918年11月、彼は新しく設立されたチェコスロヴァキア共和国の初代大統領に選出された。1935年に辞任するまで、内外の圧力から多文化国家を守った。ミュンヘン協定と彼のライフワークの解体に立ち会うことなく、1937年に死去した。

君主主義、資本主義、帝国主義の明らかな失敗が、第一次世界大戦の大混乱を引き起こした。多くの社会主義、共産主義の反乱が起こった。保守派や民族主義者のグループは、そのような反乱を鎮圧するために白色テロ [White Terror] (#47) に転じた。特に、ロシア内戦中はツァーリストの「白軍」によって、ペーラ・クンとソヴィエト共和国の敗北後はハンガリー人たちによって、9月の反乱失敗後にはブルガリアで、革命家と疑われた者たちが処刑された。



大英帝国の得点 [The United Kingdom Scoring] (#48) 領域は、イギリス、その海外領土であるジブラルタル、英連邦と帝国、エジプトのスペース、パレスチナで構成されている。エジプトは1922年に名目上独立したが、イギリスはまだこの国に大きな影響力を持っており、とりわけスエズ運河はエジプトにとって重要な動脈であった。脱植民地化は、世界大戦後の戦間期まで待たなければならなかった。一方、インドではいくつかの自治への取り組みが行われており、大部分の植民地はまだ植民地のくびきの下にあった。1926年の帝国議会で、白人植民地は対等な地位にあることが確認され、英連邦に属するとみなされた。イギリスは戦間期に保守党が支配し、自由党の代わりに労働党が主な野党となった。イギリス共産党は周辺政党だった。同様に、オズワルド・モズレー男爵によって設立されたファシスト連合も存在したが、大衆にアピールすることはなかった。それにもかかわらず、イギリス社会にはファシストやナチスのシンパが多かった。ウェストミンスター公爵、ロンドンデリー公、ユニティ・ミットフォード、さらには離婚者のウォリス・シンプソンとの貴賤相婚関係が原因で退位したエドワード・ウェールズ皇太子などもその一人である。

オーストリア・ハンガリー帝国の後継国は、「帝国内の」少数民族に独立を認めたが、チェコスロヴァキアのズデーテン・ドイツ人、ポーランド人、ハンガリー人、クロアチア人、ハンガリー人、セル

ビア人支配下のユーゴスラヴィア・クロアチア人、ボスニア人、ルーマニアのトランシルヴァニアにはドイツ人とハンガリー人などの主要な少数民族を内包していた。これらの少数民族はしばしば抑圧され、あるいは少数民族の代表としての地位が低かった。ウィルソンの「十四カ条」で約束された民族自決 [Determination] (#49) を求めたが無駄だった。独立（あるいは少なくとも自治や自治権）を求めたのは彼らだけでなく、アイルランド自由国のアイルランド人、ベルギーのフラマン人、そしてバルト三国やダンツィヒのドイツ人もいた。

世界大恐慌は、アメリカ経済に依存していたドイツ経済に大波乱の影響をもたらした。次の選挙を念頭に置いて（ドイツ国内外の）、社会党や共産党が選挙で勝利するのを阻止するためにナチ党が選ばれた。ナチ党は反資本主義と社会改革を支持する強力な左翼を擁していたが、党全体としては階級闘争の概念を否定し、国家が繁栄するためには、ドイツの労働者と資本家の両方が必要であると説いた。フリッツ・ティッセンやアルフレート・クルuppといった実業家後援者 [Industrialist Enablers] (#50) たちは、入党する前にナチ党に多額の献金をしていた。一旦ナチス国家が樹立されれば、高収益、国家公認の独占企業、安価な外国産業の買収、奴隷労働者の使用などを通じて、ナチス国家から多大な利益を得ることになり、開戦後には強制収容所からの奴隷労働者を利用した。イデオロギー面ではグレゴール・シュトラッサーが、準軍事面ではエルンスト・レームが率いた党内左派は、長いナイフの夜の間に粛清された。



国会議事堂の炎上とドイツ共産党の弾圧から6日後、ドイツで連邦選挙が行われた。ナチスのテロ・キャンペーンに続く 33 年の選挙 [Election of '33] (#51) は、1946年までドイツで行われた最後の複数政党による選挙であった。ナチ党が多数を占めることを意図していたが、それでも44%の得票率に留まり、可決するまでドイツ国民人民党の支持に頼り続けた。

アドルフ・ヒトラー [Adolf Hitler] (#52) は、オーストリアで生まれた。ウィーンの美術アカデミーを退学し、オーストリア・ハンガリー軍では不適格とされ、ミュンヘンに移った。第一次世界大戦中はドイツ軍で西部戦線に従軍して伍長の階級に昇進し、勇敢な功績により複数の叙勲を受けた。1919年にドイツ労働者党に入党し、1923年のクーデターに失敗後、ヴェルサイユ条約に対する一般民衆の攻撃、反ユダヤ主義、反ボリシェヴィズム、汎ドイツ主義を掲げてナチ党の人気を高めた。1933年には、ドイツ左翼の分裂と汎ドイツ主義の台頭により政治的不安定が数年間続き、右翼は安定した連立を組むことができず、政治が不安定になった数年後に彼は首相に任命された。まもなく、ヴァイマル共和国をナチスの一党独裁体制へと変貌させた。ナチスによるドイツ支配の初期は、権力強化、経済回復、再軍備に費やされた。我が闘争に書かれているように、ヒトラーはドイツ国民の生活空間の拡大に努め、外交的勝利と先の



大戦で失われた領土の回復に何年も費やし、一方で戦争の準備を進めた。それは1939年に勃発した。1945年、ヒトラーはソヴィエト軍に捕らえられぬよう自決した。

20年代の前半以来、**ドゥーチェ [Duce] (#53)** として知られているベニート・ムッソリーニは、イタリアのファシスト党を率いて彼らを通じてイタリアの首相を務めた。新ローマ帝国を作るために戦争を望み、新しいイタリアと新しいイタリア軍を必要とした。1939年の開戦には参加しなかったが、1940年6月、漁夫の利を得るためにしぶしぶ対フランス戦争に参加した。1943年の連合軍によるイタリア上陸後に失脚し、大胆なスコルツェニー・コマンド部隊の襲撃によって捕虜から解放されてイタリア共和国を短期間率いたが、レジスタンスに捕らえられて処刑された。

権力を強化し反対勢力を排除するため、SSとゲシュタポはSAの主要メンバーやナチ党内外のヒトラーに反対する（と思われる）者を**長いナイフの夜 [Long Knives] (#54)** の間に粛清した。殺された者の中には、SAの幕僚長でヒトラーの最も長い盟友の一人であったエルンスト・レーム、ナチ党左派のトップであったグレゴール・シュトラッサー、クルト・フォン・シュライヒャー元首相、バイエルンの政治家で1923年のミュンヘンのピアホルー揆を鎮圧したグスタフ・フォン・カールがいた。

政治家家系の一員であった**アーサー・ネヴィル・チェンバレン [Arthur Neville Chamberlain] (#55)** は、父ジョセフ（ボーア戦争時の植民地担当国務長官）と異母兄のオースティン（ロカルノ条約の調印者）の跡を継いで1918年に国会議員に、1923年には大臣に就任した。1937年、チェンバレンはスタンリー・ボールドウィンの後任として首相兼党首に就任した。チェンバレンは、宥和政策（アピーズメント）時代の英国首相として知られ、最も有名なのはアドルフ・ヒトラーとのミュンヘン協定の交渉である。ドイツが1939年にポーランドに侵攻した後、チェンバレンは対独宣戦布告を発表した。1940年5月10日、ドイツのフランス、ベルギー、オランダ侵攻が始まり、チェンバレンは首相を辞任して後任にウィンストン・チャーチルが就任した。

国際連盟にとって、加盟国や非加盟国を問責する数少ない方法のひとつが**制裁 [Sanctions] (#56)** であった。武力の行使と同様、国際連盟は大国が制裁に同意することを必要とした。制裁は、問責された国だけでなく、その主要な貿易相手国にも打撃を与える悪効果を併せ持つことが多かった。アビシニア侵攻後のイタリアへの制裁は、石油の販売が禁止されず、スエズ運河がイタリアからの輸送を禁止されなかったため効果がなかった。それは、紛争の拡大を避けるためだった。スペイン内戦の間、大国は紛争を（主にフランスに）拡大させる可能性のある制裁よりも、欠陥のある不介入主義（国民党側にはドイツとイタリア、共和国側にはソ連によって破られた）を優先した。

ミゲル・プリモ・デ・リベラの独裁政権の終焉に続き、**スペイン第二共和制 [Second Spanish Republic] (#57)** が樹立された。王政が終わりを経て、国王アルフォンソ XIII 世は国外へ亡命した。

通称**ジュネーブ軍縮会議 [Geneva Disarmament Conference] (#58)** は、20世紀最初の数十年間の軍国主義を受け、国際連盟規約で規定されている軍備の削減と制限を目的として30年代初頭に開催された国際軍縮会議である。集団安全保障に重点を置き、各国が部分的に軍縮できるように武器の分類（制限を定め、攻撃用か防衛用かを指定するため）が進んだ。しかし、その実施は困難であった。参加国の多くは、ドイツの再侵略に対して脆弱であった。つまり、保証のな

い軍縮を望まなかったのである。ヒトラーが権力を握ると、ナチス・ドイツは会議からも連盟からも脱退し、1934年11月に閉会した。会議が終わってからわずか5年後、新たな世界大戦が勃発した。

1931年9月、日本の関東軍は奉天で自作自演を企て、これを中国の反体制派の仕業とした。この奉天事件の後、日本は満州を占領した。この**満州事変 [Manchuria Invasion] (#59)** は国際連盟によって調査され、その告発的なリットン報告によって日本が国際連盟を脱退するきっかけとなった。国際連盟のフォローアップの欠如は、イタリアとドイツによる違反行為へとつながった。

国会議事堂炎上の後、ドイツ連邦議会がSAとSSの監視下にクローラ歌劇場で開かれ、首相にほぼ絶対的な権力を与えることを決議した。1933年の**全権委任法 [Enabling Act] (#60)** により、ドイツ内閣は大統領も議会も関与せずに法律を制定する権限を与えられ、それはヴァイマル憲法を覆すものであった。国会議事堂火災布告と合わせてヴァイマル共和国を終わらせ、ナチスの全体主義体制が始まった。

ヴェルサイユ条約に盛り込まれた条項のひとつは、ライン左岸に位置するラインラントの非武装化（および占領）だった。この非武装化により、フランスはある程度の安全保障を得ることができた。一方、占領は賠償金支払いの保証と見なされ、最長15年間（1934年まで）は続くとして予想されていた、**ラインラント撤退 [Rhineland Evacuation] (#61)** は、ヤング計画が承認された後の1930年に最後の占領軍が撤退した。この計画は、ドイツが賠償義務を履行することを保証しているかのようであった。

**クレメント・アトリー [Clement Attlee] (#62)** は、30年代の労働党野党党首だった。再軍備に反対する平和主義者で、宥和政策を批判して挙国一致内閣の副首相を務めた。第二次世界大戦後は労働党初の過半数政権で首相に就任し、国内での社会福祉国家の拡充に力を入れる一方、植民地支配の解体を監督した。

1919年、英国政府はウィンストン・チャーチルの提案に基づき、「大英帝国が今後10年間はいかなる大戦争にも参戦しないという前提」で軍備予算を編成するという規則を採用した。このルールは1928年に自己永続的なものとなり、国防費が大幅に削減されてイギリス海軍は帝国を防衛できないまでに衰退した。1932年の満州事変の後、**10年ルールの放棄 [Ten Year Rule Abandoned] (#63)** が行われたが、世界恐慌の影響により国防費はすぐには増加しなかった。イギリスの再軍備が再び活発化し始めたのは、宥和政策の失敗が明らかになってからである。

ドイツ陸軍は、ヴェルサイユ条約の制約を常々密かに軽視していたが、それはナチ党が政権を握りドイツが国際連盟と世界軍縮会議の両方から脱退してからである。その後、**再軍備の宣言 [Open Rearmament] (#64)** が行われ、1935年にはドイツ空軍の存在と徴兵制の再導入が発表された。

マルクス主義（およびレーニン主義）は、世界革命と世界的に確立された共産主義を唱えた。大戦後の共産主義革命の失敗を受けて、スターリンは「**国社会主義 [Socialism in One Country] (#65)**」の理論を展開した。この理論では、革命の輸出を成功させる前に、ソヴィエト連邦が資本主義国家による孤立を乗り越えるため、自身が強くなる必要があるという理論である。

30年代初頭、第三共和制は財政スキャンダルと不倫に悩まされた。**スタヴィスキー事件 [Stavisky Affair] (#66)**はそのうちのひとつで、金融家アレクサンドル・スタヴィスキーが関与していた。詐欺師である彼の計画は、しばしば司法やマスコミを脅すことで裏打ちされており、最後の計画はペイヨン市の質屋の偽債券の発行と、急進社会党のショータン首相の閣僚たちによるものだった。この計画が失敗に終わると、スタヴィスキーは銃殺死体で発見された。公式には自殺と断定されたが、右翼メディアは警察が彼を殺害したと推測した。彼の死と左翼政府との密接な関係が明らかになったことでショータン政権の崩壊につながり、ダラディエ新政権は一般民衆を沈静化させることに成功せず、1934年2月6日の危機を引き起こした。右翼のクーデターを防ぐためにダラディエは辞任し、フランスの保守派が再び政権を握ることになった。

**アンドレイ・フリンカ [Andrej Hlinka] (#67)**はカトリックの司祭で、1900年初頭からスロヴァキア民族運動を政治的に支援した。1913年にスロヴァキア人民党がスロヴァキア国民党から分離し、フリンカは党委員長に就任した。大戦後、フリンカはチェコスロヴァキア国会議員に選出され、そこから独立とチェコスロヴァキア民族の自治と独立のために精力的に戦った。彼は1938年に亡くなった。

第一次世界大戦の帰還兵がそれぞれの社会に戻って以来、（極端な）左翼と右翼の政党は暴力に疎い穏健派を恐怖に陥れ、最終的には彼らを打ち負かすために**街頭闘争 [Paramilitary Streetfighting] (#68)**に参加した。

第一次世界大戦が終結し、パリ講和会議後のフランスとドイツの関係は賠償金の支払いと債務不履行によってさらに悪化した。グスタフ・シュトレゼマンは、（ロカルノ条約を通じて）フランスの安全保障をドイツと英国に提供しようと努めた。1930年のラインラントからのフランス占領軍撤退は、**独仏和解 [Franco-German Reconciliation] (#69)**を導いた。



アドルフ・ヒトラーがドイツ首相に就任してから4週間後、国会議事堂放火事件が起こり、ヴァイマル共和国とその国民に保障された自由への攻撃を計画する口実となった。**国会議事堂の炎上 [The Reichstag Fire] (#70)**はその極めて重要な瞬間だった。オランダの共産主義者マリヌス・ファン・デル・ルッペが逮捕され、後に唯一の実行犯として有罪判決を受けた。これはドイツ人共産主義者の大量逮捕につながり、

ナチ党が過半数の議席を獲得した。歴史家たちは、この事件が自作自演であったかどうかはまだ定かではないが、ファン・デル・ルッペは2008年に死後赦免された。

第一次世界大戦中、多くの国が金本位制を放棄し、銀行券と金（または金を裏付けとする外国通貨）への兌換を停止した。ドイツの金本位制放棄は、ルール占領下での兌換不可能なマルクの印刷と相まって、戦費支出によるハイパーインフレの主因となった。1925年のイギリスの金本位制再開はデフレを招き、一方、戦前のドル・英ポンド為替レートに戻すとイギリスでは恐慌が起こった。各国はデフレを導く**通貨安定 [Currency Stabilization] (#71)**か、金本位制を復活させない（経済にプラスの効果をもたらす可能性があるが、威信は犠牲になる）かのどちらかを選択しなければならなかった。

**赤軍大粛清 [Red Army Purges] (#72)**は、赤軍の指導層から反スターリン主義者を排除することを目的とした大粛清の一環であった。316人の高級将校のうち269人が解任され、赤軍将校団全体の約5～10%が粛清された。その多くが第二次世界大戦中現役に復帰したにもかかわらず、これほど多くの高官（全将軍の90%、全大佐の80%）の解任が対フィンランド冬戦争と1941年のバルバロッサ時における赤軍不振原因のひとつであることは間違いない。

再軍備の進展によるドイツ経済の過熱を受け、ヒトラーの軍事的冒険計画が具体化した。ヒトラーを取り巻く環境では、より保守的な声が警戒を説いた。ヒトラーの目標に反対した**ドイツ軍将官 [German Generals] (#73)**（外相のフォン・ノイラートなど）は誰ひとりとしていなかったが、彼のやり方には疑問を呈した。その多くが、再び汎ヨーロッパ戦争に乗り出すことを躊躇していたからである。そのような内部の反対は、ヒトラーが初期にライン占領、オーストリア併合、ミュンヘン協定を結んだ後に沈黙した。総統府高級副官フリードリヒ・ホスバッハ大佐は、1937年11月にベルリンでヒトラーと軍、外務省指導部との会談を記録した。

**スペインの得点 [Spain Scoring] (#74)**。スペイン得点領域の設定は、隣接するマドリッド - バレンシア - カタルーニャの軸が隣接しているため、このシミュレーションでは1936年に勃発した内戦のマドリッドからバルセロナへと徐々に移動していく出来事と流れを再現することができる。さらに、カトリックと君主主義（カーリストとファニストの両方）のスペースは、陸軍のクーデターを支持した保守的な伝統主義者にとって重要で、スペインの西部と北西部にある内戦初期の反乱軍にとって、隣のモロッコ基地は重要な拠点だった。

単一国ではない唯一の得点領域である**小協商国の得点 [Little Entente Scoring] (#75)**は、フランスに支援されたチェコスロヴァキア、ユーゴスラビア、ルーマニアから成る。この3カ国は、オーストリア - ハンガリー帝国の一部から形成されたか、あるいは最近その一部を獲得した国で、当初ハプスブルク帝国の復活に対抗する目的で防衛同盟を結んだ。フランスがチェコスロヴァキアの同盟国を裏切ってミュンヘン協定に調印するまで（英仏同盟の不在）、30年代にはドイツに対するフランスの主要な武器となった。そして小協商は崩壊し、その構成国はそれぞれナチス・ドイツによって解体されるか、枢軸国の同盟国となるか、占領下に置かれることになった。第二次世界大戦後、チトー主義のユーゴスラビアだけが鉄のカーテンの陰に姿を消した。



1920年代から1930年代にかけて、イタリアのドゥーエ將軍を筆頭に、多くの軍事理論家が次の戦争は軍隊と産業の空中破壊によって勝利すると予想していた。「爆撃機は常に通過する」とは、スタンリー・ボールドウィンが議会で使った不吉な言葉である。速度の優位性と視認後の対応時間が不足する**空爆の脅威 [Threat of Aerial Bombing] (#76)** が常に貫徹されることを意味している。大規模な爆撃機の攻撃は、何十万人もの死傷者を出す可能性があるという恐怖と、自国の戦闘機と爆撃機部隊とドイツ空軍との間に齟齬があるとの認識が、西側民主主義諸国のナチス・ドイツに対する有和政策につながった。戦闘機設計の技術的進歩とレーダーの発明が、やがて空中戦の優位を取り戻すことになるのを1940年のバトル・オブ・ブリテンは証明した。

**フランシスコ・フランコ [Francisco Franco] (#77)** が33歳で准将になったとき、彼はヨーロッパで最年少の將軍だった。当初は王政の終焉と第二共和制の樹立を容認していたが、1936年7月にクーデターに参加した人民戦線の国民党側の3人の首謀者の1人で、他の2人の首謀者であるモラ將軍とサンジュルホ將軍が都合よく死亡したため、彼は単独で指揮を執り、すべての民族主義政党を統合した。彼の指揮下に戦争は残酷に遂行され、戦時中の殺戮と戦後の白色テロで数十万人が死亡した。共和制が倒されて国民党が勝利した後、フランコは一党独裁のスペインを統治し、1975年に死去してファン・カルロスの下で王政が再確立されるまで続いた。第二次世界大戦中は中立を保ちながら、内戦で受けた援助の恩返しとして枢軸国を支援した。

**アンドレ・レオン・ブルム [André Léon Blum] (#78)** は、フランス第三共和制時代のユダヤ人政治家である。1914年に前任者であり師であったジャン・ジョレスが暗殺された後、社会党党首となった。30年代半ば、人民戦線政権の首相を2度務め、経済・社会改革を指揮する一方、多くの過激派右翼を解散させた。彼はスペイン内戦への介入を控えて共産党の反感を買った。人民戦線の社会改革はフランスの再軍備を混乱させたが、その一方で、ブルム政権はフランス兵器産業に大規模な発注を行った。ヴィシー政府によって有罪判決を受け、第二次世界大戦中は投獄されて過ごしたが、戦後に今度は第四共和制の下で首相に返り咲いた。

**人民戦線 [Popular Fronts] (#79)** とは、1930年代のフランスとスペインにおける様々な政治グループの広範な連合体である。通常は、ファシズムに抵抗することを目的としていた。

1938年11月、ドイツの外交官エルンスト・フォム・ラートは、ポーランドのユダヤ人ハーシェル・グリンスパンによってパリで暗殺された。彼の死を口実に、ドイツでは反ユダヤ主義者による暴力が勃発した。この Pogrom 以前、ナチス支配下のユダヤ人は経済的、政治的迫害を受けていた。しかし、ヒトラーの台頭後に急増したユダヤ人移民は、ナチスの人種法が施行された後も減少していた。多くのユダヤ人は、ナチス人種法をドイツにおける自分たちの存在のための法的枠組みだと考えていた。来るべき事態の前触れである**水晶の夜 [Kristallnacht] (#80)** は、ユダヤ人迫害を物理的なレベルにまでエスカレートさせた。250以上のシナゴグが破壊され、7,000以上のユダヤ人企業が被害を受け、30,000人以上のユダヤ人が逮捕されて収容所に収監された。警察は干渉しないよう指示された。戦前のナチス・ドイツにおけるガラスが割れる夜はナチスの悪の象徴であり、憤激を呼び起こし、世界におけるドイツの地位を傷つけた。多くのユダヤ人は、彼らを受け入れてくれる世界各地に逃れた。第

二次世界大戦中、特にヴァンゼー会議でユダヤ人絶滅計画が急速に進められることになり、ドイツとポーランドの絶滅収容所で600万人以上のユダヤ人が殺害された。

1937年、バスクの町**ゲルニカ [Guernica] (#81)** への爆撃は、スペイン内戦中に国民党側で戦っていたナチスの義勇軍であるドイツ・コンドル軍団の爆撃機によるもので、世界中に衝撃を与えた。前線の後方に位置するゲルニカが標的として選ばれたのは、共和国軍の撤退ルート上にあったためである。爆撃時に町には女性と子供しかいなかったため、中立的な立場の観察者たちによってテロ爆撃とみなされ、残虐行為の象徴となった。ゲルニカは、この爆撃にインスパイアされたピカソの代表作である。

ナチス・ドイツによるミュンヘン協定破棄の反動として、イギリスは**ポーランドへの保障 [Guarantees to Poland] (#82)** を提供した。この保証は空約束であった。フランスもイギリスも、ドイツの侵攻に対して軍事援助を提供することができなかったからである。アドルフ・ヒトラーはこの保証を真剣に受け止めず、イギリスが中欧での自由裁量権を与え続けることを期待していた。モロトフ・リッペントロップ協定（ドイツとソヴィエト連邦の間で締結された協定でポーランドの分割が明確な目的であった）の調印後、相互援助協定がポーランドと英国との間で締結された。1921年以来、フランスはすでにポーランドと軍事同盟を結んでいた。これによりヒトラーは一息つくことができ、ポーランド侵攻は数日延期された。フランスとイギリスはポーランド侵攻後にドイツに宣戦布告し、ポーランドはドイツとソ連に分割された。この「まやかし戦争」は、1940年5月のベルギー侵攻まで続くことになる。ポーランドの兵士たちは、第二次世界大戦を通じて西側連合国とともに戦うことになったが、現実政治は第二の裏切りを引き起こし、ヨーロッパでの勝利の後にポーランドは鉄のカーテンの向こうに姿を消すことになる。

1936年、特にイタリアのアビシニア侵攻に何の反応も示さなかったことを考慮し、ヒトラーはヴェルサイユ条約とロカルノ条約の制約を破り、ラインラント再軍備に踏み切った。この**ラインラント進駐 [Rheinlandbesetzung] (#83)** は、訓練も装備も不十分で戦争準備が整っていなかったドイツ軍によって実行されたが、フランスとイギリスはこれに応じなかった。この不応答は、ヨーロッパにおけるナチスの無制限な拡張のための「白紙委任状」と解釈され、ヒトラーに外交政策の成功をもたらした。ヒトラーは、瀬戸際外交に反対する保守的な陸軍指導部の反対を押し切るために必要な外交政策の成功を手に入れたのである。

ファシズムは、大国だけに存在したわけではない。ヨーロッパのほとんどすべての国で、**ファシスト運動 [Fascist Movements] (#84)** が勃発した。第二次世界大戦中、その多くはナチスの協力者となり、あるいは親衛隊の新兵となった。有名な例としては、イギリス・ファシスト連合、クロアチア・ファシスト連合、クロアチアのウスタシェ、オランダのNSB、フラマンのVNV、ノルウェイのクヴィスリング、ルーマニアの鉄衛団などである。写真はワロン・レキシスト党の創設者であるレオン・デグレレル。

戦間期には、多くのファシスト指導者が、議会で多数を占めることなく、民主的な手段で政権を握った。民主的な制度によって権力が与えられると、彼らはそれを軽蔑して破壊しようとし、一党独裁を敷いて独裁者となった。**野党の廃止 [Opposition Parties were Abolished]**

(#85) が行われ、民主的なチェック・アンド・バランスなしで強者による直接支配が可能になった。

1938 年、チェコスロヴァキアとドイツとの戦争を回避するため、ヨーロッパの大国（フランス、ドイツ、イタリア、イギリス）は **ミュンヘン協定 [Munich Agreement] (#86)** を結び、ヒトラーがチェコスロヴァキアに要求していたすべてを与えた。イギリスのチェンバレンは、「遠く離れた国の、我々が何も知らない人々の間の諍い」によって引き起こされる新たな汎ヨーロッパ戦争を望まなかったからである。イギリスの再軍備の状況は、また戦争の危険を冒すことはできなかったため、宥和政策が唯一の選択肢となった。フランスはイギリスとの同盟の望みをつなぐため、最も忠実な中欧の同盟国を手放した。ミュンヘンから戻ったチェンバレンは、次のように宣言した。「我々の時代のための平和」と。しかし、チェコスロヴァキアはやがて地図から姿を消し、ポーランドとハンガリーが割拠し、スロヴァキアは独立を宣言してドイツはついにボヘミアとモラヴィア全体を飲み込んだ。ミュンヘン協定そのものは明らかに失敗だったが、西側民主主義諸国は膨張主義者の言葉を信頼することは不可能だと判断し、ヒトラーが次に試みた併合に立ち向かった。

西側民主主義国家のフランスとイギリスは、抑止力と宥和政策に依存していた。脅威は空虚なままであり、同盟関係は儚いものであることが証明され、アメリカは孤立主義を貫いて宥和政策は失敗した。独裁国家は飽くことを知らず、(軽微な) 国境修正や少数民族の自治以上のものを望んでいた。その結果、世界大戦を防ぐ唯一の道は、早期に **民主主義諸国の介入 [Democracies to Intervene] (#87)** が行われることであった。この政策は、第一次世界大戦を生き抜いた政治家にとっても、戦争に疲弊した国民にとっても、受け入れがたい政策であった。

**グライヴィッツ事件 [Gleiwitz Incident] (#88)** は、ドイツのラジオ局を狙った SS による一連の攻撃のひとつであり、その翌日のポーランド侵攻を正当化するものであった。

宥和政策の失敗を受け、西側民主主義諸国は再軍備で遙か先を進むドイツ、イタリア、ソヴィエト独裁主義国に追いつくべく、**再軍備の強化 [Rearmament Ramp-up] (#89)** に取り組んだ。最も、理想主義者だけは、平和主義と軍縮に固執していた。写真はチェコスロヴァキアのブルゼンにあるシュコダ戦車工場。

第一次世界大戦後、戦勝国であるフランスとイギリスは、国際連盟の委任統治領を「戦利品」として分割した。シリアとレバノン、フランスの植民地となり、イギリスはアラブ世界の大部分について、戦争中に独立を暫定的に約束した委任統治領を得た。しかし、これらの約束は破られ、バルフォア宣言後のパレスチナ入植者たちに対する反ユダヤ主義者の反応、委任統治者の植民地的態度、予算重視のイギリスが実行した「空中取り締まり」のすべてが **植民地の不穏 [Colonial Unrest] (#90)** を引き起こした。パレスチナとイラクにおけるアラブ人の蜂起、エジプトのトラブルメーカーたちが帝国の生命線であるスエズを脅かした。イギリス軍は帝国の義務に縛られ、ファシズムに対抗することも阻止することもできなかった。

内戦中のスペイン第二共和制を支援するため、コミンテルンは世界各地から集まった共産主義者の志願兵によって **国際旅団 [International Brigades] (#91)** を結成しソヴィエトから支援を受けた。

POUM (反スターリン主義の志願兵のグループ) など、いくつかの義勇兵組織が同時に存在した。しかし、スペイン政府の自由主義諸国からの支援獲得の試みにより、国際旅団は 1938 年に解散した。

**フランクリン・デラノ・ルーズベルト [Franklin Delano Roosevelt] (#92)** は、第 32 代アメリカ合衆国大統領だった。米国議会によるヴェルサイユ条約の否決 (国際連盟への不参加を含む) 後、アメリカの外交政策は孤立主義に支配され、ヨーロッパの諍いに再び巻き込まれることを嫌っていた。中立法に阻まれたルーズベルトは、ファシズムや日本の膨張主義に介入するために議会を乗り越えることができなかった一方で、フランス政府とイギリス政府の対応の欠如を批判した。オーストリア併合とミュンヘン協定の後、特にドイツがその協定を破ってから世論が変化したことで、アメリカの戦争生産能力の増強、フランスへの航空機納入、アメリカの再軍備を慎重に開始することができたのである。前例がない四期連続大統領のルーズベルトは、最終的に第二次世界大戦勝利への道を監督することになるが、勝利に到達する前に、あるいは冷戦の始まりを見る前にこの世を去ることになった。

1939 年 8 月、ロシアとドイツは外相会談で **モロトフ-フォン・リッペンントロップ協定 [Molotov-Von Ribbentrop Pact] (#93)** に合意し、全世界を驚愕させた。条約に追加された秘密議定書では、勢力圏が決定された。バルト海とポーランドの大部分はソ連の手に委ねられ、残りのポーランドと中欧はドイツに自由裁量権が与えられた。

スペイン叛乱軍による敵対行為の開始後、共和国軍 (そのほとんどは政治的に左翼に位置していた) は、それらを統一して対抗しようと奮闘した。共産主義者、無政府主義者、穏健な共和主義者は、共通の方向性を見出すことに成功しなかった。統一左翼に到達するには、スターリン主義者の粛清が必要だったが、**スペイン [Spain] (#94)** における共産主義国家支援へのソ連の躊躇により、共和国を救うには遅すぎた。写真は、ラ・パッションナラとして知られるドロレス・イバルリ (1942 年から 1960 年までスペイン共産党書記長)。

1935 年、イタリアはその領土をイタリア帝国に併合するため、アビシニアを攻撃した。この行動は明らかに国際連盟の原則に反していた。フランスとイギリスには、国際連盟の主要国として介入する強い圧力がかかった。ムッソリーニの機嫌を損ねることなく戦争を終結させようと、ホーア外務大臣とラヴァル仏首相は敵対行為の終結と引き換えに、アビシニアがイタリアに領土を大幅に割譲することを定めた **ホーア-ラヴァル協定 [Hoare-Laval Pact] (#95)** を提案した。フランスでは、ラヴァルが人民戦線議員から攻撃される一方、政府の過半数は維持された。イギリスでは、この協定のニュースは左翼と右翼の両メディアに大きな憤りを引き起こした。ホーアが辞任したため、政府はこの協定を撤回した。国際連盟はイタリアに対して制裁を加えるだろうが、イタリアのアビシニア征服を阻止できず連盟の評判を高めることはなかった。

1895 年、イタリアはエチオピアを保護領にしようとした最初の試みで、エチオピアに敗れた。1935 年、ムッソリーニは、この敗北を挽回してイタリアの植民地帝国を拡大するため、**アビシニアの冒険 [Abyssinia Adventure] (#96)** に乗り出した。国際連盟から非難され、(軽い) 制裁を受けたイタリアは、国際連盟を脱退して征服を続け、最終的にアビシニア全土を併合した。アビシニア危機は、連盟の影響



## THE INTERBELLUM YEARS 1920-1939

力をさらに低下させ、同時にフランスやオランダの威信を失墜させ、イタリアをナチス・ドイツとの同盟に近づけた。1941年、連合国が孤立したイタリアの植民地に侵攻した後、亡命していたアビシニアのハイレ・セラシエ皇帝が首都アディスアベバに再入城した。

過激派国家では、野党の活動的なメンバーだけを排除しなければならなかったわけではない。**焚書 [Book Burnings] (#97)** もまた、不要な思想を排除した。ユダヤ人であろうと共産主義者であろうと、無政府主義者であろうと自由主義者であろうと、ファシズムに反対する意見を表現した書物は社会から粛清された。

ミゲル・プリモ・デ・リベラの長男ホセ・アントニオによって設立された**ファランゲ・エスパノラ [Falange Española] (#98)** は、スペインのファシスト党であった。内戦中は国民党側で戦った、ファランゲ党はフランコの指揮下でカーリストと合併し、ファランゲ・エスパニョーラ・トラディシオニスタ・イ・デ・ラス・ジョンズとなり、より広範な民族主義連合となった。

資源不足により経済が破綻の危機に瀕している中、独裁者たちが使おうと切望していた再軍備したばかりの軍隊、**軍事冒険主義 [Military Adventurism] (#99)** は、しばしば歓迎すべき必要性だった。このカードは、チェコスロヴァキアの解体を意味するだけではなく、オーストリアの併合、イタリアのアルバニア侵攻、コルシカ島、エジプト、チュニジア、ユーゴスラビアの侵攻計画を含む。

ムッソリーニの義理の息子、**チアーノ伯爵 [Count Ciano] (#100)** は、第二次世界大戦前の最後の数年間に外務大臣を務めた。その中で彼は、ローマ帝国を再現するドゥーチェの努力を支持し、バルカン半島と北アフリカに対するイタリアの勢力圏の成長に適した条件を作り出すことを試みた。

第一次世界大戦後、アメリカでは孤立主義と不介入主義が高まり、最終的には、**中立法 [United States Neutrality Legislation] (#101)** と総称されるいくつかの議会活動が最高潮を迎えた。米国を戦争に巻き込まないようにする効果があったとは言いがたかったが（武器貸与法を介して骨抜きにされ、日本軍の真珠湾攻撃を受けて廃止された）、かえってアドルフ・ヒトラーを勇気づけ、米国がヨーロッパの戦争に参加しないことを確信させた。

スペイン、イタリア、ドイツ（あるいは戦時中のヴィシー・フランス）におけるファシスト政権に、誰もが賛同したわけではない。公然と反対することが禁止されていたため、**地下抵抗運動 [Underground Resistance] (#102)** が体制に反対することを表明する唯一の方法だった。写真は、戦時中のミュンヘンにおける抵抗運動「白バラ」のメンバー、ゾフィー・ショルである。1943年、彼女は反戦ビラを配布した罪で、22歳の若さで斬首処刑された。

ナチスのイデオログにとって、ドイツ人は最高の民族であったが**生存圏 [Lebensraum] (#103)** を欠き、特にヴェルサイユ条約がもたらした領土問題ではそうだった。多くのドイツ人が、オーストリア・ハンガリー帝国の後継国や復活したポーランドで少数民族として暮らしていた。ドイツ国家は、かつての帝国の栄光とは比べものにならないような残骸国家であった。その一方で、アドルフ・ヒトラーとその取り巻きの最大の野望のひとつは、汎ゲルマン的なゲルマン帝国の建設だった。

**モスクワ見世物裁判 [Moscow Show Trial] (#104)** は、西側諸国に協力して罪に問われたトロツキー主義者のグループに対する3つの裁判だった。スターリンによる大粛清の最も顕著な部分で、ソヴィエト連邦の全体主義的支配を強めようとするスターリンの反対勢力を排除するためのキャンペーンの重要な一環だった。被告人のほとんどが死刑判決を受け、「新しい人間」に取って代わられた。

**ニュルンベルク党大会 [Nuremberg Rallies] (#105)** は、1927年から1938年まで（1933年からヒトラーが権力の座に就くまで、象徴的なルイトポルダレーナで開催された）開催された、ナチス党による大規模なプロパガンダ・イベントである。レニ・リーフェンシュタールによって公式プロパガンダ映画「意志の勝利」[Triumph des Willens] が製作され、1934年に賞を受けた。

ドイツのナチス指導部は、戦争マシンを製造するために大規模な**貿易不均衡 [Trade Imbalance] (#106)** を引き起こした。輸出製品の生産を減らし（原材料の使用を抑えるため）、一方で戦争資材の生産のために原材料の輸入を増やした。その結果、有名な38年の戦争生産減少につながった（オーストリアとチェコスロヴァキアの征服によって解決された）。同様に、イタリア軍はより大規模な再軍備を計画し、それは「最小の大国」の限られた予算をはるかに上回るものであった。1930年代の最後の数年間、西側民主主義諸国も国防費を増やしたが、平時に軸足を戦争経済に移すことはなかった。

ベルリンは、ナチス政権が誕生する前の1931年に**夏季オリンピック・ベルリン大会 [Olympic Berlin Summer Games] (#107)** の招致に成功していた。ヒトラーが政権を握ると、この大会はナチス・イデオロギーと反ユダヤ主義理論を広めるためのもうひとつの手段と見なされた。ユダヤ人選手の参加が禁止された後にボイコットが呼びかけられ、いったんこのルールが撤回されると49カ国の選手が参加した（当時は、近代オリンピック史上最多数だった）。このカードとその能力は、明らかに Twilight Struggle の「オリンピック大会」戦略カードに因んだもので、ジェシー・オーエンスが4つの金メダルのうちの1つに向かっていく姿が見える。

世界恐慌の影響を悪化させた複数の政治・金融スキャンダルを受けて、穏健派左翼（1932年に選出された左翼の多数派に取って代わろうとした）と極右組織（人種差別と権威主義的プロパガンダに重点を置く）の両方が大規模な反議会運動を呼びかけ、**34年2月の危機 [February 34 Crisis] (#108)** をもたらした。左翼の多くにとっては、クーデターの企てに似ていた。パリでの暴動（そして16人の暴徒を死に至らしめた警察の反応）により政府は崩壊し、中道右派のG.ガストン・ドゥメルグ率いる「保守国家主義連立」政権が成立し、社会党と共産党は排除された。

ファシスト政権の主な特徴のひとつは、国民を率いる強い男の必要性である。フューラー、ドゥーチェ、カウディーリョ、あるいは総統と呼ばれようとも、彼は常に国民のより良い未来への導き手である。総統の言葉は法律に優先するというこの原則は、**総統原理 [Führerprinzip] (#109)** と呼ばれる。

**モーリス・トレーズ [Maurice Thorez] (#110)** はフランス共産党の書記長で、コミンテルンとモスクワ政権から密かに指示を受けていた。人民戦線の指導者の一人であるレオン・ブルム政権を支持した。トレーズは戦時中をモスクワで過ごし、戦後はフランスに戻って共産党で指導的な役割を果たした。

## 16.0 再軍備の注釈 [REARMMENT NOTES]

## ドイツ

ヴェルサイユ条約は、ドイツの戦車研究を制限した。1926 年、ドイツとソ連は協定を結び、ドイツがカザン近郊に戦車学校を設立することを認め、カザンとその場所を選んだマルブラント准尉の名をとって**カマ戦車学校 [Panzerschule Kama]**と呼ばれた。1929 年から 1933 年の間、ドイツの企業が新しい戦車の設計をテストし開発する間、約 30 人のドイツ人戦車専門家がここで訓練を受けた。

ヴェルサイユ条約によるドイツ空軍の禁止を回避するため、ドイツ人パイロットは、ドイツ国内では民間航空学校で、ソヴィエト連邦内では**リペツク飛行基地 [Lipezk Airbase]**で秘密裏に訓練が行われた。将来のドイツ空軍エースの多くは、1924 年から 1933 年にかけてリペツクで訓練を受けた。ドイツとソ連の関係が悪化した際、基地は閉鎖された。

アドルフ・ヒトラーが政権を握った直後、ヘルマン・ゲーリングの指揮の下に帝国航空省が設立され、ドイツ国内での航空機の開発、生産、使用をすべて管理することになった。その枠組みの中で、すべての（禁止された）ルフトヴァッフェが形成された。ナチスがヴェルサイユ条約を破棄した後、**ルフトヴァッフェ [Luftwaffe]**は 1935 年 2 月に正式発足した。

ヴェルサイユ条約は、ドイツ国家の軍隊を最大 10 個師団と 10 万人の職業軍人に制限した。1935 年の再軍備計画では、**急速な陸軍拡張 [Rapid Army Expansion]**が予定され、徴兵によってこの軍隊を 36 個師団に増やし、この数は 1937 年半ばに達成された。1939 年のポーランド侵攻までには、ドイツ陸軍は 103 個師団を擁することになる。このような軍備増強は、軍隊の規模を急速に拡大することになり、その代償として予備役将校と下士官の質が低下した。大規模で強力な武力である 1940 年代のドイツ陸軍は、東部戦線で赤軍から被った甚大な損害を補充することができなかった。



1930 年代に設立されたドイツ空軍は、戦略爆撃ではなく戦術的地空目標に対する精度を高めるための**急降下爆撃機ドクトリン [Dive Bomber Doctrine]**が確立され、ルフトヴァッフェの爆撃機隊はユンカース Ju87 などの急降下爆撃機を装備した。この急降下爆撃能力の重視は、Ju88 やハインケル He177 のような爆撃機の開発に支障をきたし、ルフトヴァッフェにはバトル・オブ・ブリテンの成功に必要な戦略爆撃に適した爆撃機がなかった。

ドイツ軍の中で最も優先順位の低い軍であるクリークスマリーネの再軍備は、陸軍や空軍の再軍備よりもはるかに遅れて命じられた。**海軍 Z 計画 [Navy Plan Z]**は、10 隻の戦艦と 4 隻の空母を中心に、イギリスに対抗できる艦隊を 1948 年までに完成させる計画であった。戦争が始まった時点ではこの艦隊の建設に着手しておらず、資源と建造能力の限界から建設計画は断念せざるを得なかった。海軍 Z 計画が第二次世界大戦の行方に与えた主な戦略的影響は、U ボートの

建造に焦点を置くのを限定したことだった。それは、ドイツが商船襲撃に使える潜水艦を数十隻しか持たなかったことを意味し、大西洋の戦いでの敗北につながった。

## フランス

1870 年と 1914 年に繰り返されたドイツ国境を介したフランス侵攻を防ぐため、フランスは**マジノ・ライン [Maginot Line]**を建設した。その**構想 [Conception]**は陸軍大臣アンドレ・マジノよりも先で、その建設に投資するようフランス政府を最終的に説得した人物として、彼の名は不朽のものとなった。大部分が 1939 年末までに**完成した [Completed]**が、フランスとベルギーの国境をカバーすることができなかったため、連合国は 1940 年にディール計画を採択し、フランスの戦いの間にフランスとイギリスの最も機動的な部隊が背後を断ち切られることになった。

少子化による徴兵数の激減により、ナチス・ドイツの脅威の高まりに対抗する必要があり、1935 年 3 月、フランスの下院は**徴兵制の延長 [Extended Conscription]**を決議し、義務兵役を 1 年から 2 年に引き上げた。

1920 年代の投資不足の結果、ドイツの再軍備とルフトヴァッフェのお披露目の後に命じられた大規模な**空軍近代化 [Air Force Modernization]**に必要な航空機を供給するには、フランスの航空産業はあまりに弱体すぎた。新しい労働法に従って航空機産業を国営化しても不十分であることが判明したため、近代的な航空機の大量発注がアメリカ企業に行われた。これらの航空機の到着は、1940 年のフランスの戦いに影響を与えるには遅すぎ、数も少なすぎた。

戦間期のフランス軍は、数百万人の臨時徴集兵をベースにしており、マジノ・ラインの固定防御を増強するためのものだった。速度が遅く、攻勢作戦には不向きだった。この共和国市民軍の存在意義のひとつは、政治エリートが常に抱いていた、軍隊によるクーデターへの恐怖だった。その一方で、シャルル・ド・ゴールや彼の師であるエミール・メイヤーのような軍事思想家は、近代的な空軍に支援された 10 万人の歩兵と 3000 両の戦車からなる**エリート装甲部隊 [Elite Armoured Force]**を中心に置いた。

## イギリス

**実験機械化部隊 [Experimental Mechanised Force]**は、戦車大隊、自動車化機関銃大隊、機械化砲兵連隊、偵察装甲車部隊からなる最初の大規模な完全機械化部隊であった。1927 年に創設されたが 1928 年に解体され、それは装甲車両を既存の歩兵組織に統合しようとする陸軍省の保守的な意向を反映していた。その短い存続期間中、ソーレルズベリー平原での作戦は、とりわけアメリカ、ドイツ、ソ連によって注目された。

戦間期、英国軍は、大陸で勃発した紛争に集中することはできなかった。**帝国の義務 [Imperial Obligations]**は、常に多数の歩兵、航空機、艦船を拘束し、英国海軍は地中海と太平洋のシンガポール基地に大規模な部隊を駐留させていた。1920 年代から 1930 年代にかけて行われた戦闘には、第三次アングロ・アフガン戦争、トルコとアイルランドの独立戦争、ソマリランドでの狂気のムッラーの鎮圧、インド北西辺境の平定、1920 年のイラク叛乱、1936 年のパレスチナの蜂起の鎮圧がある。





海軍航空はまだ黎明期で、**航空母艦 [Aircraft Carriers]** は新たな発明であった。友軍飛行場から遠く離れて展開する必要がある大英帝国海軍は先駆者の1つであり、HMS アーガスは完全に平らな甲板を持つ最初の艦船で、HMS ハーミズは初めから航空母艦として設計され (HMS アーガスは海洋航路船からの改造)、現代の全ての航空母艦に採用されている管制艦橋と長大な飛行甲板を備えていた。大英帝国海軍は、7隻の航空母艦を保有して第二次世界大戦に突入した (そして、さらに58隻を進水させて戦争を終えることになる)。

世界初の独立空軍であるイギリス空軍は、10年ルールの影響に苦しんだ。ルフトヴァッフェが正式にお披露目されたとき、イギリス空軍は数で大きく遅れをとっていた。**イギリス空軍の拡張 [RAF Expansion]** は、一時的に航空機の数を増やすだけでなく (主に、高価な爆撃機よりも安価な戦闘機に重点を置くことで達成された)、英国航空機産業の調和を図った。

連合軍の勝利に決定的な影響を与えた二つの大きな技術向上は、バトル・オブ・ブリテンの勝利に決定的な影響を与えた。スーパーマリン・スピットファイア **[Spitfire]** は第二次世界大戦前と大戦中に最も多く生産された航空機である。バトル・オブ・ブリテン中、より多くのパイロットがホーカー・ハリケーンに搭乗していたが、スピットファイアはより優れた性能を発揮し、ルフトヴァッフェに対するイギリス空軍の勝利の象徴となった。**電波探知と測距 [Radio Detection and Ranging]**、電波を利用して物体の距離、角度、速度を測定する探知システムは、戦間期の多くの軍で同時に開発されていた。電波の反射に関する最初の実験は1886年には行われていたが、連鎖レーダー基地の建設は1936年に始まったばかりである。バトル・オブ・ブリテンの頃には接近する航空機を事前に探知できるようになり、迎撃機の継続的な配備の必要性を減らすことができた。

## USSR

**T-26** 戦車は、イギリスのヴィッカーズ・マーク E をベースにした戦車で、戦間期に最も大量の11,000両以上製造された (スペイン、中国、トルコへの輸出を含む)。スペイン内戦、1930年代末のソヴィエト軍と日本軍との国境紛争で重要な役割を果たし (ほぼ旧式となったが)、1941年のバルバロッサ作戦では赤軍で最も代表的な戦車だった。



**ポリカルポフ I-16 [Polikarpov I-16]** は、ニコライ・ポリカルポフが設計した単葉機である。その革新的な設計は、引き込み式着陸装置と完全に密閉されたコックピットが特徴だった。10,000機以上が製造され、多数がスペインと中国に輸出された。

I-16はスペイン内戦を共和国側で闘い、コンドル軍団にメッサーシュミット Bf109 が導入されるまでスペインの空を支配した。

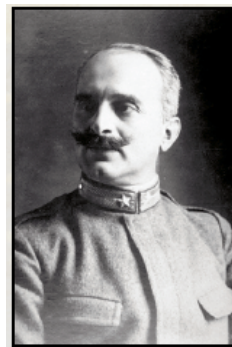
**縦深戦術理論 [Theory of Deep Operation]** とは、ソ連軍の公式ドクトリンであり、(接触時点のみに対して) 戦場の奥深くまで敵軍と交戦し破壊することに重点を置いている。第一次世界大戦とソ・ポ戦争におけるロシアの敗戦の余波を受けて開発されたもので、その特徴は、(機動予備軍の) 連続攻撃による突破口の拡大に重点が置かれていたことである。赤軍将校団の大部分が粛清された後、この理論は支持されなくなって放棄された。バルバロッサ作戦の直後、赤軍は攻勢に転じることができた状態ではなかったが、縦深戦術は勝利のドクトリンとして再確立された。

満州占領後、日本とUSSRは、新たに共有する国境で国境紛争を繰り返した。1939年5月から9月にかけて、ソヴィエト赤軍と日本軍第6軍は、ハルビン川流域で一連の戦闘を繰り返した。5月の数回に及ぶ小競り合いに続き、6月にはソヴィエト軍と日本軍の戦闘が激化した。ソヴィエト軍の砲兵部隊と空軍部隊が増強され、侵攻の規模が拡大した。7月、日本軍は2方面からの挟撃で反撃したが物資が欠乏して手詰まりとなり、ロシア軍の兵力が蓄積されていたため、日本軍は決定的な勝利を収めることができなかった。6月2日にソヴィエト軍部隊の司令官になったジューコフ将軍は、大規模な戦闘爆撃機部隊に支えられた強力な装甲部隊を編成し、8月にソヴィエト満州国境のモンゴル側で日本軍部隊を撃破した。この**ハルビン・ゴールの教訓 [Lessons from Khalkin Gol]** は、後にソ連軍副司令官となるジューコフがナチス・ドイツへの勝利に貢献することになる。

イデオロギーや政治的な違いから、ソヴィエト連邦はヨーロッパ諸国から疎ましく思われていた。一握りの国だけが、やむを得ずより緊密な関係を求めていた。資本主義の民主主義国や独裁主義国との戦争は避けられなかった。赤軍は大規模な攻撃戦争には対応できないと判断されたため、防衛に備えた。モロトフ・フォン・リッペン・トロツキ協定に従って赤軍はポーランドに侵攻し、後にバルト三国にも侵攻する間に冬戦争ではフィンランド軍と膠着状態に陥った。反対に、バルバロッサ作戦では侵攻された。1941年の赤軍はドイツ国内侵攻のための**攻勢準備 [Offensive Preparations]** はしていなかったが、1942年から43年の侵攻はあり得ないことではなかった。

## イタリア

イタリアの将軍ジュリオ・ドゥーエは、軍事航空の最も初期の権威の一人である。1921年、彼はイタリア中央航空局の局長として、戦略爆撃に関する論文を著した。**ドゥーエ理論 [Douhetian Theory]** は、「空の支配」が敵を無害化すると述べている。戦略爆撃は、ドゥーエが説いたような民間人の士気の崩壊や軍需産業を完全に麻痺させるには至らなかったが、空の支配は最終的にイタリア軍とフランス軍の西部戦線に多大な貢献をした。



## EUROPE IN TURMOIL II

戦闘可能な師団の数とその機動性を増やす方策として（陸軍全体の打撃力ではないにせよ）、イタリア王国陸軍の歩兵師団は通常の3個連隊ではなく2個連隊からなる**二単位師団 [Binary Divisions]**に再編成された。このような師団は書類上ではより柔軟であったが、戦時中は兵力不足が致命的となった。

ワシントン海軍条約の批准国のひとつであるイタリアは、1920年代の間には海軍の建造が制限されていた。レジアマリーナは、その**海軍増強 [Naval Buildup]**において、当初は巡洋艦、後には駆逐艦と潜水艦に重点を置き、第二次世界大戦前の最終段階では新戦艦の建造と第一次世界大戦時の戦艦改装に重点を置いた。その結果として、イタリアは世界で5番目に大きな海軍を擁して第二次世界大戦に参戦することになった。

**鋼鉄の盟約 [Pact of Steel]**は、ドイツとイタリアとの間の軍事的・政治的同盟で、1939年5月に合意・調印された。ドイツとイタリアの外交政策を一致させる1936年の秘密議定書並びに1937年のイタリアの反コミンテルン条約調印で、この協定はローマ-ベルリン枢軸の最終段階であった。

### スペイン

**アフリカ軍 [Army of Africa]**とは、モロッコのスペイン保護領に駐屯するスペイン陸軍部隊の名称である。1920年代には、スペイン陸軍の中で最も効果的な戦闘部隊であった。スペイン内戦では、第二次スペイン共和制に対抗する民族主義勢力の中核を担った。

**エスパーニャ級ドレッドノート [España Class Dreadnought]**型戦艦は、新生スペイン海軍の中核となった。資源と海軍インフラの限界から1隻は暴風雨の被害で失われ、他の2隻は1937年に失われた（1隻は国民党軍に拿捕された後に触雷、1隻は爆発事故により）。

1936年のスペイン人民戦線の選挙勝利の後、**不満分子将校 [Dissatisfied Officer Corps]**がクーデターについて議論し始めた。共和国政府は影響力のある将官を解任してより地位の低い場所に異動させ（フランコはカナリア諸島へ、ゴデッド・ロピスはバレアレス諸島へ、モラはバレアレス諸島へ）、ファランゲ党の指導者は投獄されたが、陰謀を阻止するには十分ではなかった。

スペインでは、**特別緊急介入 [Special Emergency Intervention]**（或いはPronunciamiento）は、軍事クーデターの婉曲表現として使われる。1936年のPronunciamientoの失敗により、3年間の血なまぐさい内戦が始まった。

### 小協商国

**外国製航空機の輸入 [Foreign Plane Import]**は、小協商国の中で緩やかにつながっている様々な国家が、庇護を切実に求めている大国の機嫌を取ろうとする試みだった。

1859年に創業したシュコダ社は、やがてオーストリア-ハンガリーきっての兵器生産者となった。所在地はビルゼニで、第一次世界大戦後にチェコスロヴァキア共和国成立後はチェコ軍需産業の至宝と



なった。特にシュコダ戦車工場はLT-35およびLT-38戦車を生産し、それぞれパンツァー35(t)とパンツァー38(t)として知られる。第二次世界大戦中、チェコスロヴァキアは解体され、ボヘミア・モラヴィア保護領が形成された。

小協商国の存在理由は、2つしかなかった。ハプスブルク家復興の恐れ（1930年代には、少なくともその可能性は低かった）と、ドイツの侵略に対する恐れ（1930年代に入ると、その可能性が高まった）である。ドイツに対抗する唯一の方法は（他の大国からの援助を除けば）、結束するしかなかった。相互不信と未達成の領有権主張とが相まって、緩やかな同盟国メンバー間の政治的・軍事的関係が毒されていたため、軍事同盟に続く**統合幕僚会議 [Joint Staff Talks]**が実現することはなかった。小協商国の各メンバーは、軍事侵攻、分割、政治的圧力のいずれにせよ、ドイツの勢力下に入ることになった。

#### プレイの例で使用される注意

**赤文字**は、左翼カードの名称に使用される。

**青文字**は、右翼カードの名称に使用される。

**緑文字**は、中立／得点カードのために使用される。

ラウンドは、**ラウンド##**のごとく表示され、左の数字はターンで右の数字はラウンドである。

あるスペース内の支援の量は（#、#）のごとく表示され、左の数字はそのスペース内の左翼支援の量、右の数字はそのスペース内の右翼支援の量である。

あるプレイヤーがそのスペースを支配したら、その支援ナンバーは**太文字**になる。

支援ナンバーに続くアスタリスク（\*）は、過激派を示す。



## 17.0 プレイの例 [EXAMPLE OF PLAY]

下記は、*Europe in Turmoil II*：戦間期のゲーム開始ターンの例で、クリス（右翼プレイヤー）とタム（左翼プレイヤー）によってプレイされます。

## 開始時の手札

初期セットアップ（3.1～3.5）を実行した後、クリスとタムは狂乱の20年代デッキから8枚の開始時手札を引きます。

右翼プレイヤーのクリスは、以下の8枚のカードを引きます。：

- ・フランスの得点 [France Scoring]
- ・ホルティ提督 [Admiral Horthy]
- ・ケロッグ-ブリアン協定 [Kellogg-Briand Pact]
- ・ミゲル・プリモ・デ・リベラ [Miguel Primo de Rivera]
- ・ワシントン海軍条約 [Washington Naval Treaty]
- ・アヴェンティノーの脱退 [Aventine Secession]
- ・ロカルノの精神 [Spirit of Locarno]
- ・戦時債務 [War Reparations/War Debt]

- ・フリードリヒ・エーベルト [Friedrich Ebert]
- ・ローマ進軍 [March on Rome]
- ・トマーシュ・マサリク [Tomáš Masaryk]
- ・ヨゼフ・ピウスツキ [Józef Piłsudski]
- ・ウォール街大暴落 [Wall Street Crash]
- ・アメリカ人国外居住者 [American Expatriates]
- ・ウィンストン・チャーチル [Winston Churchill]
- ・クロワ・ド・フー [Croix-de-Feu]

右翼プレイヤーにとって、確かに興味深い手札です。左翼に関連するカードは少数で、プレイはそれほど厳しくありません。早期にフランスの得点を引いたことは、右翼プレイヤーにとって有利です。なぜならば、これを早期にプレイするか（左翼プレイヤーがフランス内で強力な位置を獲得する前に）、又は代わりにフランスの得点をプレイする前に（多数の）OPsをフランス内で消費し、占領獲得を試みることを意味するからです。イタリア又はドイツの得点はなく、これらのカードのどちらかが左翼の手札にある疑念が常に起こります。左翼がこれら得点領域カードのどちらかをプレイするのであれば、クリスは対応しなければなりません。ゲームの初期には、ハンガリーの隣接諸国に右翼の存在はなく、ホルティ提督はオペレーションのためにプレイすることになりそうと、ミゲル・プリモ・デ・リベラも同様です。アヴェンティノーの脱退は、タムがローマ進軍をプレイしない限り、やはりオペレーションのためにプレイすることになりそうです。

タムは、彼女があまりにも強力な右翼のイベントを抱えすぎていることに呆れながら気づきます。この手札を無難にこなすには、右翼イベントが多すぎます。得点カードはなく、タムが同時に全3つの得点領域に注目しなければならないことを意味します（クリスから明らかなシグナルがある前に）。一方、フリードリヒ・エーベルトとトマーシュ・マサリクは良いカードで、彼女の残りの手札のダメージを修復するためにオペレーションでプレイされなければならないでしょう。

## 随意 SP の配置 (3.7 を参照)

タムは、1 SP を Lombardy (1/0)、1 SP を Hamburg (1/0)、1 SP を Algeria (1/0) 内にオープンします。ゲーム開始時の左翼は比較的イタリアが弱く、Lombardy の主張はそれを解決する長期的な方策です。右翼はアヴェンティノーの脱退をプレイするチャンスですが、Provence を介して Lombardy を支配するための道路すらあります。Hamburg の主張は、左翼プレイヤーに、少なくとも現在において、ドイツ内の5つの戦場の3つの支配を与えます。French Catholics（ジャンヌ・ダルクの列聖の前）と Alsace-Lorraine（通常、左翼はフランスの再軍備記録欄を介して支配することが容易です）はカウントせず、フランス内には3つの戦場があり、Paris と Action Française はそれぞれ親左翼と親右翼です。Algeria の主張は、フランスを支配するためのプレイです。

クリスは、1 SP を Action Française (0/3\*)、1 を Egypt (0/1)、1 を Fiume (0/1)、1 を East-Prussia (0/4) 内に置くことで対応します。スペースを支配し支援チェックを実行するためのいくつかの配置、領土を広げるためのいくつかの配置です。

タムは、1 SP を Silesia (1/0) と 1 SP を Austria (2/0) 内に置いて終了します。Austria の支配は、支援チェックから Hungary と Bavaria の両方を防御し、一方で Silesia は Berlin と Poland の両方を防護／攻撃します。

## 随意 SP の配置 (3.8 を参照)

クリスは、自身の過激派を Hamburg (1/0\*) 内に置きます。この過激派は二重の目的に従事し、Hamburg 内への支援配置を認め、又はデンマークやノルウェーのような低安定度の隣接スペースに対する支援チェックをアシストします。

タムは、その過激派を Alsace-Lorraine (0\*/0) 内に置きます。フランスは Paris と共にあり、現在は顕著に防護されていません。早期のフランスの得点は、たとえ過激派なしでも、右翼プレイヤーに支配を与えることが可能です。

## ターン1

両プレイヤーは、7ラウンド中に交互に1枚のカードをプレイし、それぞれが7つの機会を持ちます。

## アクション・ラウンド1.1



－クリスのプレイヤー

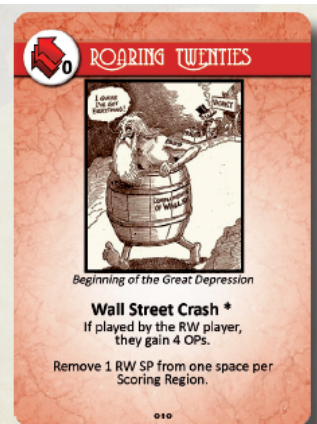


－タムのプレイヤー

## アクション・ラウンド1.2



－クリスのプレイヤー



－タムのプレイヤー

右翼：Alsace-Lorraine 内の過激派は哀れで、フランスを占領することは相当に困難となります。タムは、明らかに Algeria に関心を持っています。複数の選択肢があります。最初に、クリスはフランスを支配する Algeria 内に 4 SP を置くために自身の 4 OPs カードのどれかをプレイできます。二者択一で、同じ 4 OPs は Paris 内の支援チェックを成功させるために役立ちます。ただし、両方の場合、左翼は元に戻すいくつかの方法を持ちます (Alsace-Lorraine を奪取することで、フランスを手詰まりにします)。フランス内の問題を現実的に強制するための十分な手札なしで (しかも、左翼がそのようなカードを持っている恐れがある中)、クリスはフランスの得点カードをプレイして Paris 内で支援チェックを行います。彼はフランスの得点それ自体からサイの目に +2 修正を、French Catholics の支配を通して別の +1 修正を持ちます。ただし、タムの Nord/Pas-de-Calais の支配からの -1 修正、Alsace-Lorraine 内の彼女の過激派のため別の -1 修正を持ちます。彼は 3 を振り、+1 だけ修正されて実質の合計は 4 です。Paris の 2 の安定度に 2 を掛けて差し引くと、残りは 0 です。4 以上のサイの目であれば、タムの Paris 支配を打破していました。両プレイヤーは、フランス内に 1 戦場を持って終了し、それが唯一の存在で支配がないため得点は 0 勢力に留まります。

左翼：フランスの得点は、結果的に不発に終わりましたが (むしろ、通常はゲーム後半に左翼プレイヤーにとって恩恵です)、もっと悪い結果になっていたかもしれません。彼女の最初のアクション・ラウンドについて、タムはヨゼフ・ピウスツキをプレイします。これは右翼に関連するカードなので、オペレーション・ポイントのためにのみ使用でき、加えてイベントが発生します (OPs を消費する前か後のどちらか)。彼女は opts を先行させ、ロシア (5\*/1) 内に支援マーカーを置くことで彼女の両 OPs を消費します。イベントはポーランド (2/3) 内に 2 RW SP を置き、次いで右翼プレイヤーにポーランド内での支援チェックを与えます。右翼は +1 修正 (East-Prussia の支配のため) とイベントのために +4 修正を持ちます。ただし、左翼のロシア支配のために -1 修正とロシア内の左翼過激派のために -1 修正も持ちます。クリスは 4 を振り、実質 +3 によって修正されて合計は 7 です。ポーランドの 6 の安定度と比較して、ポーランド・スペース (1/3) から 1 左翼 SP を取り去ります。その実施に続き、ヨゼフ・ピウスツキのカードはゲームから取り去られます。

右翼：タムは得点のどちらも手札にしていけないようなので、盤上の存在感を高める必要があります。クリスはホルティ提督イベントを持つことを望み、右翼支配下スペースでハンガリー・スペースの包囲を試みます。ミゲル・プリモ・デ・リベラが、オペレーションのためにプレイされます。クリスは、ポーランド (0/2) の支配を取るために 1 OP を、Slovenia (0/2) 内に 2 SP を置くために 2 OPs を置きます。これは右翼プレイヤーに関連するイベントなので、右翼プレイヤーによってオペレーションのために使用されたときには発生せず、捨てられます。

左翼：ウォール街大暴落は、そのイベントのためにプレイされます。タムは UK Parliament (0/1)、Action Française (0/2\*)、East-Prussia (0/3)、Slovenia (0/1)、Fiume (0/0)、Spanish Catholics (0/1) から右翼 1 SP を取り去ります。



## アクション・ラウンド1.3



ークリスのプレイー

右翼：ダメージ・コントロール！ タムが行ったことの全てが同時に修復される必要はなかったので（単一のアクション・ラウンドでは不可能でもあります）、クリスは**ケロッグ・ブリアン協定**をプレイします。クリスは最初にイベントの誘発を選択し、緊張度を0に減少させて緊張度マーカーを裏返します。次いで、Slovenia (0/2) と East-Prussia (0/4) の両方に1支援を置くために自身の2OPsを使用します。タムは未だ Fiume に到達できないので、埋めておくことが不可欠です。UK とスペインの得点は遙か先で、一方フランスの得点はすでに発生しているため、これらのスペースを修復する優先度はありません。

左翼：タムは、危険な右翼のイベントをまだ3つ抱えています。プレイヤー諸氏はターン毎に2つのイベントを回避でき（1枚を手札に保持し、他方を再軍備カードとして使用することで）、それでも彼女は少なくともそれらの1枚をプレイする必要があります。彼女は**クロワ・ド・フー**と**ウィンストン・チャーチル**の回避を選択し、**ローマ進軍**のプレイを決めます。イベントは最初に発生することが認められ、右翼の穏健度を1だけ11へ減少させ、クリスは過激派を Libya (0/0\*) 内と1つを South Tyrol (0/0\*) 内に置き、全4 SP を Blackshirts スペース (0/0\*) から Rome (1/4) へ再配備します。彼女の4OPs で、タムは Berlin (3\*/0) と Lombardy (3/0) を奪取します。

## アクション・ラウンド1.4



ークリスのプレイー

右翼：ホルティが輝くときです。クリスは、**ホルティ提督**イベントをプレイし、1 SP と1過激派をハンガリー (2\*/1\*) 内に置き、次いで支援チェックについてサイを振ります。Slovenia の支配についての+1とハンガリー内の過激派について+1を受取り、一方でタムはオーストリアの支配についての-1罰則と彼女のハンガリー内の過激派について-1を提供します。クリスは5を振り、3OPsによって修正されて合計8、又は（ハンガリーの二倍の安定度を差し引いた後）、合計4支援の変更です。最初に、2左翼支援が取り去られます。次いで、タムの過激派が取り去られます。最後に、最終ポイントがハンガリー (0/2\*) 内に支援と共にクリスに提供されます。クリスはすでにハンガリー内に過激派とスペースを支配するための十分な SP を持つため、6を振ることは追加のボーナスを与えません。

左翼：ハンガリーを失ったのは厳しいものの、それに関してできることはありません。タムは僅かな息抜きを使用し、手札の**ウィンストン・チャーチル**カードを処分して再軍備を試みます。どの記録欄で再武装を行うか迷ったとき、彼女はUK（2OPsのみでは難しく過ぎます）、スペイン（十分な価値がない）、ドイツとイタリアのそれ（最初の進捗ボックスは、親右翼の影響を持ちます）、USSR のそれ（過激派を含む興味深いスペースがありません）を却下します。彼女はフランスのそれを取ることにして（Alsace-Lorraine での2 SP のが、他の場所の1 SP よりも確実性が高い）、3を振ります。+1（左翼側に裏返された再軍備マーカーからの）と+2OPsで修正され、Maginot Line Conception へ前進するために十分高く、Alsace-Lorraine (3\*/0) 内に2 SP を置きます。

## EUROPE IN TURMOIL II

### アクション・ラウンド1.5

### アクション・ラウンド6



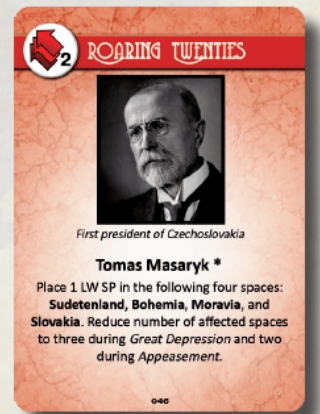
#### ークリスのプレイー



#### ータムのプレイー



#### ークリスのプレイー



#### ータムのプレイー

**右翼:** クリスは、自身の何らかの再軍備を行うことでこれに対応し、試みのために **ロカルノの精神** を差し出します。4-OPs カードを使用しているので、小協商国記録欄を選択する前に UK の再軍備（並びに他のカードを捨て札する可能性）によって試みます。彼は4を振ります（修正後に8）。彼はマーカーをその右翼+1面へ裏返し、外国製航空機の輸入ボックスへ進め、1 SP を Hamburg スペース（1/1\*）内へ置きます。

**左翼:** クリスがドイツのために闘うことを望むのであれば、タムとしては望むところです！ 彼女はオペレーションのめに **フリードリヒ・エーベルト** をプレイし、ノルウェイ・スペース（2/0）内に2左翼 SP を置きます。ノルウェイはドイツと大英帝国に隣接しており、勢力の優れた源になる可能性があります。タムは2オペレーション・カードのみを保持しているので、1アクション・ラウンドで Hamburg を奪取できないため、スペースの包囲に進むことに決めました。

**右翼:** いまやイタリアでの **アヴェンティーノの脱退** が極めて値打ちがある一方、クリスはドイツに行つてそのオペレーション・ポイントのためにカードをプレイすることに決め、全3つを Hamburg（1/4\*）内に置きます。

**左翼:** タムは、Bavaria スペース（3/0）内に2 SP を置くため、**トマーシュ・マサリク** の2 OPs を使用します。



# THE INTERBELLUM YEARS 1920-1939

## アクション・ラウンド7

## ターン1の終了



ークリスのプレイヤー


ータムのプレイヤー

**右翼：**4 OPs のために**戦争債務**がプレイされ、クリスはオーストリア内で支援チェックを行います。彼は3の目を振り、+4 (OPs)、+3 (South Tyrol とハンガリーの過激派にプラスしてハンガリーの支配)、-4 (オーストリア・スペースの安定度を二倍) によって修正されます。差は5で、2左翼支援がオーストリア・スペースから取り去られ、2右翼支援が加えられ、右翼の過激派が置かれる(0/2\*) ことを意味します。

**左翼：**どうしようもありません。中央ヨーロッパは、徐々に右翼に傾きつつあります。タムは**アメリカ人国外居住者**をプレイし、Action Francaise スペース (1\*/2\*) に支援と過激派を置くためにイベントを使用します。

フランスは左翼プレイヤーによって支配されますが、その得点カードはすでに捨て札されており、これは主として短期的ではなく長期的な優位性です。Rhineland の追加に先立ち (イベント・プレイを介してラインラント非武装化マーカーの撤去を通して)、ドイツは4つのみの戦場を持ち、現在は2対2に分かれています。ドイツの得点が次のターンに発生しても、どちらのプレイヤーもドイツの支配を期待できませんが、左翼の戦場は右翼のそれよりも脆弱です (それぞれ右翼の過激派に隣接するため)。どちらのプレイヤーもイタリアで非常に存在感を示し、プレイヤー諸氏は間もなくこの得点領域 (並びにその多数の隣接独立領域) に介入を始めなければなりません。

## 18. 地名索引 [GAZETTEER]

|  フランス・スペース | (2021 年) 現在の状況   |
|---|--|
| アクション・フランセーズ [Action Française]   | 1936 年に解体されたがヴィシー政権の下で復活し、1944 年にもう一度解体したが、1947 年に再建されて今日のフランスでも健在である。 |
| アルザス・ロレーヌ [Alsace Lorraine]   | フランス第五共和制内の領域  |
| アキテーヌ [Aquitaine]   | フランス第五共和制内の領域  |
| フランシュ・コンテ [France-Comte]  | フランス第五共和制内の領域  |
| フランス・カトリック教会 [French Catholics]   | フランス市民の 60%程がいまだにカトリック教徒として識別され、15%が教えを実践している。                         |
| ノルマンディ／ブルターニュ [Normandy/Brittany]   | フランス第五共和制内の領域  |
| ノール／パ・ド・カレー [Nord/Pas-de-Calais]  | フランス第五共和制内の領域  |
| パリ [Paris]  | フランス第五共和制 (1958 年に発足) の首都で、1951 年に欧州石炭鉄鋼共同体を創設した (フランス第四共和制の下で)。       |
| プロヴァンス [Provence]   | フランス第五共和制内の領域  |


| フランス植民地スペース   |  |
|---|--|
| アルジェリア [Algeria]  | 1962 年とアルジェリア戦争以来、アルジェリア民主人民共和国。1991 年と 2002 年との間に内戦に直面した。                                 |
| フランス領モロッコ [French Morocco]                              | モロッコ王国 (1956 年以来フランスから独立して再統一された)。   |
| フランス委任統治領シリア [French Mandate for Syria] とレバノン [Lebanon] | 1963 年以来シリア・アラブ共和国 [Ba'athist Republic of Syria]、2011 年以来内戦状態にあり、1943 年以来様々な征服者の下でレバノン共和国。 |
| チュニジア [Tunisia]   | 1956 年以来、チュニジア共和国 (2011 年のチュニジア革命以来、民主主義政体)  |


|  イタリア・スペース | (2021 年) 現在の状況                        |
|---|---------------------------------------|
| アブリア [Apulia]   | イタリア共和国の領域                            |
| 黒シャツ隊 [Blackshirts]   | ファシスト政権の没落に続く 1943 年に解体された国家保安志願民兵組織。 |
| カンパニア [Campania]  | イタリア共和国の領域                            |
| ドデカネス諸島 [Dodecanese]  | 1947 年以来、ギリシャ内の領域                     |
| フィウメ [Fiume]  | クロアチア共和国内の都市、リエカ [Rijeka]             |
| ロンバルディア [Lombardy]  | イタリア共和国の領域                            |
| ローマ [Rome]  | イタリア共和国の首都。1951 年に欧州石炭鉄鋼共同体を創設した。     |
| シチリア [Sicily]   | イタリア共和国の領域                            |
| 南ティロル [South Tyrol]   | イタリア共和国の領域                            |
| トスカーナ [Tuscany]   | イタリア共和国の領域                            |
| ヴィットリオ・エマヌエーレ III 世 [Victor Emmanuel III]   | イタリアの君主制は、1946 年に廃止された。               |

| イタリア植民地スペース |   |
|-------------|---|
| リビア [Libya] | 1951 年以来独立し、2011 年以来共和国 (ただし、以来内戦に巻き込まれた) |




# THE INTERBELLUM YEARS 1920-1939

|  ドイツ・スペース | (2021 年) 現在の状況  |
|--|---|
| バイエルン [Bavaria]  | バイエルン州  |
| バーデン＝ヴュルテンベルク [Baden-Württemberg]  | 1952 年以来バーデン＝ヴュルテンベルク州  |
| ベルリン [Berlin]  | ドイツ連邦共和国の首都（1990 年にドイツ民主共和国と統合された）、1951 年に欧州石炭鉄鋼共同体を創設した。                 |
| 東プロイセン [East-Prussia]  | 第二次世界大戦後のドイツ民族追放に続き、ポーランド共和国とソヴィエト連邦との間で分割された（現在はリトアニアとロシア連邦のカリーニングラード州）。 |
| ハンブルク [Hamburg]  | ハンブルクの自由ハンザ同盟都市は、ドイツの州。   |
| ハノーファー [Hanover]   | ドイツ低ザクセン州の州都  |
| マクデブルク [Magdeburg]   | ザクセン＝アンハルト州の州都  |
| ポメラニア [Pomerania]  | フォアポンメルン（ドイツ）とポーランド共和国（第二次世界大戦後のドイツ民族追放に続き）との間で分割された。                     |
| ラインラント [Rhineland]   | ヘッセン州   |
| ザクセン [Saxony]  | ドイツ連邦共和国内のザクセン州   |
| シュレージエン [Silesia]  | 第二次世界大戦後、ポーランド共和国の一部。   |
| テューリンゲン [Thuringia]  | ドイツ連邦共和国内の州   |

|  UK スペース | (2021 年) 現在の状況  |
|---|---|
| ジブラルタル [Gibraltar]  | イギリスの海外領土   |
| ウィンザー朝 [House of Windsor]   | 現在は女王クイーン・エリザベス II 世が統治する大英帝国の支配王朝。                                   |
| ロンドン [London]   | グレート・ブリテン及び北アイルランド連合国の首都、2016 年の欧州連合離脱是非を問う国民投票に続き、2020 年に欧州連合から離脱した。 |
| ミッドランズ [Midlands]   | イングランド内の領域  |
| 北イングランド [Northern England]  | イングランド内の領域  |
| 北アイルランド [Northern Ireland]  | 大英帝国内の構成国   |
| 議会 [Parliament]   | 大英帝国の最高立法機関   |
| スコットランド [Scotland]  | 大英帝国内の構成国   |
| ウェールズ [Wales]   | 大英帝国内の構成国   |

| UK 植民地スペース                                     |  |
|--|--|
| イギリス委任統治領パレスチナ [British Mandate for Palestine] | 1948 年以来イスラエルの州で、1948 年以来パレスチナの州（1993 年以来、西岸とガザ商業地区は自治区）。    |
| エジプト [Egypt]                                   | エジプト・アラブ共和国（1922 年以来公式に独立し、1956 年以来非占領国、1961 年以来もはやシリアと非統合）。 |
| 大英帝国&英連邦 [Empire & Commonwealth]               | 一部では英連邦をあらわし、一部では非植民地化国（特にインド）                               |

## EUROPE IN TURMOIL II

|  スペイン・スペース | (2021 年) 現在の状況   |
|---|--|
| アンダルシア [Andalusia]  | スペイン内の領域   |
| バレアレス諸島 [Balearic Islands]  | スペイン内の領域   |
| バスク地方 [Basque Country]  | スペイン内の領域   |
| カタルーニャ [Catalonia]  | スペイン内の領域   |
| ガリシア [Galicia]  | スペイン内の領域   |
| ラ・マンチャ [La Mancha]  | スペイン内の領域   |
| マドリッド [Madrid]  | スペイン王国の首都 (1975 年のフランコの死去に続き、1978 年に立憲君主制として民主主義が復活した)。  |
| 君主制主義者 [Monarchists]  | 1975 年のフランコの死去に続き君主制が復活した (最初のファン・カルロスと現在のブルボン家のフェリペVI世の下)。ブルボン-パルマ家のカルロス王子、パルマとピアチェンツァ公爵は、現在のカルロス主義王位請求者。 |
| スペイン・カトリック教会 [Spanish Catholics]  | スペイン市民の 58.6%は、いまだにカトリック教徒として識別され、18.6%が教えを実践している。   |
| バレンシア [Valencia]  | スペイン内の領域   |

| スペイン植民地スペース                 |                               |
|-----------------------------|-------------------------------|
| スペイン領モロッコ [Spanish Morocco] | モロッコ王国 (1956 年以来スペインから分離独立した) |

|  小協商国スペース | (2021 年) 現在の状況  |
|--|---|
| ベッサラビア [Bessarabia]  | 1991 年以来モルドヴァ共和国  |
| ボヘミア [Bohemia]   | チェコ共和国内の領域。チェコ共和国は、1993 年のビロード離婚以来独立国となっている。2004 年以来欧州連合の一員。                      |
| ボスニア [Bosnia]  | 1992 年以来ボスニアとヘルツェゴヴィナ。欧州連合に加盟申請中。   |
| クロアチア [Croatia]  | ユーゴスラヴィアからの独立宣言に続く 1991 年以来クロアチア共和国。2013 年以来欧州連合の一員。                              |
| モラヴィア [Moravia]  | チェコ共和国内の領域。   |
| ルーマニア王族 [Romanian Royalty]   | 1947 年に国王ミハイ I 世が退位した。現在のルーマニアは共和制で、2007 年以来欧州連合の一員。                              |
| ルテニア [Ruthehenia]  | ウクライナの一部。   |
| セルビア [Serbia]  | 2006 年以来セルビア共和国で、2014 年以来欧州連合加盟交渉中。   |
| スロヴァキア [Slovakia]  | 1993 年のビロード離婚 (1989 年の共産主義統治終了に続く、チェコスロヴァキアの平和的話し合い) 以来スロヴァキア共和国。2004 年以来欧州連合の一員。 |
| スロヴェニア [Slovenia]  | 1991 年以来スロヴェニア共和国、2004 年以来欧州連合の一員。  |
| ズデーテンラント [Sudetenland]   | チェコ共和国内の領域。第二次世界大戦後、ドイツ系ズデーテン人の大部分が西ドイツに追放された。                                    |
| トランシルヴァニア [Transylvania]   | ルーマニア内の領域。  |



## THE INTERBELLUM YEARS 1920-1939

| 独立スペース                                 | (2021 年) 現在の状況  |
|--|---|
| アルバニア [Albania]                        | アルバニア共和国  |
| オーストリア [Austria]                       | オーストリア共和国、1995 年に欧州連合に加盟。                                       |
| バルト諸国 [Baltic States]                  | エストニア、ラトヴィア、リトアニアは、第二次世界大戦後はソヴィエト連邦の一部で、1990～1991 年の時期に独立を回復した。 |
| ベルギー [Belgium]                         | ベルギー王国、1951 年の欧州石炭鉄鋼共同体創設の一員。                                   |
| ブルガリア [Bulgaria]                       | ブルガリア共和国、2007 年以来欧州連合の一員。                                       |
| ダンツィヒ-ポーランド回廊 [Danzig-Polish Corridor] | グダニスクとして、ポーランド共和国の一部。   |
| デンマーク [Denmark]                        | デンマーク王国、1973 年以来欧州共同体の一員。                                       |
| フィンランド [Finland]                       | フィンランド共和国、1995 年以来欧州連合の一員。                                      |
| ギリシャ [Greece]                          | 軍事政権の没落に続き、1974 年以来ギリシャ第三共和制、1981 年以来欧州共同体の一員。                  |
| ハンガリー [Hungary]                        | 1989 年以来ハンガリー共和国、2004 以来欧州連合の一員。                                |
| アイルランド自由国 [Irish Free State]           | アイルランド共和国 (1937 年以来)、1951 年の欧州石炭鉄鋼共同体の一員                        |
| ネーデルラント [Netherlands]                  | ネーデルラント王国、1951 年の欧州石炭鉄鋼共同体創設の一員。                                |
| ノルウェイ [Norway]                         | ノルウェイ王国   |
| ポーランド [Poland]                         | ポーランド共和国、2004 以来欧州連合の一員。  |
| ポルトガル [Portugal]                       | 1974 年以来ポルトガル共和国 (エスタド・ノヴォの終了に続く)、1986 年に欧州経済共同体に加盟した。          |
| スウェーデン [Sweden]                        | スウェーデン王国、1995 年以来欧州連合の一員。                                       |
| スイス [Switzerland]                      | スイス連邦   |
| トルコ [Turkey]                           | トルコ共和国、1963 年以来欧州経済共同体の随員                                       |
| USSR                                   | 1989 年に解体し、(欧州内の) ロシア連邦、ウクライナ、ベラルーシ共和国、モルドヴァ共和国に分かれた。           |
| バチカン [Vatican]                         | バチカン市国  |

### Credits

**Game Design:** Kris Van Beurden

**Graphic Design:** Bill Morgal

**Card Design:** Kris Van Beurden, Bill Morgal

**Playtesting:** Tâm Dang Vu, Enrique Carro, Eddy Sterckx, Severijn De Wilde, GermanMike, Marco Poutré, Frans Houter, Chris Cooper, Remco "I beat Kris" Verbeek, Jack Stalica, David Schoellhamer

**Proofreading:** Richard Jennings

**Production:** Ken Dingley and Bill Thomas for Compass Games, LLC.

**Cover:** Destroyed Building Burning by XtravaganT (Stephan Karg)